

令和 5 年度

専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業

これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業
及びその有効性を確認する実証研究事業

成果報告書

令和 6 年 3 月

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター

本教育プログラムは、文部科学省の教育政策推進事業
委託費による委託事業として、《学校法人敬心学園 教育研
究開発センター》が実施した令和 5 年度「専門職業人材の
最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進
事業」の成果物です。

成果報告書の発刊にあたって

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」にご協力いただいた関係者をはじめ、皆さまに心より感謝申し上げます。

本事業は、医療・介護分野のフロンティアに取り組む企業・専門学校・公的機関などが連携しスキル・知識のアップデートのための実践プログラムの開発、およびそのプログラムに基づく講座等が安定的・持続的に確保できる体制を構築することを目的としています。

世界的な高齢化が進んでいる今日、世界経済はケア経済を構築しなければならない時代になっており、それを支えるケア人材の養成が求められています。ケア人材は、直接的な高齢者ケアや保育ケアだけでなく教育訓練に携わる人々も含まれています。ケア労働をディセントワーク(decent work、働き甲斐のある人間らしい仕事)として確立すること、ケア人材の労働生産性を高めること、およびケアに従事する人々のウェルビーイング(well-being、幸福、福利)を高める環境を整備することが大きな世界的課題になっています。

そのような背景の下で、職業教育訓練機関は、学ぶ人々が、ケアという仕事のレベル別の達成能力(コンピテンシー、責任と裁量権)を獲得するために、どういう知識が分かるようになり、どういうスキルができるようになることを目指すのかを、具体的なアウトカムとして設定し、その実現に向けての教育・訓練プログラムを開発することが求められています。世界の先進国が構成している経済協力開発機構(OECD)は、短期間の限定的な課題の職業教育訓練に対して付与されるマイクロ・クレデンシャル(学習内容をより細分化して、細分化された単位ごとに個別に認証する方式)が、卒業認定や学士認定のような長期間にわたる大きな課題を教育するマクロ・クレデンシャルを基盤とする既存の教育に対する改革のひとつとして注目されています。そうでなければリカレント教育やリスキリング教育は前進しないからです。このような大きな世界的潮流を見定めながら、この文科省事業を実施していかなければなりません。

EUから始まって、今やASEAN(東南アジア地域の国々が加盟する地域協力機構)にまで普及している資格職業資格枠組み(Qualifications Framework, QF)は、職業資格のみならず准学士、学士、修士、博士学歴資格の国際的調和化を目指しています。しかし、これに対応して、日本で構想された介護プロフェッショナル段位制度は、現在のところ棚晒しにされているようです。その現状は、現場から変えていく必要があります。日本の介護は、歴史的には老人保健福祉行政や介護保険制度によって発展を促進されたのですが、反面その制度に閉じ込められて、制度外のケアの展開可能性やケア事業の開発可能性を削いでいたのかもしれない。今回は、そういう残された課題への取り組みの第一歩になったのではないかと思います。今年度は「ケアx〇〇」と題した6講座(介護予防、外出支援、介護

ICT/DX、マネジメント、ナチュラルセラピー、多様な人との関り)を開設して、参加者とともに未来のケアにむけての挑戦課題を整理しました。

いよいよ来年度以降の本事業は、介護職のアップデートプログラムの開発を目指しますが、さらに具体的な取り組みになるでしょう。日本の介護を世界に誇れるようにレベルアップし、ケアに従事する人々が、あらためてケアの意義を認識し、新しい知識とスキルを活かせるようになり、将来に向けて希望を持って働けるようになることに寄与する研究開発になればと期待しています。いずれは、この事業で研究開発されたプログラムが、職業教育訓練校や関連する産業界の新しい事業分野で実用化されていくことを、心から願っております。

学校法人敬心学園
職業教育研究開発センター センター長
事業代表 小川全夫

令和5年度

専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業

これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる
最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業

目次

I 事業概要

1. 事業名	6
2. 事業の趣旨・目的	
(1) 当該学び直し講座が必要な背景について	7
3. 事業計画	
(1) 具体的な取組の全体像	13
(2) 本年度の計画	15
(3) 本年度の取組に関するスケジュール	17
4. 事業の実施体制	17
5. 組織体制	
(1) 教育機関	18
(2) 企業・団体	19
(3) 行政機関・その他	20
(4) 各機関の役割・協力事項について	20
(5) 事業を実施する上で設置する会議	21

II 事業報告

(1) 事業報告	30
(2) 実証報告	39
(3) 次年度に向けての課題	85
(4) 成果報告会の報告	87

III 事業評価

外部評価委員会評価報告まとめ

(1) 総評	92
(2) 本委員会の役割	94
(3) 評価方法について総評	94

(4) 運営企画委員会に対する評価総評	94
(5) プログラム開発委員会に対する評価総評	95
(6) 実証委員会に対する評価	96
(7) 全体を通じての評価	97
(8) 全体を通じた外部評価委員会の総評	97
(9) 次年度事業への期待	98
(10) 事業推進にあたって見直すべき事項	98
(11) 本外部評価委員会による評価	99
(12) あとがき	99

IV. 事業の振り返り

(1) プログラム開発委員会	竹下 康平(委員長)	102
(2) 実証委員会委員長	宮本 隆史(委員長)	103
(3) 新たなるチャレンジへの思い	小林 英一(事業代表責任者)	104

資料(1) 専門職業人材最新技能アップデート講座 お知らせ	106
-------------------------------	-----

資料(2) アンケート結果(受講前/受講後/一か月後)	110
-----------------------------	-----

I . 事業概要

I 事業概要

1. 事業名

これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業

2. 事業の趣旨・目的

2025 年問題では、①医療費や介護費の増大 ②現役世代の社会保険料の負担の増大 ③慢性的な人材不足の 3 つが懸念されている。

企業は、特に③の「慢性的な人材不足」への対策を考える必要があり、この問題を乗り切るためには 3 つの課題について取り組む必要があると考えられる。

1 つ目は、DX 推進である。DX を推進する第一歩としてデジタル化が進み、業務の効率化が可能になることで、作業時間の短縮、ヒューマンエラーや業務の無駄が削減され、業務効率や収益向上につながると言われているが、多くは IT 人材を育成し、安定して利用できるシステムの構築が不十分であり、DX を推進できていない。

2 つ目は、幅広い多様な人材確保の他、イノベーションを生み価値創造につながるという考え方に慣れていない企業が多いのが現状である。

3 つ目は、一人ひとりが、リハ職・介護職の専門職としての幅を広げることにより、マルチタスクをこなせる人材を育成し、生産性の向上ができるようになることである。

以上の 3 つの課題を解決するために、医療・介護分野に焦点を当て、最新のことに取り組む企業・専門学校・公的機関などが連携し、スキル・知識のアップデートのための実践プログラムの開発と有効性を確認し、講座等が安定的・持続的に確保できる体制を構築することを目的とする。

【講座に関する基本情報】

基本情報	内容・目標等
対象とする職業・分野	介護職(教育・社会福祉分野) リハビリ職(医療分野)
学習ターゲット、目指すべき人材像	現場で活躍する有資格者。 自分のチャレンジしたいことを介護や医療と結びつけることにより更なる視野を広げ専門職としてレベルアップした人材
対象者のレベル(当該プログラムの内容に関する基礎知識の有無)	基本的な知識を要することを必須とする
プログラム受講後に想定される受講者のキャリア・受講者が目指す姿	今のキャリアからステップアップできる人材。現在の組織の中で自分が今よりも成長することで、より組織に貢献し、利用者を支援できる姿

開発するプログラムの目標受講者数 (1期間あたり)	450 人
開発するプログラムの想定総授業時数 (1期間あたり)	72 時間 最大 12 時間 × 6 講座(オンデマンド部分は含まない) = 最大 72 時間
開発するプログラムの想定受講期間 (1期間あたり)	1か月(オンデマンド含む) ※講座は 6 つ全てを受講する訳ではなく、6 つのうちから自分が受講したい講座を選択するため基本的に 6 つ受講する受講生は想定していない。
e-ラーニングの実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

※全体としてどのくらいの学修時間で、E ラーニングで行うか、このうち、オンデマンドでの学修はどのくらいのボリュームになるかについては、2年目以降のプログラムを開発する為、初年度は実態調査を行うため、予定としては何時間という想定はしていない。

実態調査の結果をもとに、受講生の習得度や受講できる時間などについて把握したうえで、時間を割り出していく。

(1) 当該学び直し講座が必要な背景について

医療・介護におけるリカレント教育の現状

医療(リハビリ)における資格は、国家資格を一度取得するとその後は個々によって学びの継続をすることが任されている。実際は個々で学ぶことが出来ておらず、最新の知識にアップデートされていないことが多い。

また、介護分野においては、介護現場で働くためのルートはいくつかあるが、卒業や終了後のフォローアップや新しい知識・技術のアップデートできる環境はまだ整備されておらず、目に見えてスキルアップする職員は非常に少ない。その上、職員一人ひとりが持つ能力や経験もさまざまであり、事業所(マネジメントする側)も施設によってマネジメントに関する理解や学びが浅いため、十分なマネジメントができていない。したがって、人材を育成することもできていない。マネジメントする側はマネジメントする力をつけるためのリカレント教育を行うことで、バランスがとれかつ安定した組織統制が図れる。そのことで一般職の方には状況に応じた学びを提供することができる。だが、このようなプログラムは、現行見えてきていない。

上記のことから、施設を管理する側のマネジメントの学び直しをするためのリカレント教育が重要であり、ダイバーシティにも対応するマネジメントへアップデートすることで、職員一人ひとりにあつたりリカレント教育も提供ができると考えられる。

浮き彫りとなった課題

当実証研究に必要な背景には大きく分けて4つの課題がある。

- ①介護人材不足による介護業務の増大
- ②ICT/DX 推進の遅れによる業務改善の停滞
- ③次世代の介護のニーズに合わせた人材不足
- ④現場で利活用できるアフターフォローの体制

以下、これらの課題に至った背景および解決策について記載する。

①介護人材不足による介護業務の増大

厚生労働省は、令和3年7月9日に第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を公表した。これによれば、2025年度には約243万人(+約32万人(5.3万人/年))の介護職員を確保する必要があると推計されている。(図1参照)また政府は、介護施設の人員配置基準を「入居者3人には職員1人」と人員配置の基準を緩和する検討をしているが、介護事業者から介護の質の低下や職員の負担増への懸念が広がっている。

加えて、令和4年度の公益財団法人介護労働安定センターが公表した介護労働実態調査によると、介護の労働者における高齢化は年々進んでおり、全体の介護事業所で労働する65歳以上は7割、外国人労働者の受け入れは全体の2.6%と受け入れ率が低い結果となっている。

以上の結果より、人材を確保するためには、生産人口の増加が必要であり多様な人材が重要になってくる。しかし、雇手は人材を確保することだけを考え、介護職員の業務が増大しているにもかかわらず処遇を改善する動きが全くないことも理由の一つとして挙げられる。これらを解決するためには、処遇の改善や新しい人材育成の取り組みが必要である。さらに、介護の魅力を伝えることで生産人口の増加が必要だと考えられる。

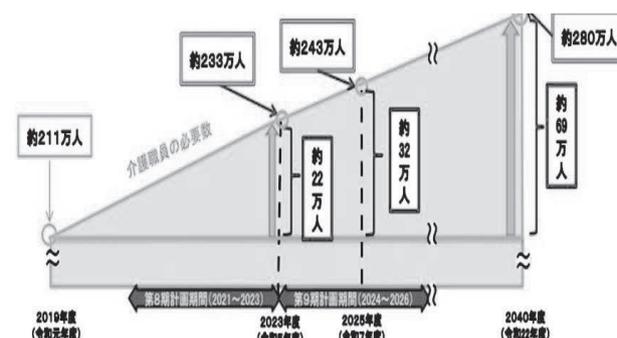


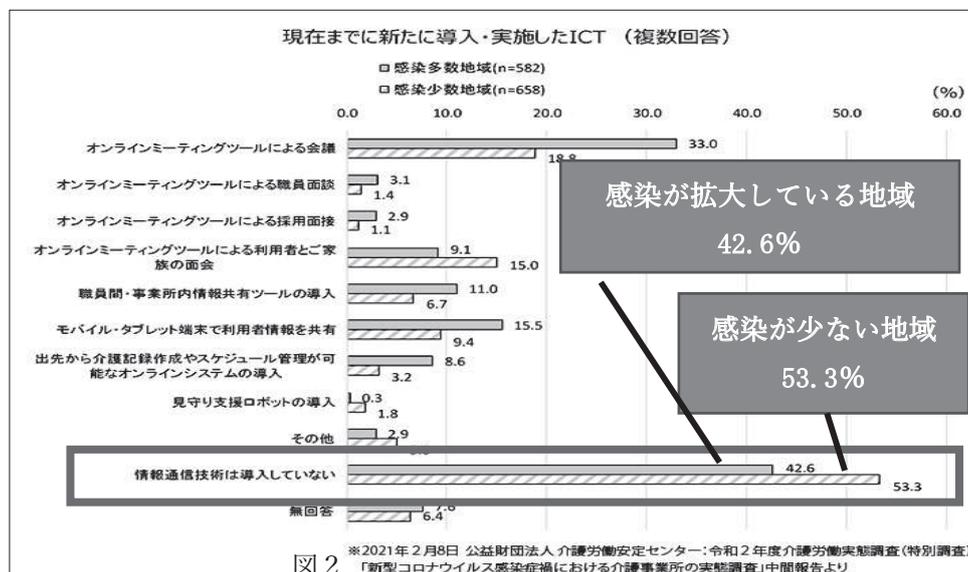
図1)厚生労働省8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数についてより引用

②ICT/DX 推進の遅れによる業務改善の停滞

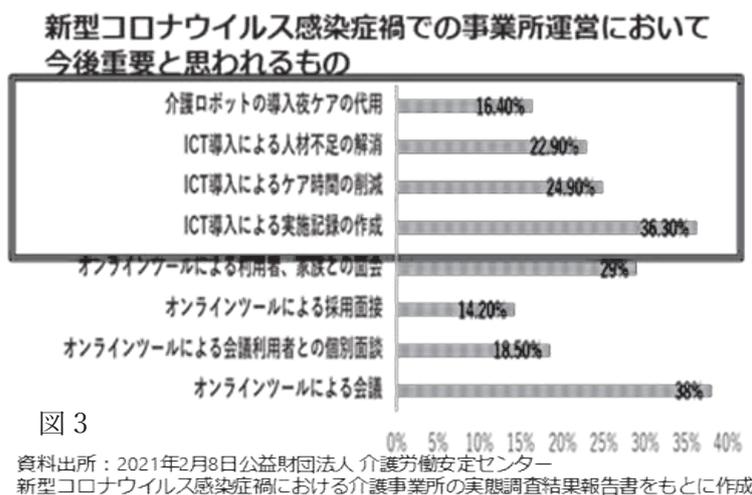
労働環境の改善が必要とされる一方で、ICTを導入するコスト面にも問題があるが、介護職のICTのスキルの低さが問題となっている。

2021年2月に1240の事業所を対象とし、労働局が実施したICT調査では、(図2参照)感染拡大している地域が42.6%。感染が少ない地域では、53.3%とICT導入がされていない事業所が多い結果となっており、なかなかICT導入が浸透されていない現状がある。浸透されない要因としては3つあり、1つ目、介護職が、専門知識以外のスキルを勉強(研修)する機会が少ない。2つ目と

して挙げられるのは、管理職・介護職の年齢による ICT への関心・理解がないことである。3 つ目として事業者側は、介護の専門職として採用するため、ICT スキルで採用はしないことであり、業務以外の新しいことが、さらに負担と感じる人が多いことも現状である。

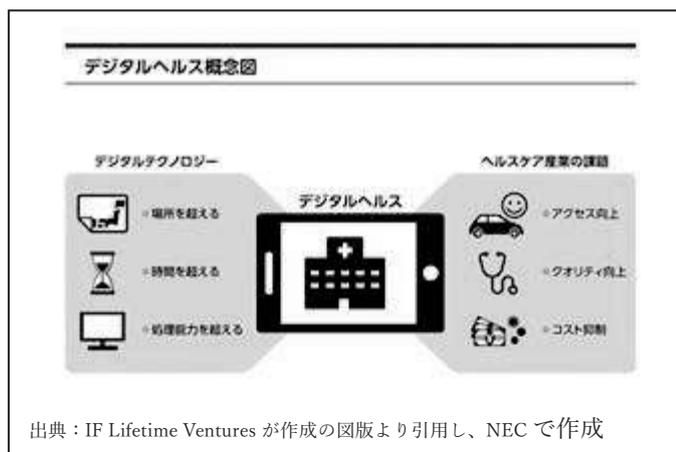


また、同調査で、新型コロナウイルス感染症禍での事業所運営において今後重要と思われるものを事業所全体で見ると、(図3参照)「感染予防資材の備蓄・管理」が 84.5%、「職員の体温・体調管理」が 82.6%と高かったが、ICT の必要性については、オンラインでの会議や家族との面会での重要性が高いという結果になっており、ICT についてはこの部分は必要と感じている事業所が多いが、ICT 機器を活用した他の業務に関しては、「ICT による介護実施記録の作成」が全体で 36.3%、「ICT によるケアの時間の削減」24.9%、そして「ICT による人で不足の解消」が 22.9%と ICT 導入への抵抗がつよいのか低い結果となっている。



さらに、「介護ロボットの導入によるケアの代用」については、非常に活用意識が低く、16.4%という結果となっている。以上の調査の結果から、管理職・介護職への ICT への理解が低く、導入の必要性については、必要であると思いながらも、活用方法などの習得に不安を抱き、なかなか ICT 導入が浸透されていない現状となっていることがわかる。また、現場で

は、記録、行事の準備、入浴・食事等の介助の準備、各委員会での書類作成など、直接利用者とかかわる時間以上に他の業務量が多いが、1日平均してどれくらいの専門外の業務をしているかの可視化がされていない。しかし、世間ではICT/DX推進を進めている中で、実際のところ事業所は、業務改善点の具体案がされておらず、ICT/DXを導入した結果、活用のミスマッチが起こり、なかなか活用できない状況にある。



これらを解決するためには、ICT/DX 活用と同時に活用のミスマッチを起こさずに ICT が導入できる知識や活用方法を学ぶ人材を施設ごとに増やすことで活用のミスマッチを起こさずに業務を改善できるのではないかと考える。そのためにも、即現場で活躍できる ICT/DX が活用できる人材育成を行う必要があり、これは勤続年数に限らず施設全体で取り組む必要があると考えられる。

同様に、医療の業界でも今回のコロナ禍で、“ヘルスケアのデジタル化”の遅れと、その必要性があらためて浮き彫りとなっており、厚生労働省は、大規模な健康・医療・介護の分野を有機的に連結したICTインフラを本格稼働させるべく、厚生労働省内に「データヘルス改革推進本部」を設置し、データ利活用の前提となるデジタル基盤整備およびサービス創出の重要度が高まっている。

③次世代の介護のニーズに合わせた人材不足

2025 年団塊の世代といわれる人たちが、80 歳を迎え介護が必要になるとき今後この世代に対する支援提供の考え方が異なってくると考えられる。

今後の活力ある超高齢社会の実現にあたっては、知恵やノウハウを豊富に有する「アクティブシニア」が多く存在するようになることを念頭におき、多くの高齢者が可能な限り長く自立して暮らし、年齢を問わず、その知恵や経験を活かして積極的に社会参加できるよう、「健康寿命の延伸」を図ることが重要になってくるため多様なニーズが求められると考えられる。だからこそ、今までのサービスの内容では満足しない利用者も増えてくると考えられる。団塊の世代が介護が必要になるのはあと 10 年後とすると、10 年先に対応できるサービスを構築していく必要があり、受け身的なサービスではなく、ニーズの先読みと積極的なサービスの展開が求められてくる。しかし、現状は介護職のキャリアアップのための研修内容が、集団研修ばかりでこれからのニーズに沿った研修や個々のスキルに合わせた研修が少ない。これは、施設側の研修に関する情報や知識の不足、つまり管理者としての人材育成マネジメント力が足りていないことが原因ではないかと考えられる。また、人材不足などにより研修を受講した

くても受講できない状況もある。職員の個々のスキルと次世代のニーズに沿った研修を企画・実施することで、利用者に対して満足のいくサービスが提供できるようになり、職員の仕事に対する姿勢も向上し、本来の専門職としてのやりがいや自信につながり離職防止なると考えられる。また、良い人材の育成やキャリアアップができる環境になれば生産性の向上も期待される。

以上のことより当センターでは、マネジメントの立場にある施設長や管理職層が有効な事業運営体制の構築し、次世代の介護ニーズをキャッチアップし、そこに対する情報の提供からスキルを身につけるための学びが提供できるようになることが介護施設経営における課題解決を図る重要な取り組みなのではないかと考えられる。

④現場で学びを利活用できるようにするためのアフターフォロー体制

神奈川県教育福祉振興会 令和4年セミナーアンケート: 今後参加したいセミナー53項目を当センターが8つにカテゴリー化し分類した結果、(図4参照) 1位は介護基本的知識 51%、2位は運営・管理関連 12%、3位は職員メンタル・思考・趣味 10%。半数以上が、既存の介護分野の知識であることが分かった。

また、多くの知識や技術を身に付ける研修を受けても、学びが一方通行であり、現場で利活用できるフォローアップ体制が整っていないのが現状である。そのため、学びに対する意欲の低下が生まれ、新しいものへ挑戦する意欲も低下してしまう結果になってしまう。

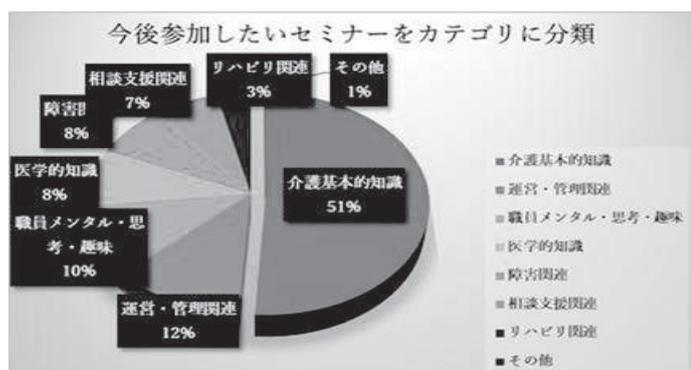


図4 神奈川県教育福祉振興会 令和4年セミナーアンケートを基に職業教育研究開発センター: 今後参加したいセミナーカテゴリー分類 2023.6.16

レバレッジズメディカルケア株式会社「きらケア介護白書 2022・介護

職員調査(表1参照) 4-6「仕事に求めるもの・価値観」では1位)人間関係を大切に働けること 41.5%、2位)生活に必要な収入が得られること 37.8%、3位)プライベートを大切にできること 36.8%、4位)仕事が楽しくできること 32.9%、5位)自分らしい生活が送れること 31.7%となっている。4位の仕事が楽しくできることに着目すると例えば、介護職員の持っている知識及び技術を新しいものにするためのアップデートする環境を整える必要があり、更に既存の資格にプラスαの別の領域の知識と技術を持つことにより、多様化した利用者のニーズや「心身の状況に応じた介護」に役立つのではないかと、またそれを職員自

表1 レバレッジズメディカルケア株式会社「きらケア介護白書2022」より5項目を5回に分けてアンケート調査し集計したもの

仕事に求めるもの・価値観		
1位	人間関係を大切に働けること	41.5%
2位	生活に必要な収入が得られること	37.8%
3位	プライベートを大切にできること	36.8%
4位	楽しく仕事ができること	32.9%
5位	自分らしい生活が送れること	31.7%

身が選択できる研修プログラムがあれば、「仕事が楽しい」「自分らしい生活」が送れるのではないだろうか。

例えば、アロマを取り入れた介護や身近なお出かけ支援などで、専門的知識の習得により現在の介護分野の幅が広がっていくことに気付き、そこから新しい学びや学び直そうとすることが生涯学習につながると考えるが、雇用する側の理解や介護職員の役職側のマネジメント力も必要となる。介護職員でいえば、経験年数や仕事の力量で役職になることが多いため、マネジメントをしっかりと学んできたわけではないなどの課題がある。

以上の①～④の4つの課題について、当センターでは、課題の解決策として(表2参照)介護職や医療職(リハビリ)の人材スキル・知識を最新のものにアップデートできるリカレント教育のプログラム(基礎・基本)を開発し、受講後のフォローアップをする体制、そして、これらの研修を行える人材教育アシスタントティーチャーの研修も同時に行うことで、講座等が安定的・持続的に確保できるプログラムを目指したいと考えている。そして、基礎・基本に留まらず、事業終了後もニーズがあれば、応用プログラムの開発にも着手し、さらなる展開をしていくことで、この研究が一過性のものにならぬよう継続的な取り組みとしていきたい。

表2【当センターが4つの課題に対し打ち出した解決策】

課題	解決策
①介護人材不足による介護業務の増大	介護の魅力を伝えることで、生産人口の増加が見込まれる可能性があると考えられるため、力が発揮できるための改善や新しい人材育成に取り組む。
②ICT/DX 推進の遅れによる業務改善の停滞	勤続年数に制限を設けず施設全体でICT/DX 種類・活用方法を学ぶことで、業務にあったICT/DX 導入のミスマッチを起こさずに業務改善方法の研修が必要である。同時に、ICT/DX の活用方法がいつでも相談できるサポート体制を構築することで導入の促進を促す。
③次世代の介護のニーズに合わせた人材不足	更に既存の資格にプラスαの別の領域の知識と技術を持つことにより、多様化した利用者のニーズや「心身の状況に応じた介護」に役立つ職員自身が選択できる研修プログラムを開発することで「仕事が楽しい」「自分らしい生活」継続的にアップデートできるリカレント教育の構築実践し対応できる人材を育成する。 そのために、マネジメントの立場にある施設長や管理者層が有効な事業運営を身に付けるための学びの提供をする。

④現場で学びを利活用できるようにするためのアフターフォロー体制	研修内容について、現場での有用性の確認や現場で利活用できるアフターフォローの場を提供することで、研修を受けた人たちがどのように利活用したかの事例を共有する場や、研修講師に相談・質疑応答ができる場を提供する。
---------------------------------	---

3. 事業計画

(1) 具体的な取組の全体像

令和5年度

- ① アップデートプログラム開発のための実態調査を行う。
 - 6つの既存のプログラムを活用し、これから介護職となる人材と介護職員向けに活用できるプログラムであるかを調査する。
- ② 既存のプログラムの実証実施
 - 対象者
 - 介護施設の職員および介護福祉士養成校の学生、卒業生
 - 実証調査(10月～12月に実証を予定)
 - 対象となる人数
 - ・介護・医療施設 30施設 240人程度
 - ・介護福祉士養成校 5校 150人程度
 - ・エリア別(1か所20名) 3か所 60人程度
 - 調査方法
 - 次年度のプログラム開発をするため、既存のプログラムが介護職にとって有効的かつアップデートしやすい講座か否かに関するデータを収集する。
 - 調査方法は、鋼材の内容・受講形態即現場で実践できるか、について、アンケート・インタビューを行い、プログラムの有効性を検証する。
 - 調査結果まとめおよびデータ分析
 - (1月～2月に実施予定)
 - 実証調査においてプログラムが有用性のあるかどうかについて分析を行う。また、実証とともに受講形態の意識調査も行いその結果をまとめる。
- ③ 成果報告会の実施(2月に開催予定)
 - 全国の介護、医療施設、専門学校を招いた成果報告会の実施。

令和6年度

①アップデートプログラムの開発

(6月～9月に実証を予定)

1年目の実証の結果を踏まえ、より現場に活用しやすい教育内容を抽出し、ブラッシュアップを行う。また、受講しやすい受講形態なども考慮した、教育プログラムおよび受講テキストの一部改訂を行う。

②開発したアップデートプログラムの実証実施

(9月～12月に実証を予定)

●対象者

介護施設の職員および介護福祉士養成校の学生、卒業生

●実証調査 対象となる人数

- ・介護・医療施設 30施設 200人程度
- ・介護福祉士養成校 5校 150人程度
- ・エリア別(1か所20名)5か所 100人程度

●調査方法

次年度のプログラムのブラッシュアップをするために必要なデータを収集する。開発したプログラムについて、即現場で実践できるかのアンケート・インタビューを行いプログラムの有効性を検証する。

●調査結果まとめおよびデータ分析

(1月～2月に実施予定)

実証調査においてプログラムが有用性のあるかどうかについて分析を行う。また、実証とともに受講形態の意識調査も行い、その結果をまとめ、次年度のブラッシュアップ検証を行う。

③成果報告会の実施

(2月に開催予定)

全国の介護、医療施設、専門学校、企業を招いた成果報告会の実施。3月に専門学校を卒業し、就職しプログラムを受講した施設職員を調査する。

令和7年度

①アップデートプログラムの完成

(6月～8月を予定) 2年目の調査結果で抽出された課題をもとに内容のブラッシュアップ、教育プログラムおよび受講テキストの一部改訂を行う。また、施設リーダー職、専門学校の教員を対象に、モジュール型のアシスタントティーチャー養成講座マニュアルを作成する。

※提供するプログラムに関しては、最終的に4つのステップに沿って提供することを想定している。

②プログラムの実証およびアシスタントティーチャー養成講座を開催

(9月～1月に実証を予定)

令和5年・6年度の実証の施設のみならず実装化を見据えて、プログラムの有効性を訴求し、公募し実証を行う。する。アシスタントティーチャーのトライアル講座を開催し、資格制度として制度を作り講座実施後に認定をする。

③調査のまとめ、社会実装化の検討

(1月～2月に実施予定)

次年度に向け、更なる研究の継続やまたは施設や企業とのパートナーシップを図り、事業終了後にどう社会実証化していくのかについて仕組みを検討する。

④最終報告会の実施

(2月に開催予定)

全国の介護、医療施設、専門学校、企業を招いた成果報告会の実施。実装化に向け参加した方へ実装意向調査を行う。

(2)本年度の計画

<提案年度の活動>

専門的職業人材を輩出する機関として、これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートプログラム開発を行うため、既存の講座を導入し基礎資料となる調査を行う。

そのために、全国の介護・医療施設・専門学校約40カ所にむけて既存の講座を提供し、講座の有効性についての調査を行う。

また、アップデートプログラムの開発に向けて、基礎データと基礎情報の収集を行い、併せて2年目以降に具体的なプログラム開発のための組織づくりを行う。

<提案年度の調査>

■調査名 「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」

■調査目的

アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。

- 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。
- 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。
- 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。

■調査手法

- ・受講終了時のミニテスト・アンケート調査
- ・受講後直後へのインタビュー調査
- ・受講後の経過アンケート・インタビュー調査（1か月後）

■調査対象

- ・介護・医療施設の管理職、一般職
- ・養成校学生(2024年度卒業見込み2年生)及び養成校の卒業生

■調査項目

- ・受講内容、時間、受講形態
- ・受講後の有効性や利活用について
- ・受講後のフォローアップについて

■分析内容

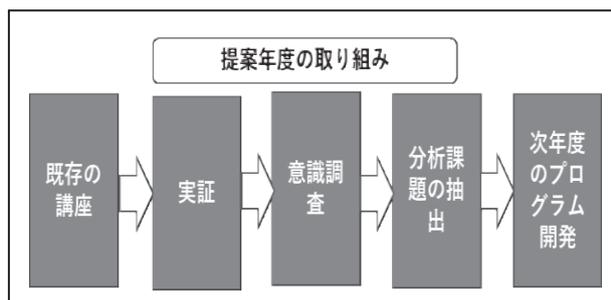
- ・受講生の講座に対するモチベーション
- ・ミニテストによる知識や技術定着率
- ・施設などの他の研修・セミナーでのフォローアップ体制について
- ・学習のニーズおよび継続するための受講形態に関するニーズ調査
- ・どのようにしたら、地方と都市との差がない、標準化の研修を行えるか？
- ・学習の継続できない理由について、何が不足しているのか？
- ・学習効果の向上について、どのようにしたらアウトプットできるか？
- ・オンデマンドの受講時間はどのくらいが習得でき、継続して受講できるか？

■成果(学び直し講座の開設)

- ・調査結果により、抽出された課題をもとに、より密度の濃い学び直しの講座を提供できるプログラム開発の資料とする。
- ・アップデートの仕組みについてどのようにしていくか、調査結果をもとにアップデート情報共有会の開催するための資料とする。

■調査実施体制

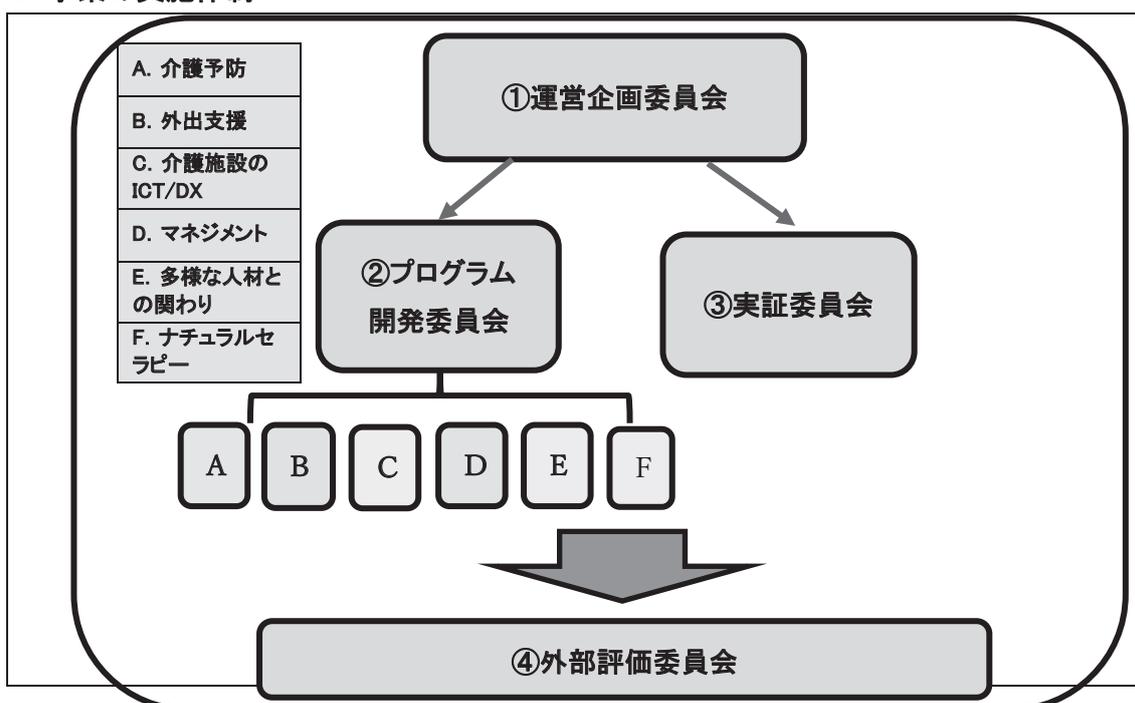
	対面で受講	オンラインで受講	
1回目	神奈川	東京・千葉・神奈川・仙台・福島・大阪・高知・名古屋・北海道・長崎・沖縄・福岡	■6つの講座の中から希望の講座を1つ選択してもらい受講する。 ■時間帯・曜日等については、比較調査を検討しているため、実証委員会で検討を行う。
2回目	東京		
3回目	大阪	*実証都市が増える可能性あり	



(3) 本年度の取組に関する年間スケジュール

10月	事業開始 (10月8日)	キックオフミーティング、運営企画委員会同時開催 プログラム委員会開催 実証委員会開催
11月	受講募集開催 (上旬)	プログラム委員会開催および6つの分科会会議開催 実証委員会開催
12月	実証講座開始 (上旬)	プログラム委員会開催および6つの分科会会議開催 実証委員会開催 外部評価委員会開催
1月	実証講座修了 (下旬)	プログラム委員会開催および6つの分科会会議開催 実証委員会開催 外部評価委員会開催
2月	成果報告会開催 (中旬)	プログラム委員会開催および6つの分科会会議開催(評価) 実証委員会開催(評価) 外部評価委員会開催(評価)
3月	事業終了	第3者評価終了(上旬) 成果報告書3月14日完成

4. 事業の実施体制



①運営企画委員会

プロジェクトに参加する当事者を含む多様な関係者による事業の目的、目標、運営方法の検討・共有を行う。各委員会の調整も行う。

②プログラム開発委員会

初年度は、リカレント教育にあった有効と考えられる講座を選定し、2年目以降で、1年目の実証結果をもとに、新規プログラムを開発し、アシスタントティーチャー用のテキストも同時に開発する。また、動画教材に使用する開発も行う。

また、本年度から次年度のプログラム開発を検討する為に講座ごとに6つの分科会を設置し分科会ごとにプログラムの検討を行い、最終的にプログラム開発委員会(全体)で承認する。

③実証委員会

初年度、既存の講座について有効性があるかどうか、また継続して受講できる環境に関するニーズ調査を行う。2年目は、開発されたプログラムを各施設の職員や専門学校の学生を対象に実証し、評価を行う。併せて、各施設や専門学校などで導入を考えている施設の職員や学校の教員のためのアシスタントティーチャー養成講座を実施し、全国の施設や専門学校で実施できるよう人材育成を行う。

④外部評価委員会

プログラムの評価測定を担当するとともに、事業全体への総合評価・検証や助言を行う。

5. 組織体制

(1)教育機関

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人 敬心学園 日本福祉教育専門学校	実証協力・実証	東京都
2	学校法人 三幸学園 東京未来大学福祉保健専門学校	実証協力	東京都
3	学校法人 智帆学園 琉球リハビリテーション学院(金武校)	プログラム開発	沖縄県
4	学校法人 仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校	プログラム開発	宮城県
5	学校法人 こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校	実証協力プログラム 開発	福島県
6	学校法人 穴吹学園	実証協力・実証	香川県

	専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ		
7	学校法人西野学園 札幌リハビリテーション専門学校	プログラム開発 実証協力	北海道
8	公立大学法人 山梨県立大学	プログラム開発	山梨県
9	学校法人 千葉商科大学	外部評価	千葉県
10	学校法人 東京聖徳学園 聖徳大学	プログラム開発	千葉県
11	学校法人 駒澤大学	外部評価	東京都
12	学校法人 早稲田大学	運営企画 プログラム開発・実証	東京都
13	学校法人 共栄学園 共栄大学	プログラム開発	埼玉県

(2)企業・団体

	名称	役割等	都道府県名
1	社会福祉法人 敬心福祉会	実証協力	東京都
2	社会福祉法人 善光会	運営企画・実証	東京都
3	社会福祉法人 千歳会	実証協力・実証	千葉県
4	社会福祉法人 南生会	プログラム開発	千葉県
5	社会福祉法人 梅仁会	実証協力・実証	長崎県
6	株式会社 ビーブリッド	運営企画・プログラム開発	東京都
7	株式会社 リエイ	実証・実証協力	千葉県
8	株式会社 やさしい手	実証	東京都
9	社会福祉法人 伸こう福祉会	プログラム開発	神奈川県
10	社会福祉法人 今山会	プログラム開発	福岡県
11	コニカミノルタ株式会社	実証	東京都
12	株式会社ニチイ学館	実証・実証協力	東京都
13	株式会社オリーブ	プログラム開発	東京都
14	株式会社スタジオ ドード	プログラム開発	神奈川
15	株式会社ゆう&あい	プログラム開発	愛知県
16	国際法務 MKK 行政書士事務所	プログラム開発	東京都
17	株式会社 B.A.O.B	運営企画・プログラム開発	千葉県
18	株式会社 アライブテック	実証	東京都

19	株式会社 マイナビ	運営企画・実証	東京都
20	合同会社 かいご支援サービス	実証・実証協力	神奈川県
21	公益財団法人 テクノエイド協会	実証	東京都
22	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会	外部評価	神奈川県
23	公益社団法人 全国老人保健施設協会	外部評価	東京都

(3)行政機関・その他

	名称	役割等	都道府県名
1	川崎市経済労働局イノベーション推進室	外部評価委員会	神奈川県

(4)各機関の役割・協力事項について

○教育機関

・医療・福祉・リハビリ系

(介護福祉士・理学療法士・作業療法士・柔道整復師・鍼灸師)専門学校(7校)

・大学 (6校)

- ①既存のコンテンツを使ったプログラムの開発
- ②新規コンテンツ企画、開発、プログラム開発
- ③それに伴う教材(動画も含む)の作成
- ④アシスタントティーチャー養成講座マニュアルの作成
- ⑤アシスタントティーチャー養成講座の参加協力
- ⑥プログラムを使った実証実施の協力
- ⑦効果測定調査実施の協力
- ⑧実証実施後のプログラムの評価・改善提案

○企業・団体

・対人援助分野・個人

- ①開発するプログラムに対する現場視点での助言
- ②開発したプログラムの評価
- ③アシスタントティーチャー養成講座マニュアル開発協力
- ④アシスタントティーチャー養成講座の参加協力
- ⑤教育機関同様の実証実施の協力
- ⑥実証の効果測定の方法に関する助言

・IT 関係事業者

- ①介護職向けの ICT/DX における使用上の助言

- ②ICT/DX 講座プログラム開発協力
- ③講座で活用する LMS システムについての評価・助言

・業界団体

- ①業界全体の状況を踏まえてのプログラムに対する評価・助言
- ②業界の取り組みとのコラボレーションを検討
- 行政機関、その他
- ①プログラムの導入に対する評価・助言
- ②プログラムが広く受け入れてもらうための助言
- ③事業全体に対する評価

(5) 事業を実施する上で設置する会議

会議名①	運営企画委員会		
目的・役割	本プロジェクトに参加する当事者による事業の目的・目標・計画立案、運営方法の検討を行う。		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体の企画・運営 ・事業進捗の管理調整 ・事業計画の到達点、評価指標の設定 ・評価基準の確認 ・実証調査・実施・研修会の運営企画 		
委員数	9 人	開催頻度	2 回

運営企画委員会の構成員(委員)

氏名		所属・職名	役割等	都道府 県名
1	小林 光俊	学校法人敬心学園 理事長	運営企画委員会	東京都
2	小川 全夫	学校法人敬心学園 職業教育研究開発 センター センター長	運営企画委員長	東京都

3	小林 英一	学校法人敬心学園 職業教育研究開発 センター研究員	運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員会 実証委員会	東京都
4	竹下 康平	株式会社 ビーブリッド 代表取締役	運営企画委員会 プログラム開発委員会委員 長	東京都
5	宮本 隆史	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者 統括施設局長 株式会社 善光総合研究所 代表取締役社長	運営企画委員会 実証委員会委員長	東京都
6	柳沼 亮一	社会福祉法人三幸福 祉会 営業広報部 部 長 介護DXコンサルテ ィングチーム シニアマ ネージャー 学校法人三幸学園 東京未来大学 福祉保育専門学校 介護福祉科 講師	運営企画委員会 実証委員会副委員長	東京都
7	内田 和宏	学校法人 早稲田大学 人間科学学術院 人間科学部 講師	運営企画委員会 プログラム開発委員会 マネジメント講座分科会 実証委員会	東京都
8	吉田 涼平	株式会社 B・A・O・B	運営企画委員会 プログラム開発委員会副委 員長 ICT/DX 講座	東京都
9	笹島 慶太	株式会社 マイナビ 未来応援事業本部 進学情報事業部 営業統括部	運営企画委員会	東京都

会議名②	プログラム開発委員会		
目的・役割	<p>・プログラムの企画・開発する。それに伴う教材の企画・開発を行う。</p> <p>・6つの分科会に分かれ、分科会ごとにプログラム開発を行いプログラム開発委員会全体会にて最終検討を行う。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A. 介護予防講座分科会</p> <p>B. 外出支援講座分科会</p> <p>C. 介護施設の ICT/DX 講座分科会</p> <p>D. マネジメント講座分科会</p> <p>E. 多様な人材との関わり講座分科会</p> <p>F. ナチュラルセラピー講座分科会</p> </div>		
検討の 具体的内容	<p>①既存のコンテンツを使ったプログラムの開発</p> <p>②新規コンテンツ企画、開発、プログラム開発</p> <p>③それに伴う教材(動画も含む)の作成</p> <p>④アシスタントティーチャー養成講座マニュアルの作成</p>		
委員数	21人	開催頻度	5回

プログラム開発委員会の構成員(委員)

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	竹下 康平	株式会社 ビーブリッド 代表取締役	運営企画委員会 プログラム開発委員会委員長	東京都
2	吉田 涼平	株式会社 B・A・O・B	運営企画委員会・プログラム開発委員会副委員長 ICT/DX 講座	東京都
3	伊藤 健次	公立大学法人 山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授	プログラム開発委員会 介護予防講座分科会	山梨県
4	菊地 克彦	学校法人東京聖徳学園 聖徳大学 文学部教養 デザインコース教授	プログラム開発委員会 マネジメント講座分科会	東京都

5	高橋 利明	TWEC	プログラム開発委員会 外出支援講座分科会	千葉県
6	櫻井 直人	学校法人 仙台北学園 仙台リハビリテーション 専門学校 作業療法学科学科長	プログラム開発委員会 ナチュラルセラピー講座分科会	宮城県
7	上江洲 聖	学校法人智帆学園 専門学校琉球リハビリテ ーション学院(金武校) 作業療法学科教員	プログラム開発委員会 介護予防講座分科会	沖縄県
8	中内 英樹	学校法人穴吹学園専門 学校 穴吹リハビリテーシ ョンカレッジ副校長	プログラム開発委員会 介護予防講座分科会	香川県
9	内田 和宏	学校法人 早稲田大学 人間科学学術院 人間科学部 講師	運営企画委員会 プログラム開発委員会 実証委員会 マネジメント講座分科会	東京都
10	鳥居 賢一	株式会社オリーブ 代表取締役	プログラム開発委員会 多様な人との関わり方講座	東京都
11	町 亞聖	フリーアナウンサー	プログラム開発委員会 外出支援講座分科会	東京都
12	尾滝 元太	株式会社ビーブリッド 経営企画部新規事業推 進チームマネージャー	プログラム開発委員会 ICT/DX 講座	千葉県
13	藪中 博章	株式会社スタジオドード 代表取締役	プログラム開発委員会 ・多様な人との関わり方講座分 科会	神奈川県
14	前田 みどり	社会福祉法人 伸こう福祉会 クロスハート野七里・栄 施設長	プログラム開発委員会 マネジメント講座分科会	神奈川県
15	朝野 愛子	社会福祉法人 今山会 統括施設長	プログラム開発委員会 マネジメント講座分科会	福岡県
16	太原 靖一郎	学校法人 共栄学園 共栄大学	プログラム開発委員会 マネジメント講座分科会	埼玉県

		国際経営学部 准教授		
17	光星 きらら	フリーキャリア コンサルタント	プログラム開発委員会 ナチュラルセラピー講座分科会	沖縄県
18	吉田 あい	株式会社ゆう&あい 取締役	プログラム開発委員会 多様な人材との関わり方講座 分科会	愛知県
19	宮田 昌俊	国際法務 MKK 宮田行政書士事務所 代表	プログラム開発委員会 多様な人材との関わり方講座 分科会	東京都
20	角田 大騎	学校法人西野学園 札幌リハビリテーション 専門学校 作業療法士科 学科長	プログラム開発委員会 介護予防講座分科会	北海道
21	小林 英一	学校法人敬心学園 職業教育研究開発セン ター 研究員	運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員会 実証委員会	東京都

会議名③	実証委員会
目的・役割	開発した、教育プログラムとそれに伴う教材を使って実証し検証する。
検討の 具体的内容	<p>以下の項目について実証調査を行う</p> <p>①開発されたプログラムを活用した講座を希望する福祉施設の介護職及び専門学校の学生や、卒業生を対象に実施を行う。</p> <p>②習得の効果に関する測定が必要なため、当該講座の試験結果が基本データとなる。講座後その都度、学習効果の測定を精密化する。</p> <p>③受講生に対して、プログラムに内容がどこまで習得できたか、研修の改善や継続の有無に関するアンケートおよびインタビュー調査を行う。</p> <p>④今後、開発したプログラムの導入を考えている福祉施設の介護職や専門学校も教員のためにアシスタントティーチャー養成講座を実施し、全国の福祉施設や専門学校で実施できるよう人材育成を行う。</p> <p>⑤習得効果測定が基本であるので、講座の修了試験【筆記・実技】で効果が明確になる評価方法を取る。</p> <p>⑥アシスタントティーチャー養成マニュアルについて、受講したアシスタントティーチャー候補生の活用能力がどこまで向上したかに関する調査を行う。</p>

委員数	13人	開催頻度	5回
-----	-----	------	----

実証委員会の構成員(委員)

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	宮本 隆史	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者 統括施設局長 株式会社 善光総合研究所 代表取締役社長	運営企画委員会 実証委員会委員長	東京都
2	柳沼 亮一	社会福祉法人三幸福社 会 営業広報部 部長 介護DXコンサルティング チーム シニアマネー ジャー 学校法人三幸学園 東京未来大学 福祉保 育専門学校 介護福祉科 講師	運営企画委員会 実証委員会副委員長	東京都
3	永井 周治	社会福祉法人 千歳会 常任理事	実証委員会	千葉県
4	大本 昇	株式会社アライブテック 代表取締役	実証委員会	東京都
5	酒井 貴文	株式会社マイナビ 医療・福祉エージェント 事業本部	実証委員会	東京都
6	五島 清国	公益財団法人 テクノエイド協会 企画部 部長	実証委員会	東京都
7	阿比留 志郎	社会福祉法人 梅仁会 理事長	実証委員会	長崎県
8	三浦 雅範	コニカミノルタ株式会社 グループ業務執行役員 QOL ソリューション事業	実証委員会	東京都

		部長 兼 コニカミノルタ QOL ソリューションズ株 式会社 代表取締役社長		
9	坂手 百子	株式会社リエイ 取締役管理本部長	実証委員会	千葉県
10	八子 久美子	学校法人 敬心学園 日本福祉教育専門学校 学科 国際教育特任マネ ージャー	実証委員会	東京都
11	香取 幹	株式会社やさしい手 代表取締役 社長	実証委員会	東京都
12	次田 芳尚	合同会社かいご支援サ ービス 代表社員	実証委員会	神奈川県
13	千石 友明	株式会社ニチイ学館 人財開発事業部	実証委員会	東京都
13	小林 英一	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センタ ー研究員	運営企画委員会副委 員長 プログラム開発委員会 実証委員会	東京都

会議名④	外部評価委員会
目的・役割	<p>【目的】 外部評価委員会は直接点検・評価を行うことはせず、各プロジェクトが行う自己点検・評価の結果を総合評価実施することで、評価の有効性、適切性について第三者の立場から客観的のある評価を行う。</p> <p>【役割】 ・計画段階において、目標が明確か、目標を達成したことを測定する評価指標は適切か、事業がスムーズに進み大きな成果が得られるように助言する。・プログラムの評価効果測定を担当するとともに、事業全体への評価・検証を行う</p>
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業企画・運営に関する助言 ・事業運営と成果に関する評価と検証 ・開発した教育プログラムそれに伴う教材の検証

委員数	5人	開催頻度	3回
-----	----	------	----

外部評価委員会の構成員(委員)

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	得永 真人	公益社団法人 かながわ福祉サービス振 興会 事業推進部 部長	外部評価委員会	神奈川県
2	末繁 泰弘	川崎市経済労働局 イノベーション推進室 ウェルフェアイノベーション 担当	外部評価委員会	神奈川県
3	原田 啓一郎	学校法人 駒澤大学 法学部 教授	外部評価委員会	東京都
4	和田 義人	学校法人 千葉学園 千葉商科大学 人間社会学部 教授	外部評価委員会	千葉県
5	光山 誠	公益社団法人 全国老人保健施設協会 人材対策委員会	外部評価委員会	大阪府

II. 事業報告

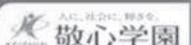
(1)事業報告



令和5年度
「専門職業人材最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業」

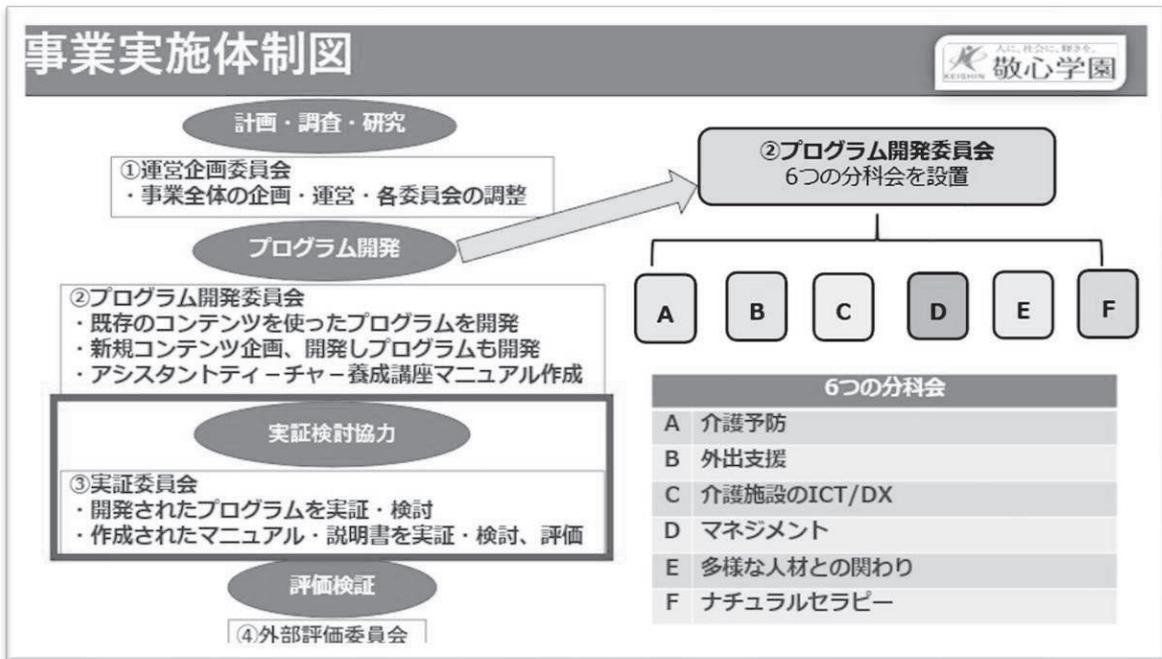
**これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・
医療分野の現場で利活用できる最新
技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びそ
の有効性を確認する実証研究事業**

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター



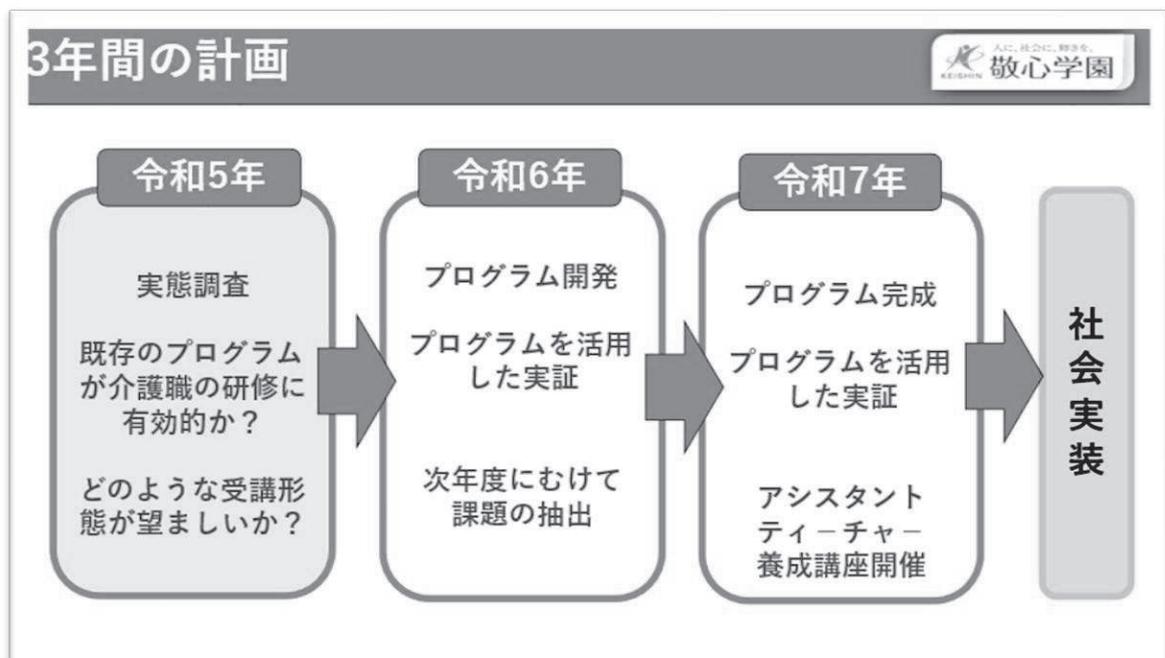
本研究の目的

**医療・介護分野に焦点を当て
最新のことに取り組む
企業・専門学校・公的機関などが連携し
スキル・知識のアップデートのための
実践プログラムの開発
講座等が安定的・持続的に確保できる体制の
構築することを目的とする。**



本事業の実施体制は、①運営企画委員会②プログラム開発委員会③実証委員会④外部評価委員会の4つの委員会を設置して実施した。

また、合同会議を実施し、各委員会が本年度実施する計画について情報共有を行った。



本年度は、6つの既存のプログラムを活用し、アップデートプログラム開発のための実態調査を行った。

令和5年度の事業計画

■目的

アップデートプログラム開発のための実証調査を行う。6つの既存のプログラムを活用し、これから介護職となる人材と介護職員向けに活用できるプログラムであるかを調査する。

■対象者

介護施設の職員及び介護福祉士養成校の学生・卒業生

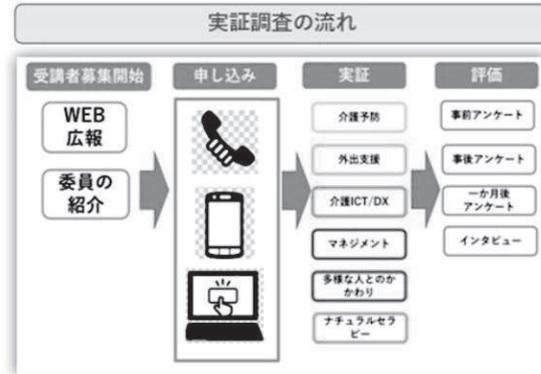
■実証調査（10月～1月）

■調査方法

- ①次年度のプログラム開発をするために必要なデータを収集する。
- ②既存のプログラムについて、即現場で実践できるについて、アンケート・インタビューを行い、プログラムの有効性を検証する。

■調査結果まとめおよびデータ分析

実証調査においてプログラムが有用性のあるかどうかについて分析を行う。また、実証とともに受講形態の意識調査も行いその結果をまとめる。



受講者募集のためにチラシを作成した。(別紙資料1)

募集方法については、Web 広告や委員の紹介、ダイレクトメール等で受講生を募集した。

本年度の実証報告

令和5年度 実証講座一覧

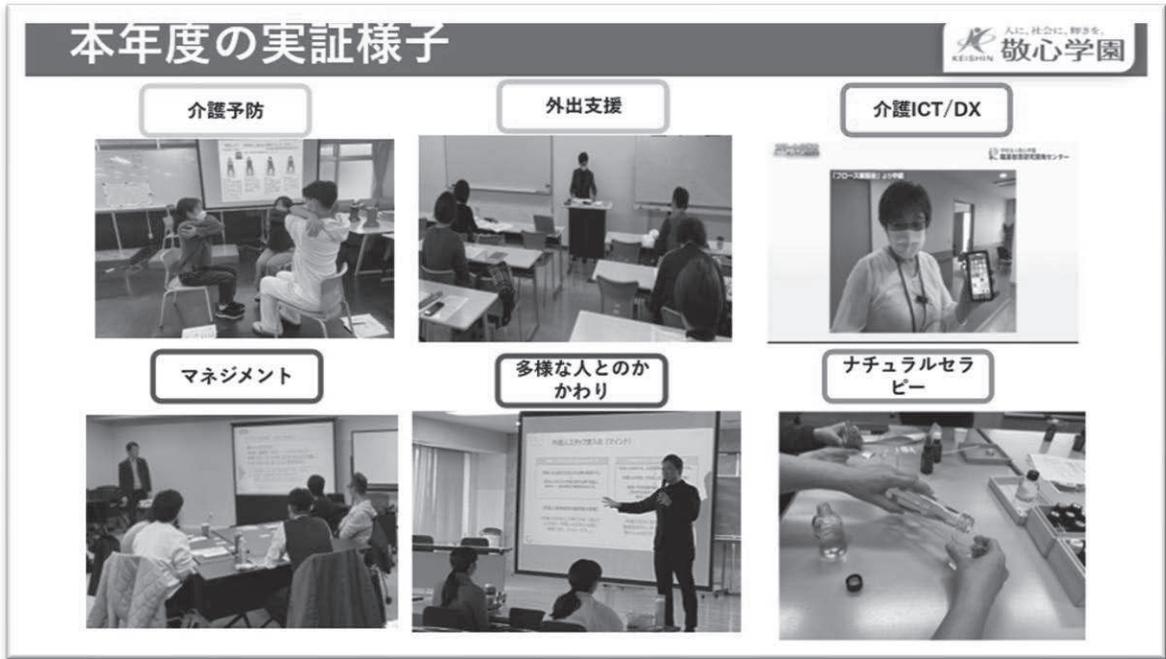
講座名	定員数	実績	受講形態・時間	開催場所
介護予防	40	40	*事前オンデマンド20H オンラインまたは対面5.5H	東京・神奈川・大阪
外出支援	60	36	ハイブリッド6H	東京・神奈川・大阪
介護ICT/DX	60	55	オンライン 6H×2	全国
マネジメント	60	46	事前課題+対面6.6H	東京・神奈川・大阪
ナチュラルセラピー	60	51	オンライン+対面4H	東京・神奈川・大阪
多様な人とのかわり	上限なし	41	ハイブリッド3H	東京・神奈川・大阪

総受講者数 269名

介護予防 40名
 外出支援 36名
 ICT/DX 55名
 ナチュラルセラピー 51名
 マネジメント 46名
 多様な人とのかわり 41名

実証期間：令和5年12月9日(土)～令和6年1月29日(日)

総受講者数：269名



今回の研修開催は、東京、神奈川、大阪の3会場で行った。また、2024年度卒業見込みの養成校の学生に対しても、能動的に学ぶことのできる(リカレント教育)の講座の提供を、香川と郡山の養成校にて行った。

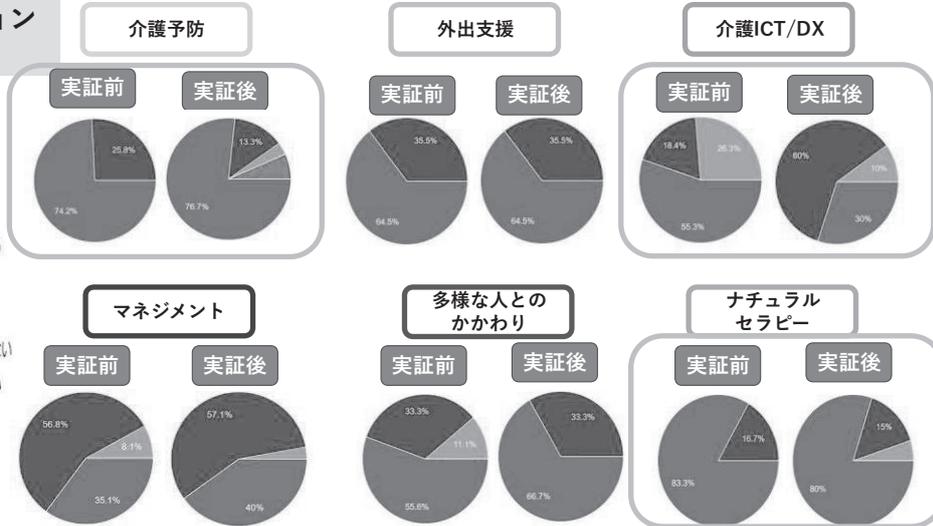


香川では、トライアル授業として、実際に教員が受講した講座のプログラムを行い、アシスタントティーチャーとして教員が座学を担当し、その後、講師が実技の担当をした。郡山では、今年から現場に就職する学生に対して、外国人介護職とのかかわり方の講座を行った。

2) アンケート結果報告

モチベーション (スキル)

- ① とても前向きな気持ちである
- ② 少し前向きな気持ちである
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり前向きな気持ちではない
- ⑤ 全く前向きな気持ちではない

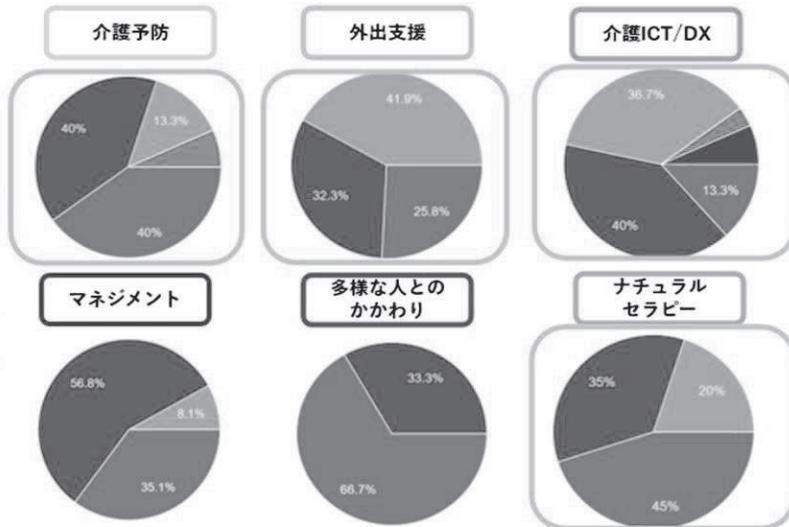


全体的に講座に対するスキル向上へのモチベーションに関しては、80%以上の受講生が「前向きな気持ちである」と回答しているが、介護予防、介護 ICT/DX、ナチュラルセラピーに関しては、受講後に「どちらとも言えない」という回答があった。理由としては、「講座内容を現場で実践できるかわからないから」という回答があった。

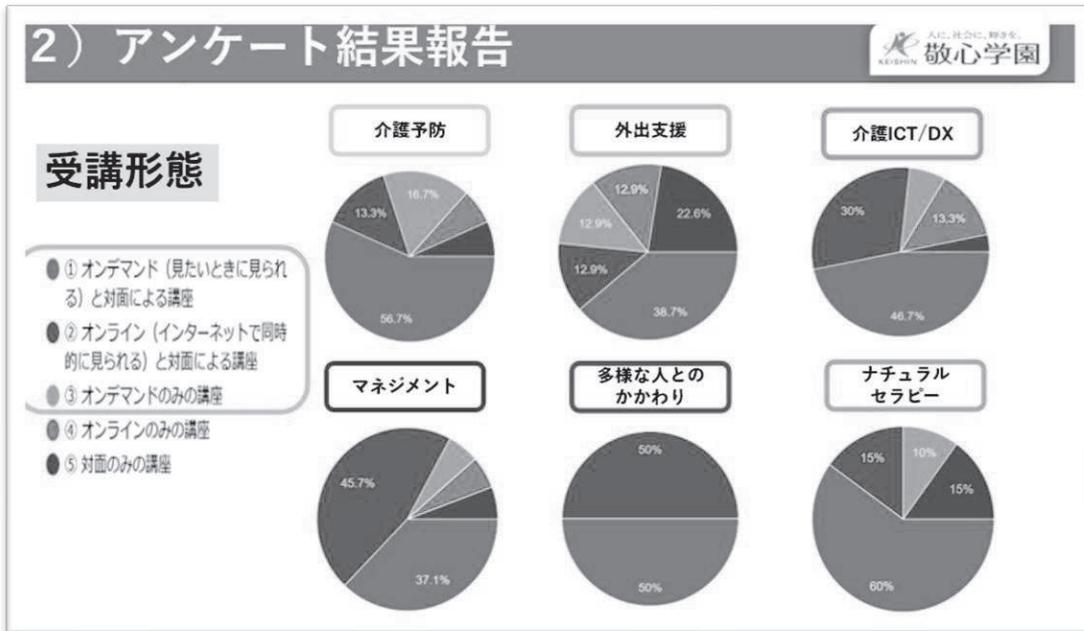
2) アンケート結果報告

現場で実践 できるか

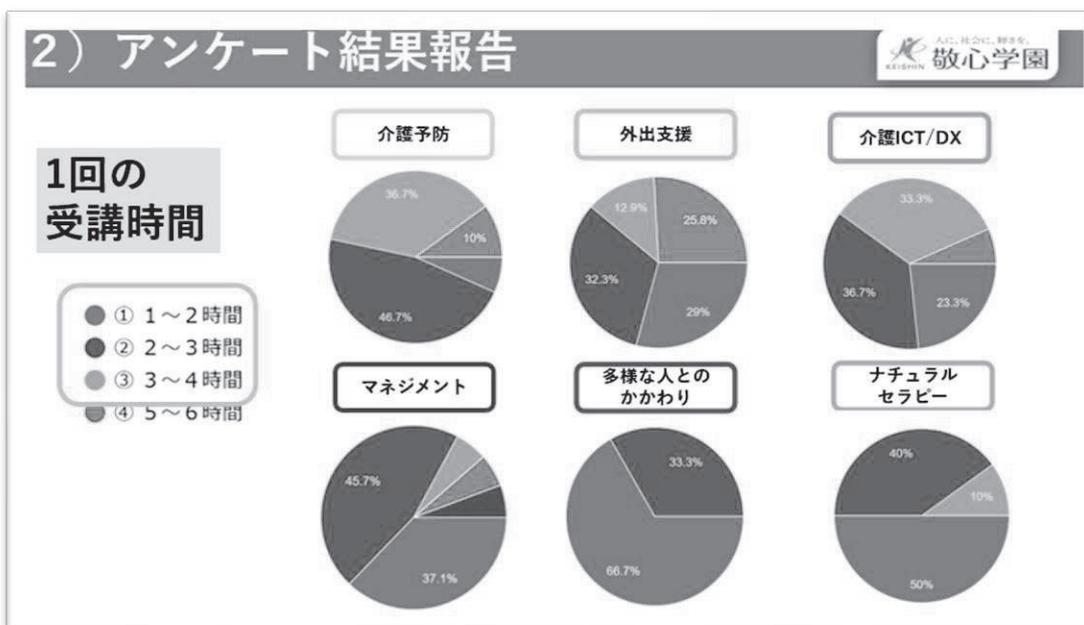
- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う



講座後に、今回の講座は現場で実践できるものかについては、先のモチベーションの結果と同様に「どちらともいえない」という回答結果となっている。理由としては、「人的に実践が難しい」「金銭的に難しい」「内容的に該当しない」などの回答あげられた。



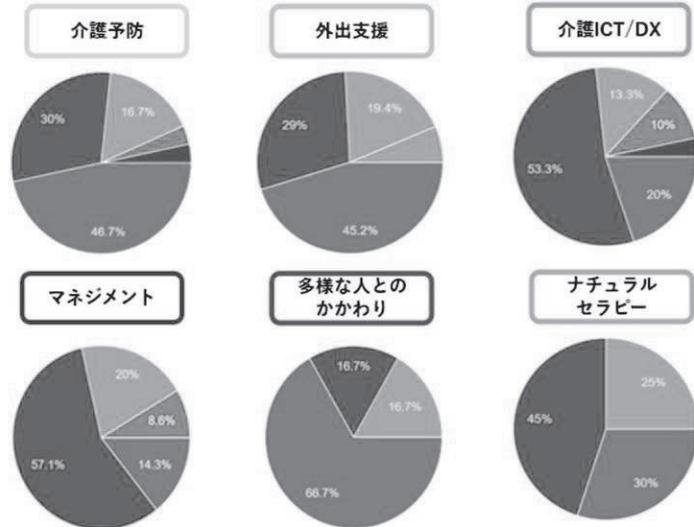
受講形態については、全体的にオンデマンド・オンラインと対面が良いという回答が多かった。受講しやすい環境という面では、人的にも時間的にも余裕がない介護の現場では、いつでも、自分の空いている時間を使って、出向かなくても学べる環境が受講継続につながるという結果となった。



2) アンケート結果報告

受講回数

- ① 1回
- ② 2回
- ③ 3回
- ④ 4回
- ⑤ 5回以上8回未満
- ⑥ 8回以上

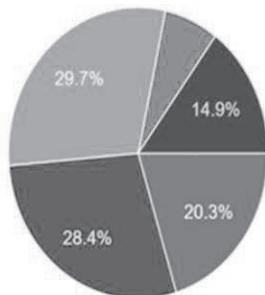


受講時間や受講回数についても平均して 1～4 時間、1～3回という短期間で希望するという回答が多かった。このデータをもとに、モジュール式の講座をすることで、回数はともかく、確実に学びの習得につながる講座を開発する必要があると考えられる。

2) アンケート結果報告

1か月後

問16：今回の研修の内容を、現場で実践できていると思いますか。



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できていると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できていると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できていないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できていないと思う

実践できない理由

- * 内容が現場向きではない。 22.2%
- * 時間的余裕がない 22.2%
- * その他 55.6%
- ・ 離職中のため
- ・ 離職中で現場がないため
- ・ 訪問介護だから
- ・ 就職経験無(学生)
- ・ 設備がない
- ・ 実践に向けた運用の構築が必要となるため

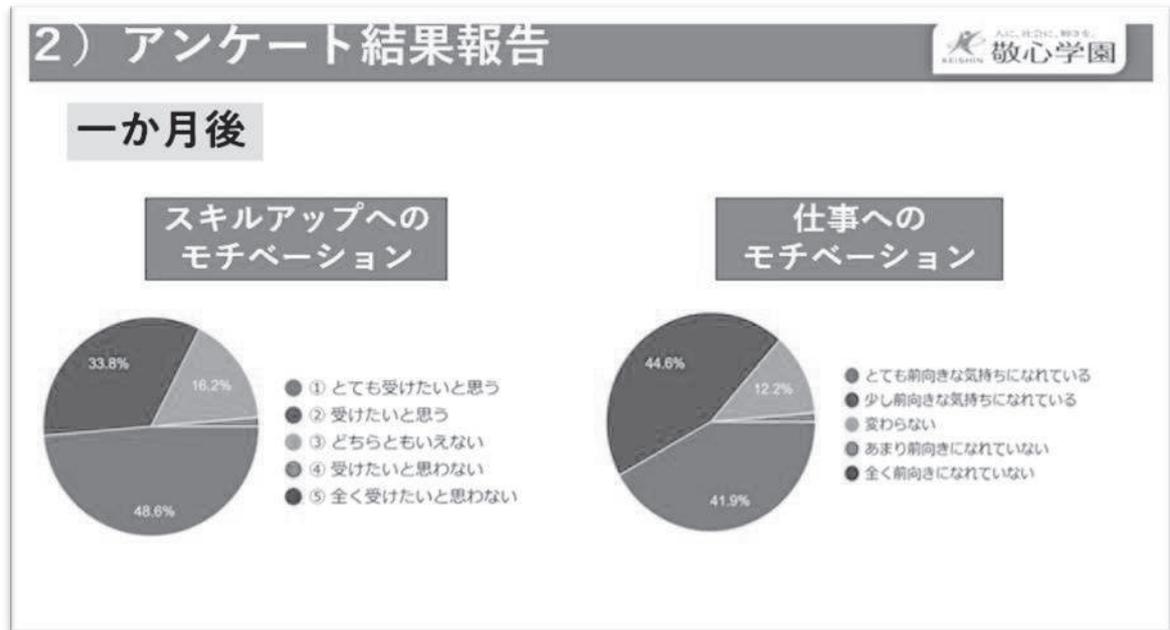
1 か月後のアンケートでは、介護職へスキル、仕事へのモチベーション、そして今後の研修へのモチベーションについても調査を行った。

* とても前向きな気持ち 41.9%

* 少し前向きな気持ち 44.6%

* 変わらない 12.2%

モチベーションが下がったという回答はなく、モチベーション上がっているとの回答が多かった。



また、今後の研修へのモチベーションについても、調査を実施した結果、

* とても受けたい 48.6%

* 受けたい 33.8%

* どちらともいえない 16.2%

研修を受けたいというモチベーションも向上している。

以上の結果から、受講者個人が、学びに対して前向きであること、そして、今回の講座を通して自分自身の知識や技術のアップデートをしたいという強い気持ちがあるという調査結果となった。この結果より、知識・技術をアップデートできる内容と受講しやすい環境の改善が必要となるため、次年度はこの課題をもとに新たなプログラムを開発が必要であると考えられる。

受講しやすい環境の改善

今回受講した施設、学校へインタビュー調査を開始した。

その結果、現場の課題として3つの課題が出された。

人材育成	<ul style="list-style-type: none">* 職員の介護業界への視野が狭いため現場で応用させるのが難しい。* 職員のモチベーションをどう上げるかが難しい。* 理念・行動指針を知らない管理職・一般職が多い。* 新しいことにチャレンジしたいが、人力的、予算的、時間などの問題を解決することが難しい
人手不足	<ul style="list-style-type: none">* 職場の高齢化し、若手を育成する文化が作れない。* ポテンシャルの低い人材を採用してしまう。* 報酬と理想による入職のミスマッチ。* 諦めがはやく、我慢ができない。
テクノロジーの受け入れ	<ul style="list-style-type: none">* 電子機器の仕様に対する抵抗<ul style="list-style-type: none">例：■パソコンのタイピングができない。■Zoomの入室ができない。■タブレットが使いこなせない。■ICT/DXという言葉を知らない。

以上の課題を、施設や学校から聞き取った。

人材不足は、慢性化しており、管理する側もどのような人材育成を行う必要があるかわからない状況であった。また、インタビューを行う中で、一番驚いたのが、ICT/DX 等に対する受け入れが数年前より全く改善されていないことである。それ以前に、電子機器という機器の操作ができないという基本の基ができていない管理職や介護職が多いということである。

このような状況から、どのような研修を受けても、基本の基ができていなければ ICT/DX も受け入れることができず、改善はされない。こうした、深刻な状況が、現在現場で浮き彫りになっている課題の実態であった。

以上のことから、上記の課題を踏まえ、対象別に合わせた講座内容に提供が必要であると考えられる。

(2) 実証報告

実証日程

	実証日	講座名	会場
1	令和5年12月8日(金)	介護 ICT/DX①	Zoom
2	12月8日(金)	ナチュラルセラピー①	Zoom
3	12月9日(土)	外出支援	リファレンス大阪駅前第4ビル貸会議室
4	12月9日(土)	ナチュラルセラピー②	リファレンス大阪駅前第4ビル貸会議室
5	12月10日(日)	介護予防	Zoom
6	12月15日(金)	介護 ICT/DX②	Zoom
7	12月15日(金)	ナチュラルセラピー①	Zoom
8	12月16日(土)	ナチュラルセラピー②	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
9	12月19日(火) 20日(水)	インタビュー調査 沖縄	
10	12月20日(水)	外出支援	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
11	令和6年1月9日(火)	多様な人とのかかわり	Zoom
12	1月11日(木)	介護 ICT/DX①	Zoom
13	1月14日(日)	介護予防	Zoom
14	1月16日(火)	多様な人とのかかわり	Zoom
15	1月18日(木)	ナチュラルセラピー①	Zoom
16	1月19日(金)	ナチュラルセラピー②	ウィリング横浜
17	1月19日(金)	介護 ICT/DX②	Zoom
18	1月19日(金)	外出支援	ウィリング横浜
19	1月20日(土)	介護予防	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
20	1月21日(日)	介護予防	Zoom
21	1月21日(日)	マネジメント	リファレンス大阪駅前第4ビル貸会議室
22	1月23日(火)	多様な人とのかかわり	ウィリング横浜
23	1月27日(土)	マネジメント	エキニア横浜『4L』
24	1月28日(日)	マネジメント	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
25	2月2日(金)	ナチュラルセラピー	学校法人 穴吹学園 穴吹パティシエ福祉カレッジ
26	2月8日(木)	多様な人とのかかわり	学校法人こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校

令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和5年12月8日(金)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	ナチュラルセラピー
■実証会場	リファレンス大阪第4ビル
■受講人数	3人
■実証担当者	小林英一、長坂愛、渡邊みどり
■講座提供	一般社団法人自然セラピスト協会

【実証スケジュール】

12月8日(金)	講座名: ナチュラルセラピー	月 日()	講座名:
12:30	会場到着		
13:00	会場準備		
	■Wi-Fi 接続確認		
	■プロジェクター設置・投影確認		
	■PC とプロジェクター接続		
	■マイクチェック		
	■Zoom 開始・録画		
14:00	講師打ち合わせ		
	参加者の出席簿		
	講座資料・教材確認		
	アンケートを行うタイミングの確認		
16:00	実証開始		
17:00	実証終了		
	片付け		
18:30	終了		
備考	* 途中休憩あり		

令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和5年12月9日(土)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	ナチュラルセラピー、外出支援
■実証会場	リファレンス大阪第4ビル
■受講人数	ナチュラルセラピー 3人、外出支援 5人
■実証担当者	小林英一、長坂愛、渡邊みどり
■講座提供	一般社団法人自然セラピスト協会 特定非営利活動法人日本トラベルヘルパー協会

【実証スケジュール】

12月9日(土) AM	講座名: 外出支援講座	12月9日(土) PM	講座名: ナチュラルセラピー
9:00	会場到着	12:00	会場到着
	会場準備		会場準備
	■Wi-Fi 接続確認		■Wi-Fi 接続確認
	■プロジェクター設置・投影確認		■プロジェクター設置・投影確認
	■PCとプロジェクター接続		■PCとプロジェクター接続
	■マイクチェック		■マイクチェック
9:30	■Zoom 開始・録画	12:30	■Zoom 開始・録画
	講師打ち合わせ		講師打ち合わせ
	参加者の出席確認		参加者の出席確認
	講座資料・教材確認		講座資料・教材確認
	アンケートを行うタイミングの確認		アンケートを行うタイミングの確認
9:40	実証開始	13:00	実証開始
15:00	実証終了	15:30	実証終了
	片付け		片付け
16:00	終了	16:30	終了
備考	* 途中休憩あり		* 途中休憩あり

【検討事項】・動画視聴の際の音出し

・スマートフォンで受講した受講生へのアンケート QRコードと URL を同時にチャットで流す。※条件: 画面 ON で受講

ナチュラルセラピー実証の様子



外出支援実証の様子



令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和5年12月15日(金)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	ナチュラルセラピー
■実証会場	Zoom
■受講人数	12人
■実証担当者	渡邊みどり、長坂愛
■講座提供	一般社団法人自然セラピスト協会

【実証スケジュール】

12月15日(金)	講座名: ナチュラルセラピー	月 日()	講座名:
15:30	Zoom 立ち上げ		
	講師打ち合せ		
	■画面共有の確認		
	■参加者の確認		
15:55	Zoom 受け入れ		
16:00	実証開始		
17:00	実証終了		
	片付け		
17:10	終了		

令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和5年12月16日(土)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	ナチュラルセラピー
■実証会場	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 本校舎
■受講人数	12人
■実証担当者	小林英一、渡邊みどり
■講座提供	一般社団法人自然セラピスト協会

【実証スケジュール】

12月16日(土)	講座名: ナチュラルセラピー	月日()	講座名:
12:00	会場到着		
	会場準備		
	■Wi-Fi 接続確認		
	■プロジェクター設置・投影確認		
	■PCとプロジェクター接続		
	■マイクチェック		
12:30	■Zoom 開始・録画		
	講師打ち合わせ		
	参加者の出席確認		
	講座資料・教材確認		
	アンケートを行うタイミングの確認		
13:00	実証開始		
15:30	実証終了		
	片付け		
16:30	終了		
備考	* 途中休憩あり		

ナチュラルセラピー実証の様子



令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」実証報告書

■実証実施日	令和5年12月19日(火)・20日(水)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で活用されているかについて情報収集を行う。
■インタビュー講座名	介護予防講座 外出支援講座
■インタビュー会場	12月19日 沖縄保育専門学校 〒900-0033 沖縄県那覇市久米 1-5-17 12月20日 デイサービス てるてる 〒904-2214 安慶名 963 番地 1F 在宅介護サービス ひまわり 〒904-2223 沖縄県うるま市具志川 1345-1
■インタビュー人数	7名
■実証担当者	小林光俊(運営企画委員) 宮本隆史(運営企画委員、実証委員会委員長) 小林英一(事業責任者、運営企画委員会副委員長、プログラム開発委員、実証委員) 渡邊みどり(プログラム開発コーディネーター)

【実証スケジュール】

12月19日(火)		12月20日(水)	
13:30	JAL0913 ANA469 沖縄着 13:30	9:00	レンタカーで移動
14:00	空港からホテルへ移動 インタビュー打ち合わせ	9:50	デイサービス てるてる うるま市 到着
15:30	インタビュー先に移動(徒歩)	10:00	インタビュー調査開始
16:15	沖縄保育専門学校へ到着	11:30	インタビュー調査終了
16:30	インタビュー調査開始	12:00	移動～昼食 午後の打ち合わせ
18:00	インタビュー調査終了	13:50	在宅介護サービス ひまわり うるま市 到着
18:10	ホテルへ移動 (徒歩) 明日の打ち合わせ	14:00	インタビュー調査開始
		16:00	インタビュー調査終了
		18:30	ホテル到着 レンタカー返却
12月21日(木)		備考	
10:00	チェックアウト 空港へ移動		
11:15	JAL0904 ANA462 羽田着 13:50分		

《インタビュー》

男性(専門学校教員) 2023.12.

・沖縄の教育での課題、メリットデメリット

→職業の理解、介護福祉を目指す学生が少ない。医療分野に目が向いている。先生からも福祉より医療を、というアドバイスもある。

→奨学金を使わないと学べない。沖縄全体の困窮。

→昔と違って学生がおとなしく、介護をやりたいという学生は少ない。小さいころから親が介護をしている姿を見てやりたいと思った、という学生の2極化がある。

→卒業後介護現場に行く勉強してきているので重宝されている。しかし、学んでない方がマネジメントをやると言われてもできない。卒業後にこうして学ぶ機会があるのはとても良い。

・介護職員のための研修があるが、施設内では積極的に取り組んでいるのか、人材不足により、そこまでできていないか。実態はどうか。

→協会が定期的開催されている(コロナ前)。現状はわからない。施設で月に1回勉強会とかはある。

沖縄では浦添市で活動が活発であり、介護福祉士会の有志がバリアフリーオリンピックなど開催している。卒業生が先頭に立って活躍している。

・地域に密着した研修ではなく、介護福祉士全体の課題とする研修はどうか。

→妻が介護福祉士で現場にいる。研修に積極的なところもあるが、人材不足でそれどころではない。というのが概ねの意見である。マネジメントをすることができていない。知識も学びもない。そういうところが多そうである。現場で意識づけをしないと、学び続けることが大切であることを養成校でも伝えないと厳しい。

・マネジメントが肝で、そこを改善しないと人材不足を回避できない。そこができていない人がどれだけできているのか。施設単体での要望もある。どんな形態 活用、専門学校卒業生向け

授業の中で取り組めることはどんなことがあるか。(授業形態、効果など)

→沖縄県内養成校2校でヒアリングを聞いてみてほしいと思う。

・なぜ介護予防を受講されるのか。

→高校訪問に行くことがあり、身近にいるおじいちゃんやおばあちゃん、デイサービスに通う人がどういったことをやっているのか、自分のからだを知るところから興味を持ってもらって、それが必要な人は「介護」、「介護福祉士」とつながっていくのではないかと思いを希望した。

・効果として、授業や学生募集のために受けるのか。

→介護予防士という響きがいい。介護予防をいろいろ学べるからいいと思った。

・ICTやマネジメントは大事かと思うが、どうか。

→必要性はすごく感じる。現場で働いていたとき手書きからシステムに移行する時期で、苦手意識がある人が多かった。進化しているので必要かと思う。

・施設によって特色があるので、その特色に合わせた講座を受けられるといいと思う。

時期的に国試終わってまでの時間はどうか。

→地域との連携を行事に入れている。国試後は授業がパンパンである。国試後は厳しいかもしれない。就職先とつながる学びは大切なのでタイミングを学校内で確認する。

・力を入れている施設の情報を紹介してほしい。

・国試に向けてのモチベーションアップにもなる。学生のうちに火を付けられるといい。やる気がある学生は地方が多い。

→介護はだれでもできる仕事でない。福祉に向いている子がどこにいるのか。掘り起こしが必要だと感じた。

・職業の理解、コース設定 対人援助職的側面から入っていくことで福祉のマインドを持った子が入学してくれる。支配因子をどう排除するか。

→免許に近い。福祉は誰にでもさせてはいけないという感じがある。

・留学生はどうか。

→国によって違う。中国での国の事情を見越した上で来ている。ネパールの方は明るい。高齢者施設で方言を話し、高齢者が喜ぶ。人懐っこく入りが上手である。よしあしはある。学ぶことは文化の違いがあり、意見を合わすのが大事だが、多少のずれがある。

・N3 といっても怪しい人もいるがどうか。

→N3 持っても怪しい人がいる。校内で日本語を勉強する時間を設けているが、実際伝わっていないな、ということはある。願書でも難しいことがある。基準に満たしていれば大丈夫ということにしている。

・留学生、どこの国が多いか。

→フィリピン、ネパールが多い。ベトナムは少ない。

・ネパールのコミュニティが強いが。

→就学資金を借りて永住権がもらえるということが口コミで広がっている。コミュニティがある。ここ数年で沖縄に増えた。技能実習が多い。ベトナムが多く、ミャンマー、中国がちらほらである。ネパールは入ってきたところである。

・中国の学生の層はどうか。

→中国は少なく1名。日本語講師をしていて興味があり入学してきた。

デイサービスでてる 男性 外出支援受講予定

・独自の研修はどんなものがあるか。

→動画研修を行っている。

・どんなところで役立てているか。

→法定研修、職員研修、入職時、認知症など。法定研修がメインになっている。

・ICT の研修はどうか。

→介護ソフトをいくつか使っている。リハプログラム、計画書作成などで使っている。

・なぜ今回の講習を選んだが。どう活用したいか。

→外出支援はデイサービスの屋外活動があり、準備から知識を入れた上で運用したいと思った。

・外国人の職員はいるか。

→外国人の受け入れは考えていない。一度話はあった。ミャンマーの人だったがデイサービスで介護技術だけでは難しくコミュニケーションが大事だと思い、受け入れなかった。

・チームリーダーの年齢は。

→45 歳。チームリーダー一人、リハリーダー、看護リーダー4 職種で行っている。PT も OT もいる。

・今後希望する研修は。

→通所介護事業なので、入浴、緊急時の対応、リハ、レクリエーションを行っている。レクリエーションの中で外出支援が使えるかと思って今回受講した。希望する研修は思いつかない。

・Web での研修をどこで知ったか。

→あるのは知っていた。生活相談員の相談が 10 年前にあり、その研修で知った。カイポケで見に大阪に行ったときでも見た。半年に一度くらい案内が送られていた。内容が充実しているので去年の夏に変えた。

・今後受講しやすい受講形態はどうか。可能性がある時間帯や曜日はどうか。

→平日の 5~6 時がよい。1 時間程度。

・職員さんは全員 PC ができそうか。

→15 名いるが 5 名くらいができる。

・Zoom を設定すればアクセスできるか。

→セッティングをしてからなら受けられる。事業所でオンラインなら受けられる。

・研修のいかにする基準は。

→年に一度職員と面談。どうなりたいか、やりたいこと、学びたいことを聞いている。そこで研修を進めている。

- ・東京と沖縄で比較すると研修はオンラインを使用しないとフィールドが狭まっている、出向かないといけない感じか。
- そうだと思う。
- ・事業所をスタートされてどれくらいだったか。
- 10年になった。
- ・以前は何をされていたか。
- ずっと通所介護。20年になる。デイケアに入職、2年後新規立ち上げの手伝いでデイサービス、一旦デイケアに戻り、有料老人ホームの立ち上げにかかわり、ここに来た。
- ・20年やっている理由は。
- 小中高と野球をやっていた。看護の道も考えたが、親と相談して人と関わる仕事をしたいと思っていた。学校の先生の勧めもあり福祉の道に進んだ。
- ・野球をやっていたからこそチームワークがあり、なにかヒントがあり、マネジメントの質が生活の中に密着していたように感じたが。
- 介護の仕事は一人ではできない。協力が必要で看護師やセラピストやそこの連携がうまくいかないといいものが提供でいない。質はとても大事にしている。連携だけでなく接遇も大切にしている。
- ・やってほしい講座はあるか。
- ナチュラルセラピー 13時～14時食事後暇にしている人が多い。2年前は職員の独学でオイルハンドマッサージをした。セラピーを受講してみるのもいいと思った。
- ・例えば来年度、オンデマンドで受講、実践を受けて、翌日利用者さんに受けてもらうこともできる。その中で学生さんも来てもらってやってみるのはどうか。
- ・今この事業での困りごと
- 集客が困っている。ライバルが多い。ケアマネが紹介する。
- ・高齢者が増えていないのか？特養が閉鎖、縮小しているところが地方に多いが。
- 高齢者数は変わっていない。選べるというのはあると思う。リハビリがいいところ、認知症対応がしっかりしているところ、ゆっくりできるところ。うちは機能訓練に特化した事業所であれもこれもやっていると認知症の人に手が取られ、他の人に手が回らないことがある。
- ・介護度は。
- 5までいる。
- ・一日の利用者さんは。
- 20名くらい。職員は3:1くらいである。

(有)在宅介護サービスひまわり 訪問介護ひまわり

所属と資格、受講講座：

- ・男性 総務・現場 介護福祉士 介護予防
- ・女性 訪問介護サービス担当責任者 外出支援
- ・女性 訪問介護サービス担当責任者 介護福祉士 外出支援
- ・施設内でどんな研修をしているか。
- 部署単位でオンデマンドの研修を受けている。
- 1本あたり5～10分、実技・講話など部署に合わせて行っている。
- 管理者を中心に経営を定例会議で視聴し資料を使って行っている。
- ・どこのオンデマンド研修サイトを使っているか。
- ジョブメドレと年間契約をしている。

・研修はどうやって決めているか。人選など基準

→一般職員が研修に出るのは厳しい。入所時に虐待防止の動画を見てもらっている。

部署内で動画が短いので見てもらっている。

管理職も抜けると厳しいので、動画を見てもらっている。

・なぜその講座を選んだのか。

→介護予防を受けたが、仕事内でリハビリと関わることがあった。ストレッチの仕方など知りたかった。

→訪問介護の部門でトラベルヘルパーを受けてみて。今後の業務にいかせれば良いと思った。

→やったことのない科目だったので、利用者さんのためになれば良いと思って受講を希望した。

・ICT や外国人のことで興味はどうか。

→来年春先、外国人採用を進めている。項目の中で多様も気になっている。

技能実習生、指導者と生活指導の講習を受けてもらうことを考えている。職員に理解を深めたいと思う。

・職員の中で ICT の問題は。

→タブレットでペーパーレス化をようやくスタートした。タブレットの使い方がわからない、パソコンもできない方が多いのが現状である。

スマートホンの利用はできる。

・Zoom はどうか。

→コロナの時は何度か Zoom を使ったが。リアル会議が多い。温度差があるので緊急時以外 Zoom を使用していない。

・オンラインに否定的な人もいると思うがどうか。

→否定的ではないが、覚えられない。産業医面談でオンラインを取り入れている。リンクを送ってもなかなか覚えてもらえない。

・タブレット以外で介護ロボや機器を活用する考えは。

→検討に入っていない。

・ナチュラルセラピーに興味、デイサービスのまったり時間に取り入れたいものはあるか。

→アロマで石鹸づくりをやったことがある。動画であれば役立つ。

・6 つ以外であつたらいい講座は。

→調理実習を動画で見て、他がどうしているか知りたい。

・何を知りたいかにもよる。予算、時間、基礎などアンケートに入れてほしい。ヘルパーさんの年齢は。

→50～70 歳。

・課題は

→ヘルパーさん独自でかかるとその人の概念になるので、時短になるなど伝えたい。

・訪問介護は時間が短い。

→メニューが決まっているのでマンネリ化する。時間配分もあるし、利用者さんを楽しませたいがそれができないのが歯がゆい。

・デイサービスの課題は。

→管理職など責任を担いたくない若者が多く、次の育成が課題である。

・管理者研修は独自で行っているか。

→プログラムで視点を学んでもらう。他社から責任者を呼んで研修を受けてもらっている。

・チームリーダーの年齢層は。

→30 歳代半ばが多い

・なぜ管理者になりたくないのか。

→自分の時間。管理者をみて、自分はそうしたくないと思う。

・みなさんは管理者層になるのか。

→男性:ずっと断ってきた。やらざるを得なくなった。

→女性:求められてもやらない。自分のライフスタイルをメインにする。家のことなど。

・前職は。

→男性:製造系

・転職の機は

→リハビリに興味があり勉強した。機能訓練に近いことに興味があった。デイサービスにもいろいろなスタイルがある。その中でも自分に合っていると思った。

→女性:エステ。通所だとマッサージが使える。もともと通所で働いたことがあり、エステティシャンをやって、そのあとヘルパーさんから。

→女性:スーパーの販売。親の面倒を見るためにヘルパーの講習を受けて奥が深くて無理だと思ったが、離婚をきっかけになにもわからないまま10年くらいたっている。介護の仕事は魅力を感じている。

・人材不足は離職者が多いのか、なり手が少ないのか。

→両方である。大半は多職種に行く。金銭面が問題だからである。

・会社として困っている、改善したいことはあるか。

→人である。確保と定着が課題である。

・介護を受ける人の募集は。

→それは大丈夫である。ライバル会社はけっこうある。

・サービス提供の魅力は。

→社長が理学療法士。リハビリにこだわりがあり、魅力になっている。介護度に合わせてカバーできる施設を持っているのが強みである。

・一番受講しやすい時間帯は。

→業務内なら参加するが、業務外なら帰る。業務内の時間は厳しい。業務は17時半までである。

いろん事業所があり定例会がある。一つの部署としてやることは可能かもしれない。

令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和5年12月20日(水)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	外出支援
■実証会場	日本福祉教育専門学校
■受講人数	外出支援 14人
■実証担当者	内田和宏、仲野ふみ
■講座提供	特定非営利活動法人日本トラベルヘルパー協会

【実証スケジュール】

12月20日(水) AM	講座名: 外出支援講座	月日()	講座名:
9:00	会場到着		
	会場準備		
	■Wi-Fi 接続確認		
	■プロジェクター設置・投影確認		
	■PCとプロジェクター接続		
	■マイクチェック		
9:30	■Zoom 開始・録画		
	講師打ち合わせ		
	参加者の出席確認		
	講座資料・教材確認		
	アンケートを行うタイミングの確認		
9:40	実証開始		
15:30	実証終了		
	片付け		
16:00	終了		
備考	* 途中休憩あり		

外出支援実証の様子



令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和6年1月9日(火)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	多様な人とのかかわり
■実証会場	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 本校舎・Zoom
■受講人数	8人
■実証担当者	小林英一、仲野ふみ、長坂愛
■講座提供	プログラム開発 多様な人とのかかわり講座分科会 講師：鳥居、吉田

【実証スケジュール】

1月9日(火)	講座名:多様な人とのかかわり	月日()	講座名:
12:40	Zoom 立ち上げ		
12:50	講師打ち合わせ		
	講座資料・教材確認		
	参加者の出席確認		
	Zoom 開始・録画		
13:00	実証開始		
16:00	実証終了		
	来週の打合せ		
16:15	終了		

令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和6年1月16日(火)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	多様な人とのかかわり
■実証会場	Zoom
■受講人数	7人
■実証担当者	小林英一、仲野ふみ、長坂愛
■講座提供	プログラム開発 多様な人とのかかわり講座分科会 講師：鳥居、吉田

【実証スケジュール】

1月16日(火)	講座名:多様な人とのかかわり	月日()	講座名:
12:40	Zoom 立ち上げ		
12:50	講師打ち合わせ		
	講座資料・教材確認		
	参加者の出席確認		
	Zoom 開始・録画		
13:00	実証開始		
16:00	実証終了		
	講師打合せ		
16:15	終了		

令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和6年1月18日(木)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	ナチュラルセラピー
■実証会場	Zoom
■受講人数	12人
■実証担当者	長坂愛
■講座提供	一般社団法人自然セラピスト協会

【実証スケジュール】

1月18日(木)	講座名: ナチュラルセラピー	月 日()	講座名:
15:30	Zoom 立ち上げ		
	講師打ち合せ		
	■画面共有の確認		
	■参加者の確認		
15:55	Zoom 受け入れ		
16:00	実証開始		
17:00	実証終了		
17:10	終了		

令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和 6 年 1 月 19 日(金)
■委託事業名	令和 5 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	外出支援 ナチュラルセラピー ICT/DX
■実証会場	ウィリング横浜
■受講人数	外出支援 対面 3 人 オンライン 14 人/ ナチュラルセラピー 12 人/ ICT/DX 53 人
■実証担当者	櫻井 直人 プログラム開発委員 ナチュラルセラピー分科会 光星 きらら プログラム開発委員 ナチュラルセラピー分科会 角田 大騎 プログラム開発委員 介護予防分科会 小林 英一 事業責任者 運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員 実証委員 長坂 愛 非常勤コーディネーター 渡邊みどり プログラム開発コーディネーター
■講座提供	特定非営利活動法人 日本トラベルヘルパー協会 一般社団法人自然セラピスト協会 株式会社善光総合研究所／社会福祉法人善光会

【実証スケジュール】

1 月 19 日(金)	講座名:外出支援	1 月 19 日(金)	講座名:ナチュラルセラピー
9:00	会場到着・会場準備	9:00	会場準備
	■プロジェクター設置・投影確認		■プロジェクター設置・投影確認
	■Wi-Fi PC とプロジェクター接続		■Wi-Fi PC とプロジェクター接続
	■マイクチェック Zoom 開始・録画		■マイクチェック Zoom 開始・録画
	講師打ち合わせ	11:00	実証同行委員との打ち合わせ
	参加者の出席簿 資料・教材確認	12:30	講師打ち合わせ
9:40	実証開始		参加者の出席簿 資料・教材確認
15:30	実証終了	13:00	実証開始
	片付け	15:30	実証終了 片付け
16:00	終了	16:00～17:00	ナチュラルセラピー分科会
備考	* 途中休憩あり		介護予防分科会打ち合わせ

1月19日(金)	講座名:ICT/DX 2日目	【課題】 ①テキスト、アンケート、ZoomURL の送付時期 当日届いていないなどの問い合わせがあった。 ②対面の会場に辿り着けない受講生がいた。 ③講師側 PPT などの資料がなく、当日共有できなかった。 ④外出支援の受講後の課題提出についてのアナウンス が不足し受講生から問い合わせがあった。 ⑤Zoom の操作自体ができない講師・受講生がいた。 【改善点】 ① について * 申し込み返信時、講座開催の 1 週間前後にテキスト、 アンケート、ZoomURL を送ることをアナウンスする。 * 募集締め切りを 1 週間前にし、受講 1 週間前にテキ スト、アンケート、ZoomURL、事前課題が全てセットで送 り前日にリマインドで再び上記に詳細を送る。 ②対面の会場については、部屋番号、アクセス方法をよ り細かく提示する。 ③講座で共有する資料は事前に作成する。 ④受講後の流れについて、資格取得までの流れを作成し 講座後に案内する。 ⑤Zoom の操作の説明動画を作成し事前に学習してく てもらう。
8:40	Zoom 受け入れ	
9:00	実証開始	
16:00	実証終了	
備考	* 途中休憩あり	

外出支援実証の様子



ナチュラルセラピー実証の様子



令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和 6 年 1 月 20 日(土)
■委託事業名	令和 5 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	介護予防
■実証会場	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 高田校舎 234 号室
■受講人数	16 人
■実証担当者	角田 大騎 プログラム開発委員 介護予防分科会 光星 きらら プログラム開発委員 ナチュラルセラピー分科会 柳沼 亮一 実証委員 八子 久美子 実証委員 渡邊みどり プログラム開発コーディネーター
■講座提供	特定非営利活動法人 日本介護予防協会

【実証スケジュール】

1 月 20 日(土)	講座名:介護予防	【課題】 ① スクーリングの内容について、主催者側と内容の共有ができていなかった。 ② セッティングのレイアウトについて事前の共有ができていなかった ③ スクーリング欠席者の補講についての対応。 ④ ほとんどの参加者が学生であり、介護職の参加が少なかったためアンケート質問内容に答えられなかった。 【改善点】 ① 事前共有をする。 ② レイアウトなども確認し会場の広さも検討する。 ③ 期限を決めて受講してもらい、受講終了の連絡を主催者側にもらう。 ④ 学生も回答しやすい質問にする。
9:00	会場到着・会場準備	
	■Wi-Fi 接続確認	
	■プロジェクター設置・投影確認	
	■PC とプロジェクター接続	
	■マイクチェック	
	■Zoom 開始・録画	
9:30	講師打ち合わせ	
	参加者の出席簿・講座資料・教材確認	
	インタビューを行う受講生の選出	
9:40	実証開始	
16:30	実証終了	
16:30	インタビュー	
17:30	片付け・終了	
備考	* 途中休憩あり	

受講生インタビュー

インタビュー項目
1:今回開催した6つの講座の中で、なぜ、この講座を受講したのか？
2:この講座の良かった点・改善してほしい点はなにか？
3:この講座は現場で活用できると思いますか？
3::できると答えた人:どのような場面でそれが活用できると思うか？ できないと答えた人:なぜ、活用できないと思うのか？
4:介護職の視点から、ほかにどのようなプログラムを追加したら、介護職が行う介護予防になると思うか？
5:講座の時間についてどうだったか？受講継続しやすい時間はどれくらい？
6:オンラインとスクーリングの配分について、受講継続しやすい配分や時間はどれくらい？
7:事前課題について、申し込みからどれくらい前に届いていたら準備できますか？
8:今回の講座を他人に進めたいと思いますか？

介護予防実証の様子



令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和 6 年 1 月 21 日(日)
■委託事業名	令和 6 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	マネジメント
■実証会場	リファレンス大阪第 4 ビル
■受講人数	11 人
■実証担当者	菊地 克彦 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 前田 みどり プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 朝野 愛子 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 太原 靖一郎 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 内田 和宏 実証コーディネーター マネジメント講座分科会委員 小林 英一 事業責任者 運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員 実証委員
■講座提供	プログラム開発 マネジメント講座分科会 講師: 菊地、前田、朝野、太原、内田

【実証スケジュール】

1 月 21 日(日)	講座名: マネジメント
12:00	会場到着・会場準備
	■Wi-Fi 接続確認、プロジェクター設置・投影確認、PC とプロジェクター接続、マイクチェック
	■ビデオ開始・録画
	講師打ち合わせ
	参加者の出席簿
	講座資料・教材確認
	アンケートを行うタイミングの確認
13:00	実証開始
19:00	実証終了
	片付け
18:30	終了
備考	* 途中休憩あり

受講生インタビュー(2名)マネジメント経験者(5年以上・10年以上)

1:今回開催した6つの講座の中で、なぜ、この講座を受講したのか？

・会社から言われてきた。

2:この講座の良かった点・改善してほしい点はなにか？

・非常に今の仕事に役に立つ話だった。具体的で明日から出来る内容だったからよかった。長時間だと思ったが、あっという間だった。資料がすべて手元にあるわけではないため、目が悪くてスクリーンが見えないときがあった。日頃から面談をしているため、そういう人には自分の振り返りをしながら出来たので、とても良かったと思う。面談やマネジメント経験がない人には少し難しいかもしれない。

・会社指示で参加したが、これほど頭が整理された、仕事に役立つ、マネジメント総論の講義は受けたことがない。初めてマネジメントをした人には難しいかもしれないが、経験者としては総論として網羅されたため、非常に勉強になった。

3:この講座は現場で活用できると思いますか？

・ロールプレイ、話の聞き方、話の割合、面談のやり方など、明日からすぐに使える内容だった。

・自分のリーダーシップスタイルを知ることができた。リーダーシップスタイルで2番が多く、それが課題であることが明らかになったのでよかった。そういったことを踏まえて、整理することができた。

4:介護職管理職としての視点から、ほかにどのようなプログラムを追加したら、介護職へのマネジメントできるようになると思うか？

・運営・経営の経営の話を学びたい。一般的な経営ではなく、介護施設の経営というジャンルであれば受けてみたい。普段、経営に関して学ぶ機会がOJTが多い。介護業界の社会情勢や制度などを踏まえ、将来を踏まえた介護事業所の経営をどうするか、といったプログラムには興味がある。

・介護現場に応募してくる人は精神に問題を抱えた方も多く、優しい人(逆に言えばガラスのハートの人)も多い。Z世代、シニア層も多い。そういう人への関わり方に悩んでいる人が多い。そういう介護施設に応募してくる職員の人の特性を踏まえたマネジメント講座があると興味深い。

5:講座の時間についてどうだったか？受講継続しやすい時間はどれくらい？

・内容的には充実したが、時間が足りなかったと思う。それぞれ1時間に5分程度息抜きが欲しい。

・充実していてよかったが、丸1日にしてもよいのではと思った。会社の仕事として研修に来るときは、半日ではなくても、1日単位の方が参加しやすいかもしれない。

6:オンラインとスクーリングの配分について、受講継続しやすい配分や時間はどれくらい？

・この内容だったら、対面でやった方がよいと思う。

7:事前課題について、申し込みからどれくらい前に届いていたら準備できますか？

・特に問題なし。分量も丁度良いと思う。

マネジメント実証の様子



令和5年度 文部科学省委託事業

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

実証報告書

■実証実施日	令和6年1月23日(火)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効的かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	多様な人とのかかわり
■実証会場	ウィリング横浜
■受講人数	1人
■実証担当者	長坂愛
■講座提供	プログラム開発 多様な人とのかかわり講座分科会 講師: 吉田

【実証スケジュール】

1月23日(火)	講座名: 多様な人とのかかわり	月日()	講座名:
12:30	会場設営		
	講師打ち合わせ		
	講座資料・教材確認		
	参加者の出席確認		
	Zoom 開始・録画		
13:00	実証		
	※対面での受講希望があり準備を行ったが、当日キャンセルとなった。		

令和5年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和6年1月27日(土)
■委託事業名	令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	マネジメント
■実証会場	エキニア横浜 The point 『4L』
■受講人数	11人
■実証担当者	菊地 克彦 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 朝野 愛子 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 太原 靖一郎 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 内田 和宏 実証コーディネーター マネジメント講座分科会委員 千石 友明 実証委員 長坂 愛 事務局
■講座提供	プログラム開発 マネジメント講座分科会 講師: 菊地、朝野、太原、内田

【実証スケジュール】

1月27日(土)	講座名: マネジメント
12:00	会場到着・会場準備
	■Wi-Fi 接続確認、プロジェクター設置・投影確認、PC とプロジェクター接続、マイクチェック
	■ビデオ開始・録画
	講師打ち合わせ
	参加者の出席簿
	講座資料・教材確認
	アンケートを行うタイミングの確認
13:00	実証開始

19:00	実証終了
	片付け
19:30	終了
備考	* 途中休憩あり

受講生インタビュー(2名、施設長3年以上、管理者1年以上)

インタビュー項目

1:今回開催した6つの講座の中で、なぜ、この講座を受講したのか？

- ・会社から管理者向けにお知らせがあったため。
- ・ご自身が昨年6月から管理していて外部の講座に参加してみたかったため。

2:この講座の良かった点・改善してほしい点はなにか？

- ・よかった点は自身のマネジメントの課題点がみつきり、明日から実践できそうなことがあった点である。グループワークは他施設、多職種の人と交流が出来たらさらによかった。リーダーシップスタイルについて、2の項目が多かったことに気がついたのはよかった。時間が長かったのも、最初はあまり乗り気がしないなかでの参加だったが、講義は楽しかったのも時間がすぐに過ぎた。自分はデイサービスで働いているが、事例としては共通する点は多かったのも気にならず勉強することができた。
- ・マネジメントの概論として聞いたことがあるものもあったが、今回さらに細かいことを知れたのでよかった。知ってはいる知識を実行できていなことを気づくことができた。終わりの時間が少し遅いので、朝からしていただいた方が私は都合がよい。

3:この講座は現場で活用できると思いますか？

- ・コミュニケーションは質より量ということを再確認できたので、再度意識してコミュニケーションを試みたいと思っている。
- ・現場で活かせるような気はしている。席の位置関係を意識してみる。働きかけることも、質より量が大事であること、理念の伝え方、相手の理解の確認をきちんと行おうと思った。

4:介護職管理職としての視点から、ほかにどのようなプログラムを追加したら、介護職へのマネジメントできるようになると思うか？

- ・デイサービスで使えるテーブルレクリエーションの講座があると嬉しい。
- ・今はマネジメントに興味があるので、自分にとって本講座が有意義であった。

5:講座の時間についてどうだったか？受講継続しやすい時間はどれくらい？

- ・聞いているだけではない講座だったので、ちょうどよかった。
- ・ちょうどよかった。

6:オンラインとスクーリングの配分について、受講継続しやすい配分や時間はどれくらい？

- ・対面の方がよい。
- ・対面の方がよい。

7:事前課題について、申し込みからどれくらい前に届いていたら準備できますか？

- ・そこまで難しくなかったのし、量も丁度良かった。
- ・負担にならず、ちょうどよかった。

8:今回の講座を他人に進めたいと思いますか？

- ・眠くならない、楽しい講座として勧めることができる。
- ・勧めたいと思う。神奈川で研修しているという先生もいたので、他の研修も調べてみたい。本で見るのと実際に聞くのは違うので、対面でやっていただいたほうがよい。

マネジメント実証の様子



令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和 6 年 1 月 28 日(日)
■委託事業名	令和 5 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	マネジメント
■実証会場	日本福祉教育専門学校 本校舎 142 教室
■受講人数	24 人
■実証担当者	菊地 克彦 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 朝野 愛子 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 太原 靖一郎 プログラム開発 マネジメント講座分科会委員 内田 和宏 実証コーディネーター マネジメント講座分科会委員 渡邊みどり 事業責任者 運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員 実証委員 伊藤 健次 プログラム開発委員
■講座提供	プログラム開発 マネジメント講座分科会 講師: 菊地、朝野、太原、内田

【実証スケジュール】

1 月 28 日(日)	講座名: マネジメント
12:00	会場到着・会場準備
	■Wi-Fi 接続確認、プロジェクター設置・投影確認、PC とプロジェクター接続、マイクチェック
	■ビデオ開始・録画
	講師打ち合わせ
	参加者の出席簿
	講座資料・教材確認
	アンケートを行うタイミングの確認
13:00	実証開始

19:00	実証終了
	片付け
19:30	終了
備考	* 途中休憩あり

受講生インタビュー(プログラム開発委員)

- ・現場での実践が目標である場合、太原先生以外の2つの講座にもスキルトレーニングの演習内容がよく入った方がよりよいと思った。講義内容としては充実しているが、演習増やしてもよいかと思った。
- ・6時間一本勝負は厳しいのではないかと。例えば、1時限を3時間にして、講義+演習として3日に分けるというのもよいのではないかと。今日は現場を知らない管理者が多い印象であった。「現場を知らないマネジメント職向け」と「現場経験をしてのマネジメント職」によって学ぶべきことは違うと思う。福祉のベースはあるけどマネジメントがない、企業マネジメントは知っているが福祉ベースはないなど、人によって内容を変えたり、順番を変えてもよいのではないかと。例えば、今日のような参加者だった場合は、朝野先生→菊地先生→太原先生という順番で学んでもよいのではないかと。

マネジメント実証の様子



令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和 6 年 2 月 2 日(金)
■委託事業名	令和 5 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	ナチュラルセラピー
■実証会場	穴吹パティシエ福祉カレッジ
■受講人数	ナチュラルセラピー 24 人
■実証担当者	仲野 ふみ 事務局 長坂 愛 非常勤コーディネーター
■講座提供	一般社団法人自然セラピスト協会

【実証スケジュール】

2 月 2 日(金)	講座名:ナチュラルセラピー	月日()	講座名:
13:00	・会場準備		
	■プロジェクター設置・投影確認		
	■Wi-Fi PC とプロジェクター接続		
	■マイクチェック		
13:30	・実証開始(講義)		
14:30	教材準備・設営		
15:00	実証開始(実技)		
16:30	実証終了		
	片付け		
17:00	終了		
備考	* 途中休憩あり		

受講生インタビュー（以前ナチュラルセラピーを受講された先生）

質問1: 今回の授業を行っての良かった点、悪かった点について

・悪かった点として、基本的には多国籍であったため、香りやその他も含めて、文化が国によって違うので、事前に知っておくとよかったと感じた。

・時期は、理想的であった。ある程度、介護の基礎の部分を理解したうえで、生活支援としての手段を学べていると思う。入学して間もない方だと、混乱すると思う。

質問2: 授業を行って、介護福祉学科の学生に提供できそうか？またそれについての理由

・受講者が、大人の方であれば、家族や周囲の方へという手段になるが、若年層に関しては、“どこで使えばよいのだろう”となると思う。また、1(講師)対 60(学生)での講義は厳しい。サポートの教員が必須である。少数でグループ分けして、見回りながら行うのであれば、出来るかなと感じる。

・授業の中では、手浴・足浴・入浴の部分でのバージョンアップ、介護予防のレクリエーションという部分でアロマでの介入の取り入れ、生活支援の応用バージョンでのアロマの導入が検討される。

質問3: 来年、同様の講座を受けたいと思うか

この講座に限らず、“受けて、学んで、自信をつけることで、伝えられる技術になる”ので、今はまだ質問などの対応ができないので、引き続き学びたいと思う。

質問4: 介護福祉学科として、今後どのような内容を学生に学んでほしいか

・現在、外国人の国家資格取得に向けての講義に特化している部分があるため、取得できる資格も減っている現状である。

・日本人の学生に関しては、今後の働き方なども見据えて、様々な視点を増やしてほしい。また、卒業した際に、誇れる知識や技術を持ってもらいたい。例えば、選択科目の一種として、ナチュラルセラピーのコースを受講するなどの方法ができれば、理想かなと感じる。

質問5: 今回の受講内容に加えて、必要な項目はあるか？

認知症の方に特化した支援方法についてなどがあるとよい。

ナチュラルセラピー実証の様子



香川インタビュー調査@大豊福祉会 2024年2月2日(金)15:00~16:00

インタビュー担当者:小林英一(事業責任者兼プログラム開発委員)、渡邊みどり(コーディネーター)

理事長

秋山クリニックという香川町にある医療と介護の施設もある。デイケアの管理者が穴吹りハビリ専門学校の卒業生で校長から講座紹介があり、そのチラシをみておとよ荘の人たちが行った方がいいと思い、つながった。

受講料が無料というのはありがたい。

→(理事長)1回の研修では実践にいかせない。

・課題はあるのは前提で実施した。対象者にばらつきがあり、今後対象別にしたいと考えている。

→現場から管理者なのか、そうではないのかで変わってくる。考え方を切り替える必要がある。介護職の人を管理職におくときショックの壁をどう乗り越えさせたら良いか。大事である。

習熟度によってわかるのは良いと思う。

女性 役職:看護師兼人事担当 受講講座:多様な人とのかかわり

・受講してどうだったか。

→1月からベトナム人の受け入れがあったのでタイミングが良かった。

初めて受講をした。外国人がどのようにして入ってくるのかがわかってとても良かった。吉田さんの最後の動画は涙が出そうになった。

・講座後どうか。

→最初手探りでやっていたが、彼もいろいろなことを背負ってやってきているんだということがよくわかった。こういったことを今後教えていけないといけないと思う。

→(理事長):食事会をしましたね

→吉田さんの話は、我々と同じ目線で話をしてくれたので、経験でこうしていこうという目標ができた。

・受け入れ前の不安要素はあったか。

→国内の転職で受け入れまで2・3か月でやってきた。早くに来た。ゼロから教えなくてよかった。入門編的なところからよかった。4月に2名インドネシアの方がやってくる。完全に未経験なので不安である。

・1回戻る予定の子は特定技能で現地からくる子より、日本語・生活レベルもよい。

→ネパール人は2人いたが一人はやめた。

・今後講座に入れてほしい要素は。

→受け入れてからのかかわり方、接し方、コミュニケーションの取り方を現場の人にも教えていきたい。

・他の人にこの講座を勧めたいか

→勧めたい、一人で受けるにはもったいなかった。

・課題が3つある。研修が成り立たない、人材不足、ICT導入だと思うが、ICT、人材育成など他の困りごとはあるか。

→タイピング、タブレット導入ができていない。年齢層高めの職員が多い。ICT化を進めているが、職員がついてこれていない。取りこぼしなくやるのは難しいと思っている。

・職員にティーチングする職員を育成するのがいいと思うが、その辺はどうか。

→しなくてはいけないことはわかっているが、60歳過ぎて新しいことをやることに不安を感じている。

男性 役職:介護付き高齢者住宅のリーダー(2月から)受講講座:マネジメント

・以前にこういった研修は受けたことがあるか。

→介護では受けたことはない。

・前職は。

→宝石の卸など。船井総研の研修や社内研修は受けていた。

・介護のマネジメント研修はどうだったか。

→介護に特化したものだけでなく、職員とのかかわりあいなど、自分にとっては実りのあるものだった。現場にフィードバックできておらず、どう活かせばいいか困っている。具体的にどうかかわればいいのかは迷っている。

・講座の悪かった点は。

→時間がタイトだった。休み時間もなく緊張感もあったが、現場での会話のコミュニケーションのやりとりみたいなものをもう少し増やしてもらいたい。もっと現場レベルの実践的なものを介護に特化していてもよいと思う。

・扱いにくい職員に対してどうしたらいいか、といった問題行動のある職員に対する質問があった。

→どういった答えだったのか。

- ・話をする、順序だてた介護現場への持っていく方などだった。
- 知らない会社、施設と話をする時間もなかった。大阪に行くなら朝からでもよかった。時間とお金を費やしているの、もう少し話をしたかった。
- ・受講後心がけたことは。
- まだできていない。マネジメントの話を聞いて、自分ができていないことに気づいた。テーマを持って謙虚さを持って接したい。
- ・経験差によってわけた講座の方が良いか。
- その方が良い。
- 管理もできていないのに管理者というのは。。。
- ・もっと受けやすいようにし、現場にいかしてほしい。受講形態などどういったものが良いか。
- 対面はなかなか時間を取りづらい。他の会社の人はどうだったのか。
- ・研修として会社から業務の一環として来ている人もいる。自分の休みで来ている人もいる。
- ・リーダーの立場での困りごと
- 12月に異動となった。コミュニケーションが取れていない。指示をする立場だが業務を深く理解できていない。もともと特養にいてやってきたが、正直なじめていない。それが自分の課題である。うまく自分が把握できていない。思っているようには何も進まない。
- ・課題がご自身にあるか。
- みんなと仲良くしていきたいが、現状何もできていない。理事長と話をし、改善していきたい。
- ・来年度も受けてもらえるか。
- 必要であれば行きたいと思うが、費用(交通費)が掛かる。オンデマンドでも受講できるのであればいいと思う。対面もよいが、聞いてるだけの講義であれば、テキストやオンデマンドで学べる。そうしてもらえると活用したいと思う。
- ・大阪の受講生の年齢層はどうだったか。
- 30、40、50代だった。
- ・どの層の人も同じような悩みがあった。
- コミュニケーションをしたかったが、終わった後の座談、ティータイムが欲しかった。
- 身近な悩みについて話をしたい。

令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
実証報告書

■実証実施日	令和 6 年 2 月 8 日(木)
■委託事業名	令和 5 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■実証講座名	多様な人とのかかわり
■実証会場	学校法人こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校
■受講人数	26 人
■実証担当者	小林 光俊 運営企画委員 鳥居 賢一 プログラム開発 多様な人とのかかわり分科会委員 吉田 愛 プログラム開発 多様な人とのかかわり分科会委員マ 櫻井 直人 プログラム開発 ナチュラルセラピー講座分科会委員 八子久美子 実証委員 小林 英一 事業責任者 運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員 実証委員 渡邊 みどり プログラム開発コーディネーター
■講座提供	プログラム開発 多様な人とのかかわり講座分科会 講師: 鳥居賢一、吉田愛

【実証スケジュール】

2 月 8 日(木)	講座名: 多様な人とのかかわり	13:00～14:10	実証終了
10:00～10:10	会場到着・会場準備	14:10～14:20	片付け
	■Wi-Fi 接続確認、プロジェクター設置・投影確認、PC とプロジェクター接続、マイクチェック	14:20～16:10	学生との座談会 「ミライの介護についてチャレンジしてほしいこと」
10:10～10:40	講師打ち合わせ	16:10～16:20	アンケート実施・片付け
	参加者の出席簿	16:20～17:20	多様な人とのかかわり分科会
	講座資料・教材確認	17:30	撤収

	アンケートを行うタイミングの確認		
10:40～12:10	実証開始		
12:10～13:00	昼食		

実証の様子



令和 5 年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
調査報告書

■実証実施日	令和 6 年 2 月 9 日(金)
■委託事業名	令和 5 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
■事業名	これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業
調査名	「アップデートプログラム開発のための既存の講座を活用した実態調査」
調査目的	アップデートプログラム開発するために、実態調査を行い、情報やデータを収集する。 1) 専門職として基礎能力が効果的・効率的に身につくプログラムをつくるための基礎データを収集する。 2) プログラムが有効かどうかまた、必要かどうかのデータを収集する。 3) 既存の講座が現場で利活用されているかについて情報収集を行う。
■調査名	令和 4 年文部科学省委託事業 専修学校による地域産業中核人材養成事業とのコラボレーションの可能性についての調査
■参加目的	仙台リハビリテーション専門学校が開発する、発達障害者への就職指導プログラムについて、次年度開発するプログラムの必要な情報収集とコラボレーション(発達障害者へのかかわり方)の可能性を探る。
■調査会場	学校法人仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校 TK ガーデンシティー仙台
■参加者	小林 光俊 運営企画委員 八子久美子 実証委員 小林 英一 事業責任者 運営企画委員会副委員長 プログラム開発委員 実証委員 渡邊 みどり プログラム開発コーディネーター

【実証スケジュール】

2 月 9 日(金)	
10:00～10:10	仙台リハビリテーション専門学校到着
10:10～12:10	専修学校による地域産業中核人材養成事業のこれまでの事業の経過について概要の説明を受ける
12:10～13:10	昼食
13:10～13:50	TK ガーデンシティー仙台へ移動
14:00～16:00	令和 4 年文部科学省委託事業 専修学校による地域産業中核人材養成事業会議参加
16:30～17:30	仙台リハビリテーション専門学校への質疑応答と今後の可能性についての話し合い。
17:30	終了

専修学校による地域産業中核人材養成事業のこれまでの事業の経過について概要の説明を受ける

事業名:知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証

仙台リハビリテーション専門学校の事業は、介護職人材を高等教育より学習するプログラムであり、本事業の対象である、介護職に当てはまる。以上のことから、仙台リハビリテーション専門学校とのコラボレーションができないかについてまずは、事業の概要の説明を受けた。

【背景と課題】

高等部と専門学校の連携は、こうした知的障害者の進学先の整備及び職業教育の充実化という課題を解決するための有効な方法になりうる。トータル5年間の一貫型職業教育プログラムは、高等部卒業後の選択肢の1つとして「専門学校への進学」を示すことになり、これまで少なかった知的障害者の専門学校への進学を促進できる。また、5年間の学びを通して、職業・職種の専門的な知識や実務的な技能、職業人としての基本的な態度・姿勢を身につけることで、職業や職場への適応力が高まり、早期に離職する者の減少にもつながるものと期待できる。これは専門学校への進学が難しい生徒にとってもメリットは大きく、一貫プログラムの中の3年間とはいえ充実した職業教育を受けることで、社会に出て職業人として働き続ける上での基盤となる能力を培える。

【各学年で実施するプログラムの概要(予定)】

<高等部1年生> 授業時間:30時間

- ①職業キャリア基礎学習
- ②社会人基礎学習(「ビジネスマナー」や「メンタルヘルス」等)

<高等部2年生> 授業時間:30時間

- ①職業キャリア&社会人基礎学習の振り返り
- ②職業基礎学習(3年次の進路選択に向けて、介護福祉の仕事内容や魅力などを学習)

<高等部3年生> 授業時間(選択科目):30時間

- ①介護福祉基礎(施設見学など学外演習も取り入れ、専門学校につながる専門基礎を学習)

<専門学校1年生> 授業時間:150時間

- ①専門知識・技能の補強学習
- ②社会人基礎力の養成(コミュニケーションや自己管理、金銭管理、生活管理など)
- ③継続学習への支援

<専門学校2年生> 授業時間:150時間以上

- ①専門知識・技能の補強学習
- ②資格取得学習(介護福祉士資格の取得を目標に、試験対策を実施)
- ③継続学習への支援
- ④就職支援学習

仙台リハビリテーション専門学校への質疑応答と今後の可能性について

【敬心学園 職業教育研究開発センター】

仙台リハビリテーション専門学校が取り組んでいる、事業の内容について、本事業が次年度に開発する障がいを持つひととのかかわり方(発達障がい)にとっても良いヒントがあった。

各学年で実施するプログラムの対象は、知的障がい対象であり、雇い側のプログラムはきちんとした形で開発をされていない。だからこそ、このように障害を持っている人たちがこのように就職や技能などの習得をしていることについて

外国人介護職のプログラムと同様に、これから障がい者を受け入れる施設、すでに障がい者を受け入れている施設

に向けてのプログラムを開発することで両者が理解をして、介護の現場の戦力になる可能性が大きいと感じた。

次年度、仙台リハビリテーション専門学校が開発する、＜高等部 3 年生＞ 授業時間(選択科目):30 時間

① 介護福祉基礎について、本事業でも情報提供をしたいと考えている。

また、ぜひ、本事業が開発するプログラムの内容に、仙台リハビリテーション専門学校が取り組んでいるプログラムに

ついて紹介させてほしいと考えている。

【仙台リハビリテーション専門学校】

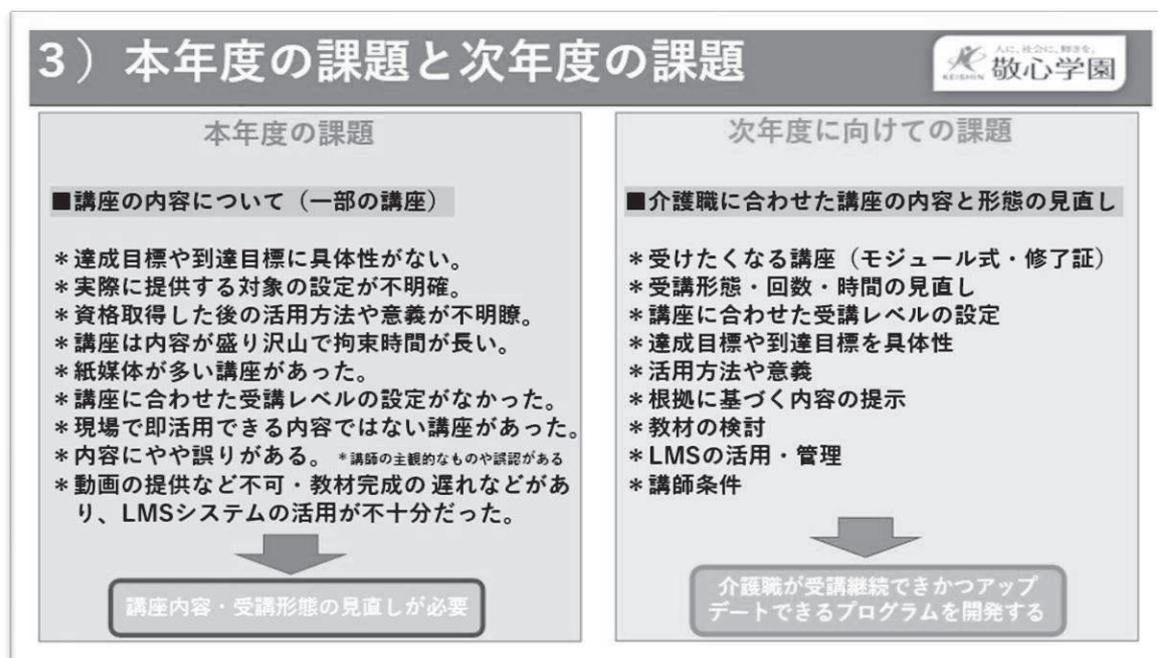
こちら、互いの事業の発展につながるのであればぜひとも協力できるところはしていきたい。

また、こちらの課題についても助言等をお願いしたいと考えている。

結論

* 次年度の計画に仙台リハビリテーション専門学校とのコラボレーションを行い、社会実装化の実現を図る。

(3)次年度に向けての課題



本年度の振り返りと次年度に向けて 分科会別

(1)介護予防講座分科会

包括的なプログラムになってしまったため、受講者の対象をどう設定していくかが主な課題である。介護予防でも一次予防、二次予防、三次予防などがあるため、どの介護予防に合わせるのか検討していきたい。現場の介護職がより現場で使える知識やスキルについて、モジュール方式で行ってほしい。テキストについてもそれらを踏まえて行ってほしい。

(2)外出支援講座分科会

トラベルヘルパーのプログラムをブラッシュアップした。コロナや人材不足の影響でヘルパーが現場での実践するのが難しいことが課題であった。高齢者の生活を豊かにしていくことを学ぶことに意義があった。来年度以降もトラベルヘルパー協会とタッグを組んで行ってほしい。来年度は受講時間の短縮や実地での実践も取り入れて行ってほしい。

(3)介護施設の ICT/DX 講座分科会

今年はプログラムが有効かどうかの調査を主な目的とした。9割もの受講生のモチベーションが高まった。ただ、実際に現場使えるかどうかの回答は5割であった。モチベーションは上がったが、現場で使える回答は少なかった。今年度は現場で使いづらいことわかったため、来年度は実際に現場で使えるようにしていきたい。

(4)マネジメント講座分科会

今回は座学の時間が長かったため、来年度に向けて実践・ワークショップといった、アウトプットの割合をより多くしていきたい。頭の整理を行う座学的講座と、行動の変容を促す実践的講座の割合を検討して、うまく組み合わせることで、より効果的にしていきたい。キャリアカウンセリングなど

も取り入れながら行っていきたい。

(5) ナチュラルセラピー講座分科会

主にアロマを使った取り組みを行った。アロマの効果を示していきたい。次年度は、まずは知ってもらう、勉強してもらう、使ってもらう、現場で使ってもらえるようにしていきたい。目に見えない部分の効果や行動、日常生活場面の効果も検証していきたい。若い世代への普及に力を入れていきたい。

(6) 多様な人材との関わり講座分科会

今回は外国人をターゲットに検討した。外国人の受け入れ方、受け入れ先とミスマッチがないように即戦力の外国人を採用することをポイントにプログラムを行った。オンラインと専門学校を対象に行った。実際に受け入れている事業所には前向きに受講していただけた。専門学校の学生は外国人と仲良くしたいといった様子が見えた。今回はベトナムとフィリピンに限定されてしまった。今後は具体的な事例検討なども取り入れていきたい。高齢者や障害者の方なども含めたプログラムにしていきたい。

次年度に開発するアップデートプログラム講座に向けて

介護職が、受講継続できかつアップデートできる講座を開発するためには、大きく分けて3つの条件を設定していく必要がある。

1) 受講形態

2) 講座に合わせた受講レベルの設定

3) 現場で実践できる活用方法や意義

この3つ条件のうち、最も講座の開発のベースとして考えなければならないことがある。

それが、内閣府が提唱している「介護プロフェッショナル」のキャリア段階である。介護職のキャリアを7つの段階に分けることで、介護職のキャリアレベルを明確に示しているものである。このキャリア段階をベースとして、受講生のレベルに合わせた講座が展開できれば、介護職が受講継続できかつアップデートできるプログラムの提供ができると考えられる。

例えば、キャリア段階に合わせ管理職

の研修を行うことで、レベルに合わせたマネジメントに関する理解や学びを深めることができ、バランスのとれた安定した組織統制が図れる

状況に応じた学びを提供することができるのではないかと考えられる。

(資料) 「介護プロフェッショナル」のキャリア段階の概要

介護プロフェッショナルのキャリア段階の概要	
レベル	介護共通 / 介護プロフェッショナルのレベル
7	トッププロフェッショナル
6	プロレベルのスキル 高度な専門性・オリジナリティ
5	一人前の仕事ができる段階・チーム内でリーダーシップ
4	チーム内でのリーダーシップ (例: サービス提供責任者、主任等) 部下に対する指示・指導・本レベル以上が「アセッサー」になれる
3	指示等がなくとも、一人前の仕事ができる
2	一定の指示のもと、ある程度の仕事ができる
1	エントリーレベル 職業準備段階 初任者研修により、在宅・施設で働く上で必要となる基本的な知識・技術を習得

講座に合わせた受講レベルの設定

介護福祉士であること(国家試験合格)
※介護福祉士養成施設卒業後、国家試験の合格に合格していること。
介護福祉士養成課程修了によりレベル4とする

介護福祉士養成課程又は実務研修修了
※介護福祉士養成課程修了でも可

レベルと関係

介護福祉士を研修修了
※チームレベルで研修修了は認められずとも可

介護予防
外出支援
介護ICT・DX
マネジメント
多様な人とのかわり
ナチュラルセラピー

(引用: 内閣府「介護キャリア段階制度の概要」)

(4)成果報告会の報告

令和6年2月16(金)、令和5年度文部科学省委託事業「専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発」における「これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究」の成果報告会が、対面およびオンラインにて同時開催された。参加者は対面33名、オンライン16名、計49名であった。元日本テレビアナウンサー(プログラム開発委員)の町亜聖氏の進行で、成果報告会がスタートした。

2023年度 文部科学省委託事業
専門職業人材最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業

成果報告会

5年後10年後のミライを見据えて
「介護×〇〇」と題し、
現場で利活用できる実践力をつけて
「マルチタスク型介護職」へ！
介護業界で活躍されている先駆者を招き
ミライの介護について語っていただきます。

介護予防 外出支援 介護ICT/DX
マネジメント ナチュラルセラピー 多様な人のかかわり

2024年2月16日(金) 15:00～17:00

ワйм貸会議室高田馬場会場およびZoomによるオンライン同時開催

【プログラム】

- 14:30 受付開始
- 15:00 開会あいさつ 学校法人敬心学園 理事長 小林光俊
- 15:10 本年度の事業内容・成果報告
- 16:00 座談会「3年後、5年後のミライの介護業界について語ろう！」
プログラムおよび実証に協力いただいた方々がミライの介護について本音で語ります。
- 16:45 新たなるチャレンジへの思い
学校法人敬心学園職業教育研究開発センター研究員 事業責任者 小林 英一
学校法人敬心学園職業教育研究開発センターセンター長 事業代表者 小川 全夫
- 17:00 終了

※詳細は随時ホームページで更新しています。

✓開催形式：会場（関係者）およびZoom（関係者及び一般）によるオンライン配信（会場で実施している模様を視聴いただけます）

オンライン限定 50名様 *定員になり次第申し込みを終了させていただきます。

✓参加 無料

✓申込方法：Googleフォーム

✓申込締切：2024年2月9日(金)

お申し込みはこちら→



【主催】学校法人敬心学園職業教育研究開発センター

文部科学省委託事業事務局

ホームページ：https://keishin-group.jp/keishin_fr/rdi/

TEL：03-3200-9074 E-mail:kaicare@keishin-group.jp

開会の挨拶

学校法人敬心学園 理事長 小林光俊

介護を取り巻く環境は厳しい状況にある。介護や福祉とは人間や社会を科学することを通じて人の幸せを求める学問である。人のために尽くすことこそ人の道である。人の生きる道をサポートし、人のために生きる道が介護や福祉の原点であると思う。委員の皆さまならびに連携企業様にご協力、ありがとうございました。



本年度の実証報告

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター プログラム開発コーディネーター 渡邊 みどり

本年度の事業目的、事業計画、事業実施体制、実証の様子、アンケート結果報告、本年度の課題と次年度の課題について報告を行った。

■目的

アップデートプログラム開発のための実態調査を行う。6つの既存のプログラムを活用し、これから介護職となる人材と介護職員向けに活用できるプログラムであるか調査する。

■対象者

介護施設の職員及び介護福祉士養成校の学生・卒業生

■実証調査

令和5(2023)年10月～令和6(2024)年1月

■調査方法

- ①次年度のプログラム開発をするために必要なデータを収集する。
- ②既存のプログラムについて、即現場で実践できるについて、アンケート・インタビューを行い、プログラムの有効性を検証する。

■調査結果まとめおよびデータ分析

実証調査においてプログラムが有用性のあるかどうかについて分析を行う。また、実証とともに受講形態の意識調査も行いその結果をまとめる。

■実証報告

総受講生数 269名

■本年度の課題と次年度に向けた課題

【本年度の課題】

講座内容・受講形態の見直しが必要

【次年度に向けた課題】

介護職が受講継続できかつアップデートできるプログラムの開発



座談会

プログラムの中盤では座談会を開催し、吉田涼平氏の進行で「3年後、5年後のミライの介護業界について語ろう！」をテーマに、以下の方々よりそれぞれの話を伺った。

テーマ①「これからの介護施設における ICT/DX が不可欠な理由」

介護 ICT/DX 企業の立場から

実証委員会委員長 宮本隆史氏（社会福祉法人善光会 理事 最高執行責任者）、

テーマ②「施設におけるマネジメントの必要性とは」

介護施設のマネジメントに関わる立場から

プログラム開発委員会 マネジメント分科会 朝野愛子氏（社会福祉法人今山会 統括施設長）

テーマ③「外国人含めた新しい仲間たちとの協働とは」

外国人受け入れ企業の立場から

プログラム開発委員会

多様な人とのかかわり分科会 鳥居賢一氏（株式会社オリーブ 代表取締役）



次年度の展望

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 事業責任者 小林 英一より、新たなるチャレンジへの思いが語られた。

閉会の挨拶

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター センター長・事業代表 小川全夫より閉会のあいさつがあり、成果報告会を閉会した。

Ⅲ. 事業評価

外部評価委員会評価報告まとめ

(1) 総評

当事業は、「専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発」である。

これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で活用できる最新 技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業である。

当該年度においては、計画書でも触れているが、事業の主旨・目的としては以下の通りである。

目前に迫っている「2025年問題」においては、

- ①医療費や介護費の増大
- ②現役世代の社会保険料の負担の増大
- ③慢性的な人材不足

以上の3つが懸念されている。

さらにその先にある2040年問題を迎えるにあたっては、具体的に機能を果たす地域共生などの施策を早々に整備する必要性に迫られることも予見される。

①については、医療や介護の給付費が2025年度には GDP 規模で、645.6兆円(2040年度は790兆円を超える)とされており、国家予算の約6倍規模となる。団塊の世代全員が75歳になる2025年、20～64歳の現役世代が大幅に減少する2040年に向けて、介護分野の社会保障給付は増大していく傾向があり、限られた資源(人材や環境、経営ノウハウ等)を活用し、継続的な運営を図る必要に迫られる。

②においては、少子高齢化社会、就業人口減、生産人口減といった状況からも分かる通り、いわゆる「現役世代」が高齢者を支える構図がこれまで以上に負担の大きいものとなることも十分に予見される。今後の日本経済の維持成長を図る上では、③の「慢性的な人材不足」への対策を考える必要があり、この問題を乗り切るためには上記の3つの課題について考え、対策を講じる必要があると考えられる。福祉業界は特に、経営資源＝「人材」として捉えられることも多い。一方で、人材確保や育成、定着においては、前述の就業人口減、生産人口減 といった状況の中、近い将来、福祉業界はおろか、サービス業全体、全産業においても人材確保が困難な状況となることも予見される。限られた資源(ヒト・モノ・カネ)にてサービス提供を図る上で、一つの方策として、DX 推進が挙げられる。DX を推進する第一歩としてデジタル化のさらなる普及、「生産性向上」「業務効率化」を図ることでサービスの質維持・向上に役立つとされているが、IT リテラシーを高める必要があり、その為の人材確保や育成、安定して利用できるシステムの構築などが十分でないといった課題もある。

また、②については、少子高齢化社会、就業・生産人口の減少に伴い、政府財政への圧迫といった点も懸念とされる。

③については、②と同様に、就業人口減少、このことは全産業に言えることであるが、サービス業、とりわけ福祉業界においては顕著である。今後、限られた資源の中で、これまで通り、福祉現場においてサービスを提供する為には、経営者や管理者、スタッフひとり一人の意識変革と同時に、デジタル化の推進を

図り、「ムダ・ムリ・ムラ」をなくした業務遂行が求められる。さらには、「介護人材不足による介護業務の増大」、「ICT/DX 推進の遅れによる業務改善の停滞」、「次世代の介護のニーズに合わせた人材不足」、「現場で利活用できるアフターフォローの体制」といった課題が背景には存在し、それらを解決する為には、経営者の中長期の健全な経営計画の策定と同時に、そこで働くスタッフの学びが必要となる。

これまでの事業報告でも述べられてきたが、現場における ICT/DX の活用においては、利便性や有効性を訴求することも必要であるが、実際に機器等を使用するスタッフに対して、情報提供やトレーニングなどの教育が不可欠である。すなわち現場スタッフが「理解と納得」を持ってもらい、サービス提供の一助として機器を活用するといった認識が必要となる。ICT/DX 推進のほか、介護人材を量と質の両面から確保する為、国と地域が二人三脚で、「参入促進」「資質の向上」「労働環境・処遇の改善」を進めるための対策(介護人材確保に向けた対策)注1に総合的・計画的に取り組むことも必要となる。

本事業は、令和5年度より、令和7年度までの3カ年にかけて、実態調査・実証、プログラム開発、プログラム実証、プログラムの完成、人材養成、調査まとめ、最終報告を予定しており、各年度の事業計画案に基づいて遂行する。3カ年の事業計画に基づき、各委員会を構成し、年度ごとの成果を果たすべく活動を行っている。本事業においては、こうした課題や懸念の解決策として各委員会委員の尽力のもと、策定を行っている。

実施体制においては、①運営企画委員会 ②教育プログラム開発委員会 ③実証委員会 ④外部評価委員会 にて実証結果において、多角的な視点から課題抽出、問題提起、助言等を行っている。外部評価委員会においては、①②③が行う検証結果を客観的な視点から評価を行うことが目的となっている。また、委員会横断連絡会議を設置し、各委員会の活動を共有するとともに、各委員会へ報告事項に対する助言や提案などを行っている。

本年度の活動については、限られた期間の中、各委員会及び事務局の尽力により無事、事業遂行が出来たと評価をしている。一方で、各委員会及び成果報告会においても、各委員より建設的な意見が呈され、次年度以降の事業遂行に活かす所存である。

注1 「介護人材確保に向けた対策」は厚生労働省の施策として、「介護に関する入門的研修」「人材育成等に取り組む介護事業者の認証評価制度」「介護現場における多様な働き方導入モデル」「介護の仕事の魅力発信などによる普及啓発」「介護人材確保地域戦略会議」などがある。
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02977.html

(2)本委員会の役割

【目的】

外部評価委員会は直接点検・評価を行うことはせず、各プロジェクトが行う自己点検・評価の結果を総合評価実施することで、評価の有効性、適切性について第三者の立場から客観的のある評価を行う。

【役割】

- ・計画段階において、目標が明確か、目標を達成したことを測定する評価指標は適切か、事業がスムーズに進み大きな成果が得られるように助言する。
- ・プログラムの評価効果測定を担当するとともに、事業全体への評価・検証を行う。

【検討の具体的な内容】

- ①事業の企画・運営に関する助言
- ②事業の運営と成果に関する評価・検証
- ③開発した教育プログラムそれに伴う教材の検証

(3)評価方法について

各委員会の遂行した事業において、評価項目に基づいて評価を行う。当該年度においては、

- ①事業計画に基づき、各委員会それぞれの活動計画(年次計画・研究調査計画等)を立案できたか
- ②各委員会で立案したそれぞれの計画に基づき、予定通り遂行できていたか
- ③事業計画書・各活動計画と実施された内容は合理的に適合していたか
- ④各委員会が、それぞれの活動実績について適切に振り返りを行っていたか
- ⑤各委員会で行った振り返りに基づく次年度計画は妥当性があるか(現実的か、目標と行動計画が合致しているか)の5つの項目について、エビデンスを元に評価を行った。

(4)運営企画委員会に対する評価

外部評価委員会として、(4)において以下の評価を行った。

運営企画委員会の設置目的は、本プロジェクトに参加する当事者を含む多様な関係者による事業の目的、目標、運営方法の検討・共有を行い、各委員会の調整も行うことにある。

その意義と観点から①～⑤について評価を行った。

- ①事業全体の企画・運営・事業進捗の管理調整が出来たか。
⇒企画・運営が出来ている。初回に本事業の意義と各委員会座長からの目指すゴールについて言及があり、事業遂行の為にベクトル合わせが出来た。
- ②事業進捗の管理調整が出来たか。
⇒管理調整が出来ている。
- ③事業計画の到達点、評価指標の設定が出来たか。
⇒いずれも出来ている。具体的な実施計画についても初回で触れることが出来ており、参加委員の理解も深まった。

④評価基準の確認が出来たか。

⇒基準の確認が出来ている。

⑤実証調査が出来たか。

⇒限られた時間ではあったが、年度内の目標については到達出来た。

⑤実施出来たか。

⇒同上。実施出来た。

⑥研修会の運営企画が出来たか。

⇒運営企画が出来ている。短期間での実施となった為、実施回やエリアによっては差異が生じたものの、参加人数は一定数あり、実施が出来ている。

(5)教育プログラム開発委員会に対する評価

外部評価委員会として、(5)において以下の評価を行った。

教育プログラム開発委員会の設置目的は、

①プログラムの企画・開発する。それに伴う教材の企画・開発を行う。

⇒多岐に渡った企画であったが、特にデジタル活用は昨今の人材不足、サービスの低下を懸念する現場においては、支援の一助となるものとして認識されつつあり、ICT・DX 推進の必要性を持って行っていることが理解できた。十分に実施されている。

②6つの分科会に分かれ、分科会ごとにプログラム開発を行いプログラム開発委員会全体会にて最終検討を行う。

⇒年々、現場で求められる知識は多様化している。プログラムは多岐に渡るが必要であり、十分に議論がなされ、検討されたことが理解できた。

以降、計3回の教育プログラム開発委員会では、各委員からこれまでの経験や実績から多くの示唆があった。カリキュラムの再構築、また実証に協力を頂く学生等の数に偏りがあつた講座については、是正を求める意見もあり、実証ではあるが、内容とその結果・検証を見越した体制づくりを構築できている。

大きな気づきとしては、講座を受講するにあたってのモチベーションをどこにするか、この委員会では、受講生からのアンケート結果など、本事業にて求められる結果に限らず、今後の介護業界のゆくえや本質について議論をされたと思う。

尚、それぞれ、A～Fまでの分科会を設置している。

A. 介護予防講座分科会

B. 外出支援講座分科会

C. 介護施設のICT/DX 講座分科会

D. マネジメント講座分科会

E. 多様な人材との関わり講座分科会

F. ナチュラルセラピー講座分科会

また、A～F までの分科会では以下の内容を検討している。尚、教育プログラム開発委員会委員は、それぞれが2～4つの分科会に属し、企画に携わっており、それぞれの経験や専門性を生かした関わりがなされていた。

- 既存のコンテンツを使ったプログラムの開発
- 新規コンテンツ企画、開発、プログラム開発
- それに伴う教材（動画も含む）の作成
- アシスタントティーチャー養成講座マニュアルの作成

(6) 実証委員会に対する評価

外部評価委員会として、(6)において以下の評価を行った。

実証委員会の目的は、開発した教育プログラムと、それに伴う教材を使って実証し、検証することにある。委員会では、実証の内容と進め方、検証方法、協力体制の確認など、以下の項目①～⑥について、実証調査を行った。

- ①開発されたプログラムを活用した講座を希望する福祉施設の介護職及び専門学校の学生や、卒業生を対象に実施を行う。
⇒限られた時間ではあったが概ね実施出来た。
- ②習得の効果に関する測定が必要なため、当該講座の試験結果が基本データとなる。講座後、その都度、学習効果の測定を精密化する。
⇒実施出来た。受講生の層や数にバラツキがあり、データの精緻化については課題がある。
- ③受講生に対して、プログラムに内容がどこまで習得できたか、研修の改善や継続の有無に関するアンケートおよびインタビュー調査を行う。
⇒受講生の生声が盛り込まれており、実施する側やプログラムを提供する側との意識の違いに気付かされた。
- ④今後、開発したプログラムの導入を考えている福祉施設の介護職や専門学校も教員のためにアシスタントティーチャー養成講座を実施し、全国の福祉施設や専門学校で実施できるよう人材育成を行う。
⇒知識を身に付けることはこれまでの生活で経験がある（学校生活や仕事などを通じて）が、「教え方を学ぶ」ことは本質的に難しい。知識を身に付けて、同時に教え方やこういった反応に対しては、こうした対応が望ましいなどケーススタディを入れて育成に目を向けるようにしていきたいので、次年度以降、さらに期待をしたい。
- ⑤習得効果測定が基本であるので、講座の修了試験【筆記・実技】で効果が明確になる評価方法を取る。
⇒筋道や具体的な方策については議論を尽くしたと思う。実施に次年度以降、効果測定やフィードバックの内容などを確立する必要がある。

⑥アシスタントティーチャー養成マニュアルについて、受講したアシスタントティーチャー候補生の活用能力がどこまで向上したかに関する調査を行う。

⇒最終的には客観的な指標が必要となり、調査方法や実施時期などが決まれば実装においては慎重に実施する必要がある。調査の目的と記載をするモチベーションを加味した内容とする必要がある。

(7)全体を通じての評価

介護業界を取り巻く環境は厳しいものがある。「2025年問題」やその先の「2040年問題」など、現場の備えだけではサービスの質を向上はおろか、維持することも困難となる。限られた資源(ヒト・モノ・カネ)を最大限に活用し、同時に「業務改善」と「生産性向上」を推進する必要がある。経営者や管理者、現場スタッフ一人一人の意識変革をはかり、ICT/DX 推進をはかることが求められる。

本事業では、3カ年の事業計画に基づいて複数の委員会で構成され、実証研究と教育プログラム開発や検証が行われている。各委員会から前向きな提言(意見)が議事録を通じて共有され、教育現場と開発チーム、各委員会がハイレベルな検証が図られることを期待したい。実証に参加した受講生の年代や立場は様々で、得られる情報やデータは今後多様な人材の参入を促す意味でも大変意義のある内容となっている。一方で、今年度の活動によって浮かび上がった課題についても検証と議論を継続し、DX等のリカレント教育推進の為に支援体制の強化を図っていくことが肝要である。

(8)全体を通じた本外部評価委員会の総評

本事業に限ったことではないが、事業推進にあたっては、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大悪化への影響は小康状態にはなったものの、いまだに懸念した活動となっており、制約があったことも推察できる。各委員会及び協力頂いた教育機関においては、心より謝意を申し上げる次第である。そうした想いのなか、本事業への期待を込めて各外部評価委員からは、全体を通じて次のような意見があったことから、次年度事業の参考としていただきたい。

- ・実証の為、セミナーのジャンルと対象に限りがあったが、介護現場の課題としては、「人材」(＝確保・育成・定着)に基づくものが多く見受けられる。
- ・また、稼働率等の経営戦略についても、課題としては大きなウェートを占めており、長い目で見たときはそういったテーマも経営層や上級管理層に限らず、一般スタッフにおいてもDXや現場で役立つ専門スキルと一緒に学ぶ必要があると思っている。
- ・テーマ設定等、大変興味深く、次年度以降、広げて実施を検討する際は、全委員会にも投げかけても良いと思う。
- ・事業採択決定が年度後半であったが、短期間の中で、事業実施体制を具体的に構築し、事業開始にまでこぎ着けたことは高く評価できる。また、今年度は具体的な活動が短期間にならざるを得なかったが、こうした状況下でも、一定の成果と次年度に向けた課題が得られており、着実

な事業実施の進捗状況が伺える。

- ・次年度は、今年度明らかになった各プログラムの課題を踏まえ、事業計画・次年度計画に沿ったプログラム開発を進めることが望まれる。
- ・初年度は事業開始が遅れ、スケジュール調整が大変であったようだ。しかしながら、各委員会がきちんと記録を残し、進捗状況、課題、スケジュールの情報共有がきちんと行われ、初年度としての事業内容は、高く評価できる。ただし、新たな課題も散見されるので、次年度に向け、各委員会にて、振り返りと反省を行い、次年度に向け、更なる進化と発展(質的な向上)に期待したい。
- ・多様なプログラムが組まれている点がよかった。
- ・受講の方式もオンライン形式や対面形式など、受講者の要望に応じて変えることができるなど工夫がされていた。特に、現在の生産性向上の促進の観点から介護 DX、さらに外国人介護人材の急増から多様なかわりについての講座もあり、興味を引くものであった。
- ・今回、介護報酬改定が行われたが、そのような施策にも対応できるプログラムになると、さらによいプログラムになるのではないかと考える。

(9) 今後の事業への期待

コロナ禍の影響もあり、介護や障害の現場に限らず、サービスの提供や価値はもちろん、「学び方」「働き方」についても大きな変革をもたらした。とりわけ学びの場においてはオンラインが加速度的に普及した。昨今の少子高齢化社会、就業人口減、といった問題があり、今後も現場の介護スタッフをはじめとした人材確保や育成不足が予見される。

このような中で、多種多様な人材の流入や登用、活用といった状況が続くこともあり、幅広いジャンルの学びが必要となり、学び方、学ばせ方について、いかなる階層においても共有する必要がある。学びは重要であり、経験をもとに獲得した知識や技術は大変有益であると思われる。

一方、現場で通用する実践的な内容についてのニーズも高いこともあり、出来る限り多くの対処事例やケーススタディを取り入れ、体験型かつ習得が出来る内容を検討することも必要と思われる。

次年度の展開として期待したいことは、現場での事例をより多く盛りこみ、課題解決のプロセスを入れることが望ましい。医療・福祉・介護の現場に限らないが、管理職やリーダーになりたくないといった若年層も少なくないとも言われており、マネージャー層を対象とした「リーダーシップ」や法人における「事業計画の策定」などをワークショップ等で学べる内容なども検討を頂きたい。

また、介護・障害・子育ての現場の離職理由は人間関係が上位で挙げられることも、リーダー養成において改善できることも期待しており、コンテンツの内容充実も図る一方で、是非とも実施して頂きたい。

(10) 事業推進にあたって見直すべき事項

限られた日程、スケジュールであったが、全体的な工程、進捗はスムーズに進んでいるように思われる。それぞれの委員会に参加された委員各々が、これまでの経験や実績を存分に発揮し、

事業を遂行した成果もあり、年度の目標については達成できたと思われる。

アンケート結果においても概ね高評価を得ているが、参加者のモチベーションが当初より高かったのではないかとと思われる。関係者が参加にあたって事前に意識付けを行った成果もあったかと思うが、継続できるかといった点は若干不安な部分もある。その場で学び、それが学校や施設に戻った時、以降についても意識の高さが継続出来ているか、検証する必要がある。学んだあとの変化や具体的な改善できた点についても追跡調査が出来れば良い。

また、実証については比較的好意的、協力的に受け入れて頂いたが、実際の現場で活用する際は、負担が生じることも想定される。負担感を感じさせることなく、参加をしてもらうように、受講生の環境にも配慮した提供が望ましい。

(11) 本外部評価委員会による評価

以上を踏まえ、本外部評価委員会において、本事業が適切に執行され、実施されたことを確認した。各委員会、委員及び事務局の尽力により、タイトなスケジュールではあったが、多くの関係団体の協力を得られて、内容の濃い事業を展開できたと思われる。

今後、事業を継続するにあたっては、介護現場にて提供されるサービスの質維持・向上を目途とした実用的な講座の企画と実証が必要だと思われる。現場の切実な声としては、人材不足の中でも、マネジメント層の育成や確保が難しいといった内容が見受けられる。特に経営資源となる人材の育成やマネジメントに注力した講座の企画や具体的な事例を多く取り入れた演習形式の講座の開講を通じて、どう変化したか、新たな課題は何かなどを見出せる内容となることを強く祈念する。初年度、参加者に関心を持ってもらい、継続性を維持出来る内容の実証が出来たと評価する。

(12) あとがき

全産業について言及すべきことであるが、サービス業、とりわけ介護業界においては人材の確保や育成が困難な状況になることは想定できる。人材の確保が困難な状況が今後もしばらくは続くものの、状況に甘んじることなく、経営層や管理者層ばかりが思案することなく、全スタッフが一緒に考え、ベクトルを合わせることが諸問題の解決手段につながるのではないかと。

様々な価値観は尊重しながらも、「利用者のため」「仲間のため」といった認識を共有する仕組みづくりや、人的資源に限りがあるのであれば、「生産性向上」や「業務改善」を図るべく、ICT／DXの活用を検討し、その検証についても施設や事業所、法人全体で取り組むことが必要ではないか。但し、あくまでも施設や事業所、法人における課題の解決ツールの1つとしてのICT／DXの活用であることは前提である。

外部評価委員会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
事業推進部 部長
得永 真人

IV 事業の振り返り

IV事業の振り返り

(1)プログラム開発委員会 本年度事業の振り返り

プログラム委員会を代表しまして、本事業に多大なるご協力をいただきました、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

本年度は、プログラムの開発のための実態調査を行い、介護現場が抱えている課題に対してどんなプログラムであればアップデートできるか、また、受講生が継続して受けやすい受講形態とはどのような形態なのかについて、多くの様々な課題を見いだせたこと、そして、この短時間の中で、6つの講座に対し、300人近い受講者を集められたことについては、本年度の大きな成果であったと思います。

今後、未曾有の少子高齢化社会により、生産年齢人口が激減し、人材難が続く事が予測される中で、手厚い介護を自然と少数精鋭で行う構造となり、介護職員への期待値はこれまで以上に高まることとなるでしょう。

従って、介護職一人一人に求められるスキルと知識は、より高度なものが求められ、専門職としてアップデートをしていく必要があると考えられます。

今回の調査を通して、プログラム委員会では、介護職の経験や役職に合わせた講座をどのように提供していくか、そして、習得した知識や技術をどのようにしたら、現場で活用することができるかが、次年度開発するプログラムの大きな課題となりました。

例えば、現在、介護業界では、ICTやDX等の推進が強く求められています。この課題に合わせ、本年度、講座を開講致しましたが、こちらについても、役職やレベルに応じて適切な内容を提供することで、より実践的なものに進化することが可能であると考えております。また、実践的な知識の習得を積極的に進めることで、介護現場での各課題解決を図ることが出来る職員の成長を促進し、職員の時間的余裕の創出や介護業務の質の向上の底上げに貢献できればと考えております。

本事業では、5年後、10年後の未来を見据え、現場で利活用できる実践力を身に付けたマルチタスク型の介護職を目指せるプログラムを開発し、実装していくことが目的であるため、本委員会では、次年度に向け介護業界に役に立つプログラムが提供できるよう、介護業界で活躍する企業・団体、福祉医療職を養成する教育機関に所属する方々と共に連携をし、開発に取り組んでいきたいと思っております。

プログラム開発委員長
株式会社ビーブリッド
代表取締役
竹下康平氏

(2)実証委員会 本年度事業の振り返り

実証委員を代表しまして、関係者の皆さま、並びに実証へのご協力をして下さった施設様、学校様へ、多大なる協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

実証委員会は、開発したプログラムを活用した効果測定をしていくという目的のもとに、本年度は次年度のプログラム開発に向けての必要なデータ収集のために、どのような実証の手法が良いか、また、どのような検証項目が良いかについて検討を重ねてまいりました。

その結果、既存のプログラムについては、内容については新しい発見もあり、リスクリングに繋がるという意見が多く見られました。一方で、現場の運用に即した形で活用するには、どのような工夫が必要なのかは次年度以降の課題としてあげられました。

具体的には就業時間に即した形で学びを得られるよう短期間で行う受講形式や、受講者の講座に合わせた受講レベルの設定などがあり、次年度のプログラム開発に向けて、実証委員会では、実証協力していただいた受講生が、現場で求めている課題について実践できるプログラムを開発し、プログラムの有効性について実証検証を重ねていく必要があるという結論となりました。

実践的なプログラムを開発については、これから必要不可欠となる課題について、プログラムを開発していく必要があります。例えば、ICT/DX は介護業界に限らず必ず行わなければならない業務改善です。2040 年に高齢者人口のピークがあり、これまで介護において人員配置率は現実的ではなくなってきました。

国では生産性向上などの介護加算などの施策が行われてきていることも踏まえて、人口減少社会に対応するために ICT/DX を推進していく必要がある一方で、利用者に対しての、科学的エビデンスを蓄積してサービスの質を高めていくこと、また、定性的ではなく定量的に介護サービスを検討していくことも求められています。

今後、介護職が行っているケアが利用者のためになっているのか、ICT/DX によって介護サービスのアウトカムを検討していく必要がある時代に突入します。この課題を解決するためには、この課題に沿ったプログラムの開発を行うことが必要であると考えられます。

研究としてはまだまだ始まったばかりですが、最終ゴールとなる社会実装に向けて、時代の進化をとともに介護現場の教育の現場も変化させながら、介護職がアップデートした専門性を身につけ、学べる環境、そして、未来の教育に期待が持てるプログラムが提供できるよう、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

実証委員会委員長
社会福祉法人善光会 理事
最高執行責任者
統括施設局長
《株式会社善光総合研究所》
代表取締役社長
宮本 隆史

(3)新たなチャレンジへの思い

はじめに、この研究にご尽力いただきました関係者様、実証校の皆様にご心より感謝申し上げます。

本年度、また新たな研究事業をこれまで当センターにお力添えいただいた方々と既存のプログラムの実証調査ができたことは、本年度の一番の成果となりました。次年度は本年度の成果を踏まえ、新たに3つの課題にチャレンジをしていきたいと思っています。

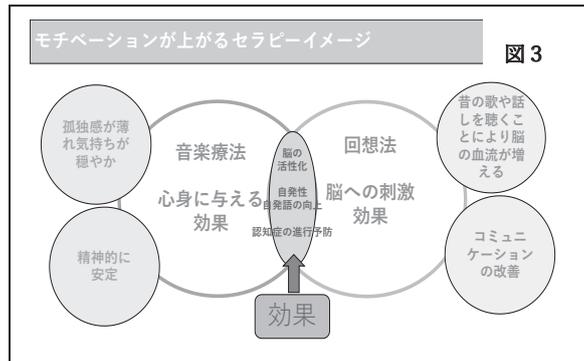
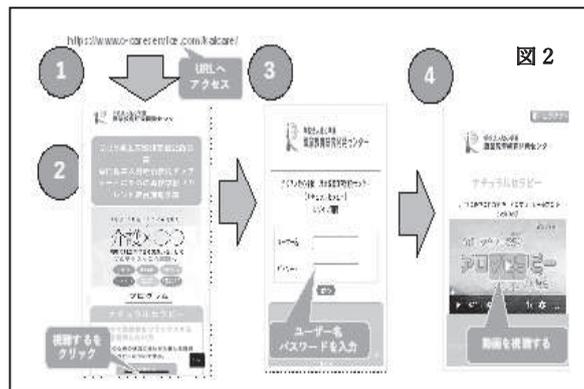
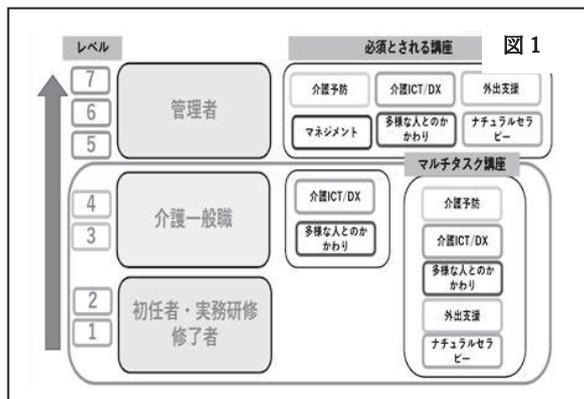
1つ目は、受講生のレベルに合わせた講座の提供を目指します。介護プロフェッショナルのキャリア段位(図1)に紐づけした講座を提供することで、受講者自身が、自分のレベルに合わせた知識・技術を習得し、現場で活用できる実践力を身に付け、アップデートできる講座の提供をしたいと考えています。

2つ目は、プログラムの特性に合わせた受講形態の改善を目指します。具体的には、プログラムの特性に合わせて、対面のは対面で、LMSで済むものはLMSで行っていききたいと考えています。(図2)ICT/DXなども現場で使う人によって必要なものが異なるため、来年度以降はモジュール型の講座の提供をしていきたいと考えています。

3つ目は、利用者、介護職が楽しめるプログラム開発を目指します。今回、アンケートの中で、認知症の人に楽しんでいただきたいという意見や、提供する側がワクワクするようなプログラムをしたいという意見も多かったことより、提供する側もされる側も、楽しくワクワクするプログラムの提供をしていきたいと考えています。

例えば、音楽療法と回想法を組み合わせたプログラムを提供することで、利用者も、介護職もお互いに笑顔になれ孤独感が薄れ気持ちが穏やかになるのではないかと思います。(図3)また、介護職が笑顔を提供できる場が増えることができれば仕事に対するモチベーションも上がるのではないかと考えられます。業務の改善も介護の業界では重要な課題ではありますが、こういった介護職側もワクワクするようなプログラムを受講し、現場の環境を整えていくことも必要ではないかと思います。

次年度は、いよいよプログラムの開発を進めていきますが、新たなチャレンジが成果となるよう取り組んでいきたいと思っています。



学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター
事業責任者 小林 英一

資料 1

令和5年度文部科学省委託事業

専門職業人材最新技能アップデートのための 専修学校リカレント教育推進事業

5年後10年後のミライを見据えて

介護×○○○

現場で利活用できる実践力をつけて
マルチタスク型介護職へ!

介護予防

外出支援

介護ICT/DX

マネジメント

ナチュラルセラピー

多様な人との
かかわり

プログラム期間

2023 12/8 金 ~ 2024 1/25 木

※対象となる日のみ受講

受講料

無料

申込み締め切り 講座開始の3日前とさせていただきます。※定員になり次第終了となります。

対象

- ▶ 介護・医療施設の管理職及び介護職の方
- ▶ 養成校学生(2023年度卒業見込み2年生)及び養成校を卒業した卒業生の方

プログラム内容

介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム6種類の中から、自分の受講したい講座が選択できます。

会場

対面は東京・大阪・神奈川で開催
※オンライン受講も可能な講座も多数あります。

各プログラムのご予約・詳細は裏面へ

お問合せはこちら



学校法人敬心学園
職業教育研究開発センター

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-6 宇田川ビル6階

03-3200-9074

kaicare@keishin-group.jp

担当：仲野・渡邊



こんな方におすすめ!

介護予防指導士としての基礎を学んで
高齢者の健康をサポートしたい方

予約はこちら



介護予防

定員40名

介護・医療施設における、栄養ケア・ストレッチングなど、健康推進を広めるための効果的な介護予防指導方法を学ぶ。

受講形態：①オンデマンド 20H+スクーリング オンライン 5H
②オンデマンド 20H+スクーリング 対面 5H

資格：介護予防指導士

東京	①12/10(日)※オンライン	9:40～16:20
大阪	①1/14(日)※オンライン	
神奈川	①1/21(日)※オンライン	
東京	②1/20(土)※対面	9:40～16:20

こんな方におすすめ!

介護旅行の普及をめざしている方

予約はこちら



外出支援

各会場20名程度

介護・医療施設における、外出への知識をそなえた「外出支援に関する」の専門性を学ぶ。

受講形態：対面またはオンライン 6H

資格：トラベルヘルパー 3級

大阪	12/9(土)※対面 or オンライン	9:40～15:30
東京	12/20(水)※対面 or オンライン	
神奈川	1/19(金)※対面 or オンライン	

こんな方におすすめ!

ICTが苦手な方、またはICTの知識を必要としている方

予約はこちら



介護ICT/DX

定員60名

ICTと業務のミスマッチをしない介護・医療施設で活用できるロボット・センサーなどの基礎・実践を行う。

受講形態：オンライン 6H×2回

資格：スマート介護士

東京	1回目 12/8(金)または1/11(木)	いずれも 9:00～16:00 ※昼休憩1時間程度あり
大阪		
神奈川	2回目 12/15(金)または1/19(金)	

こんな方におすすめ!

マネジメントがうまくできない方やこれからマネジメントを行う方

予約はこちら



マネジメント

各会場20名程度

介護・医療の管理職が必要なチームビルディング、人材育成、業務適正化・効率化等に関するスキルを学ぶ。

受講形態：オンデマンド+対面 5.5H
(講義・グループワーク・ケーススタディ)

大阪	1/21(日)※対面	13:00～18:30
神奈川	1/27(土)※対面	
東京	1/28(日)※対面	

こんな方におすすめ!

アロマで高齢者をリラックスする知識を習得したい方

予約はこちら



ナチュラルセラピー

各会場20名程度

対象者の心身の状況に合わせた癒しを提供できるセラピーについて学ぶ。

受講形態：オンライン 1H+対面 2H

大阪	12/8(金)※オンライン	16:00～17:00
	12/9(土)※対面	13:00～15:00
東京	12/15(金)※オンライン	16:00～17:00
	12/16(土)※対面	13:00～15:00
神奈川	1/18(木)※オンライン	16:00～17:00
	1/19(金)※対面	13:00～15:00

こんな方におすすめ!

外国人方との付き合い方や職場の受け入れについて知りたい方

予約はこちら



多様な人とのかかわり

上限なし

多様な人材の理解やどのようにチームの一員として付き合うかなど、介護・医療のチームとして連携するために必要な考え方を学ぶ。

受講形態：対面またはオンライン 3H

東京	1/9(火)※対面またはオンライン	13:00～16:00
大阪	1/16(火)※オンラインのみ	
神奈川	1/23(火)※対面またはオンライン	

申し込み方法



QRコードでお申し込み

※上記プログラムからご予約ください



事務局より
受講日時・会場のお知らせ



受講

申込み締め切り 講座開始の3日前とさせていただきます。※定員になり次第終了となります。



学校法人敬心学園
職業教育研究開発センター

03-3200-9074

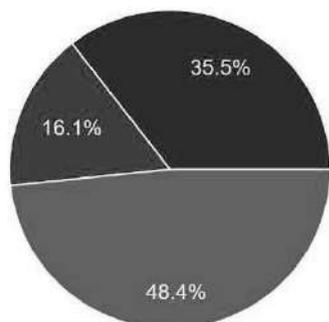
kaicare@keishin-group.jp
担当：仲野・渡邊

資料2

介護予防事前アンケート結果（回答数 31 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

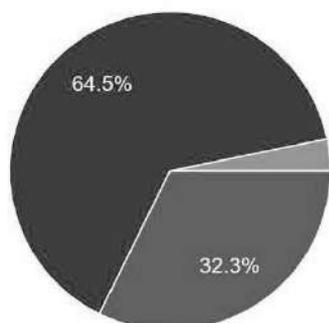
31 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

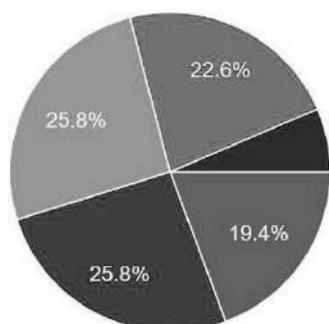
31 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

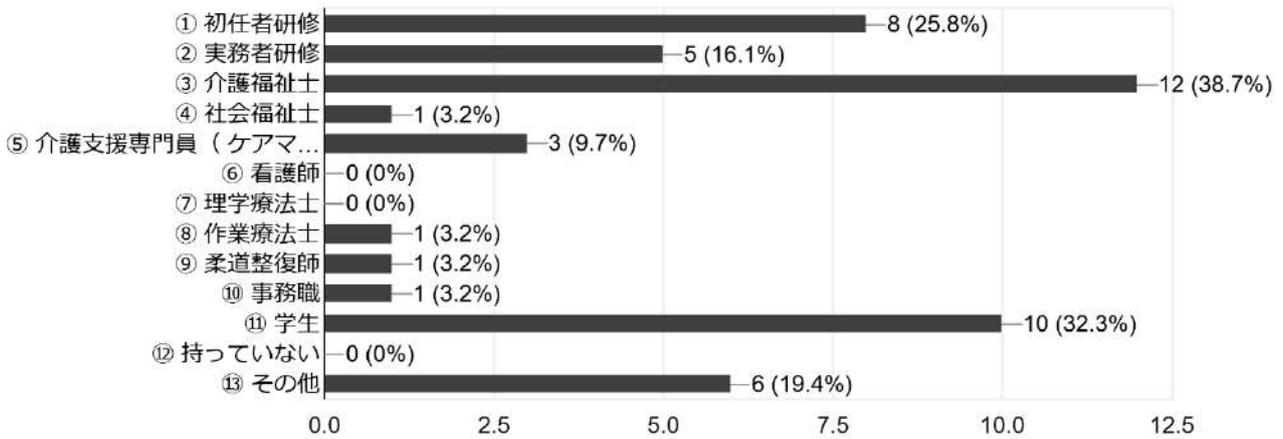
31 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

31件の回答



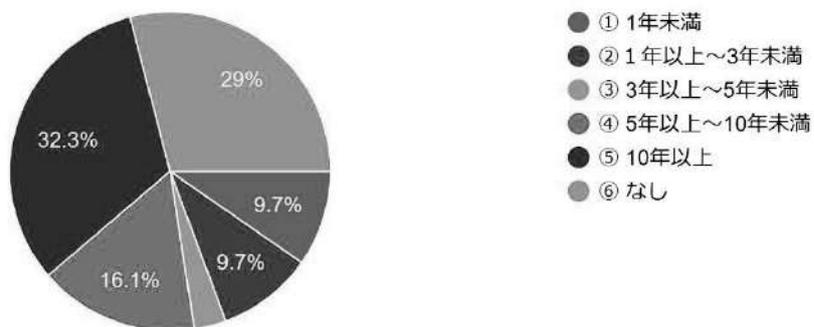
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

6件の回答

- ・ヨガ講師
- ・キャリアコンサルタント2
- ・あん摩マッサージ指圧師
- ・介護事務
- ・精神保健福祉士
- ・保育士

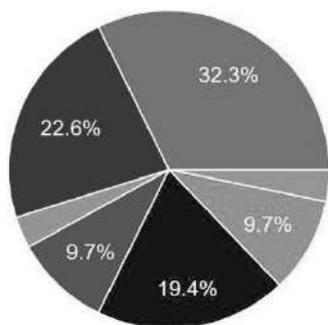
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

31件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

31件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設 (介護医療院、療養...)
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター (福祉系)
- ⑩ デイケアセンター (医療系)
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

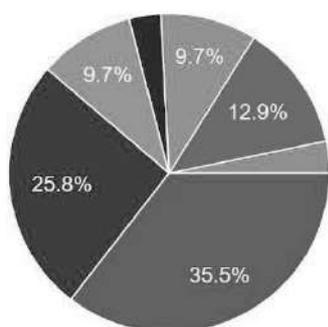
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

10件の回答

- ・労働局 公共職業安定所
- ・養成校 (リハビリ)
- ・本社 管理部門
- ・訪問マッサージ
- ・介護福祉士養成校
- ・介護部門一般事務
- ・専門学校
- ・新潟青陵大学
- ・放課後等デイサービス、看多機
- ・飲食

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

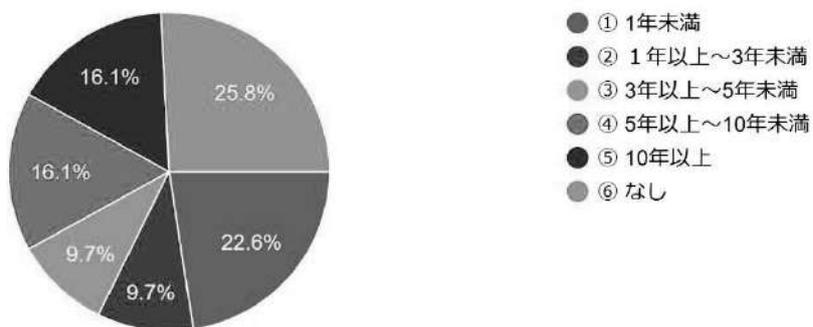
31件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

31件の回答



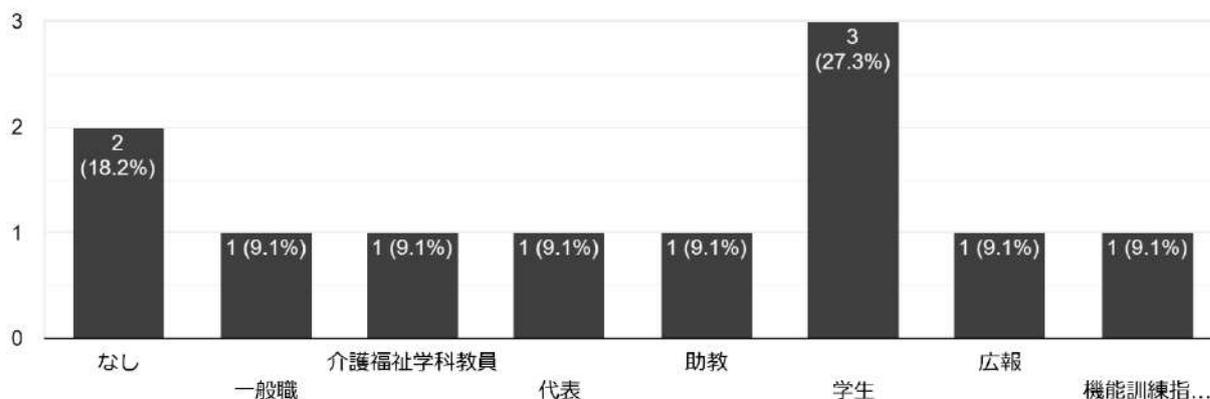
問13：あなたの役職を教えてください。

31件の回答

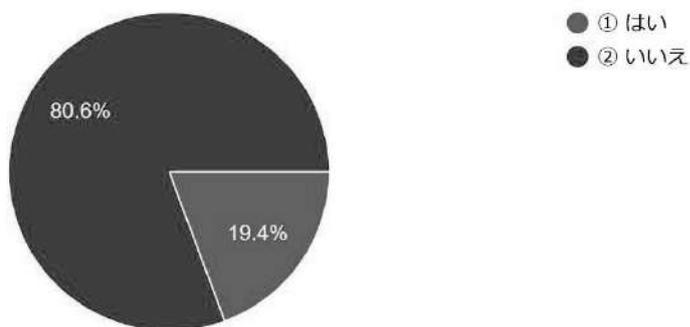


問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

11件の回答



問15：過去に、介護スキル向上に関する研修(初任者...と)がありますか。(例えば：ICTスキル研修など)
31件の回答



問 16：問 15 で「① はい」を回答した方に質問です。受講した研修内容を教えてください。

6 件の回答

- ・初任者研修受講中
- ・スマート介護士
- ・ICT 介護技術
- ・重度訪問介護
- ・知的障害者に関する支援専門員
- ・ICT、トラベルヘルパー

問17：問16の研修の内容を、現場で実践できましたか。

16 件の回答



問18：問17で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。「実践できなかった」理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

4件の回答



問 19：問 18 で「⑥ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」理由を教えてください。

1 件の回答

- ・ICT は機器導入が進んでいないから。トラベルヘルパーは訪問介護事業では活用の機会がないから

問 20：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。実践できなかった職場の理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

2 件の回答

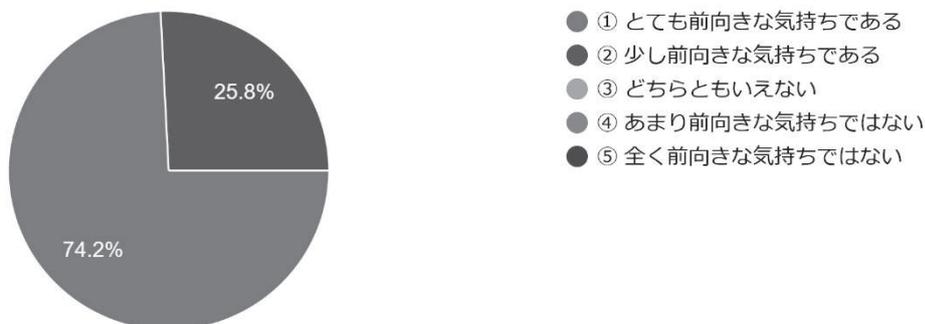
- ・その他 2 件

問 21：問 20 で「⑤ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」職場の理由を教えてください。

回答なし

問22：これから受ける研修についての自分自身のモチベーションについてお聞かせください。

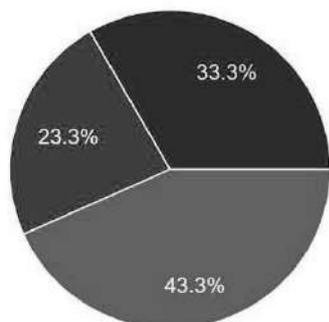
31 件の回答



介護予防事後アンケート結果（回答数 30 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

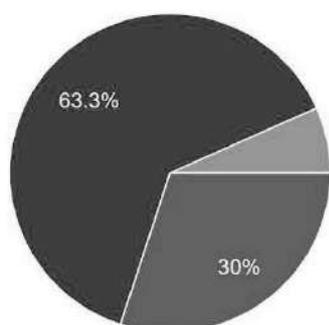
30 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

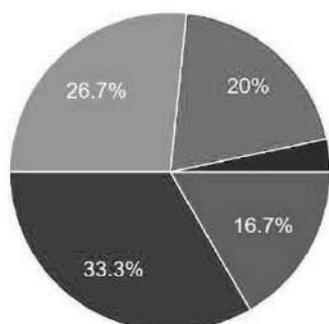
30 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

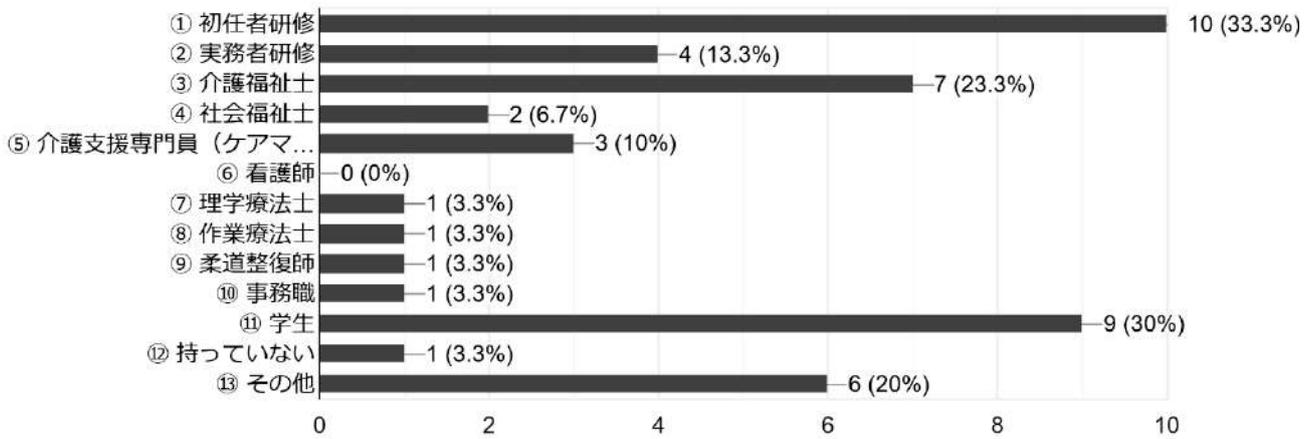
30 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。

30件の回答



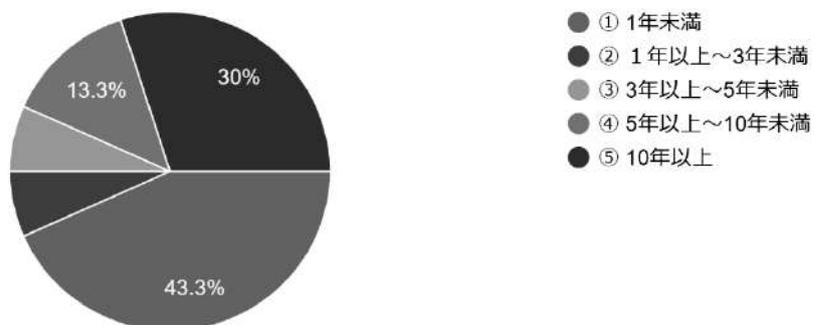
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

6件の回答

- ・ヨガ講師
- ・キャリアコンサルタント2級技能士(現在)、保育士、幼稚園教諭2級資格
- ・あん摩マッサージ指圧師
- ・あん摩マッサージ指圧師 鍼灸師
- ・精神保健福祉士
- ・介護事務

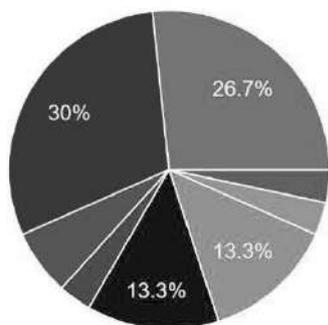
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

30件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

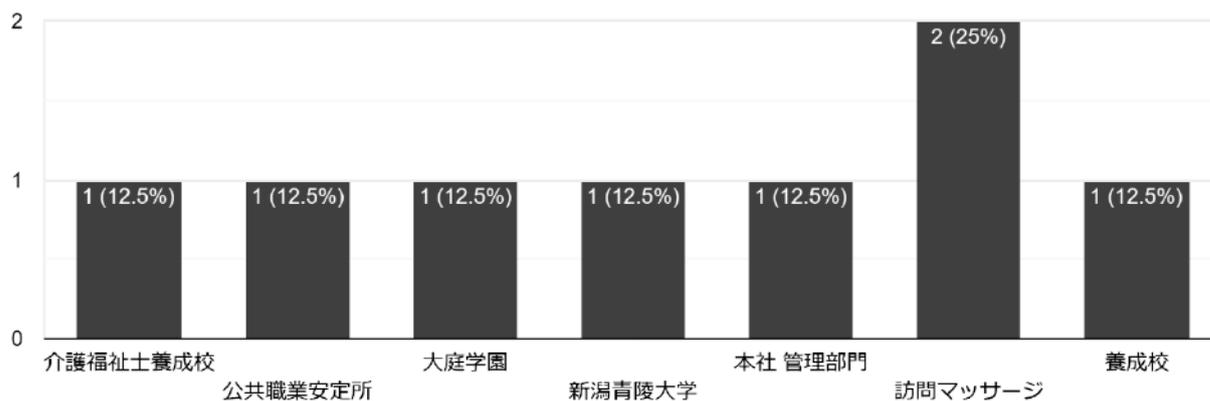
30件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

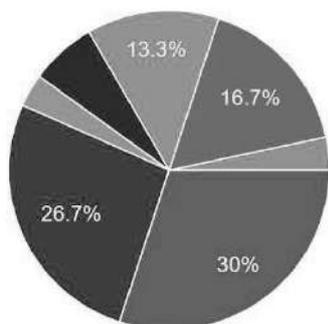
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

8件の回答



問10：あなたの雇用形態を教えてください。

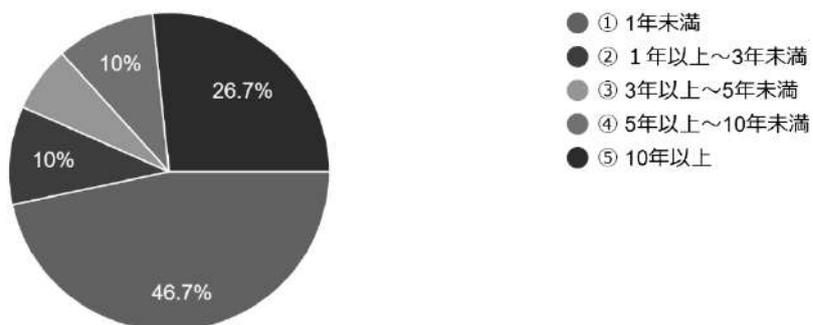
30件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト（非正規職員）
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

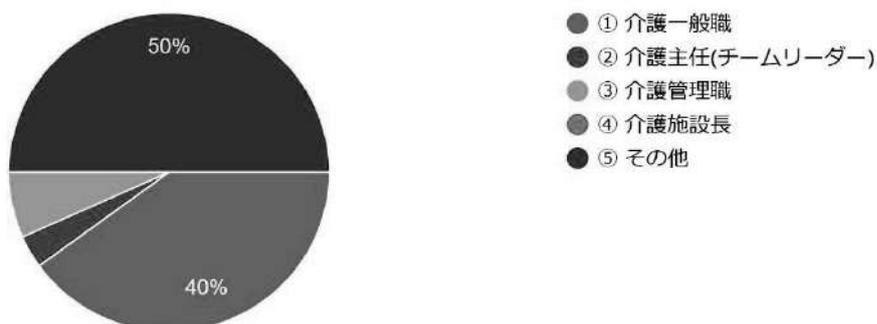
問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

30件の回答



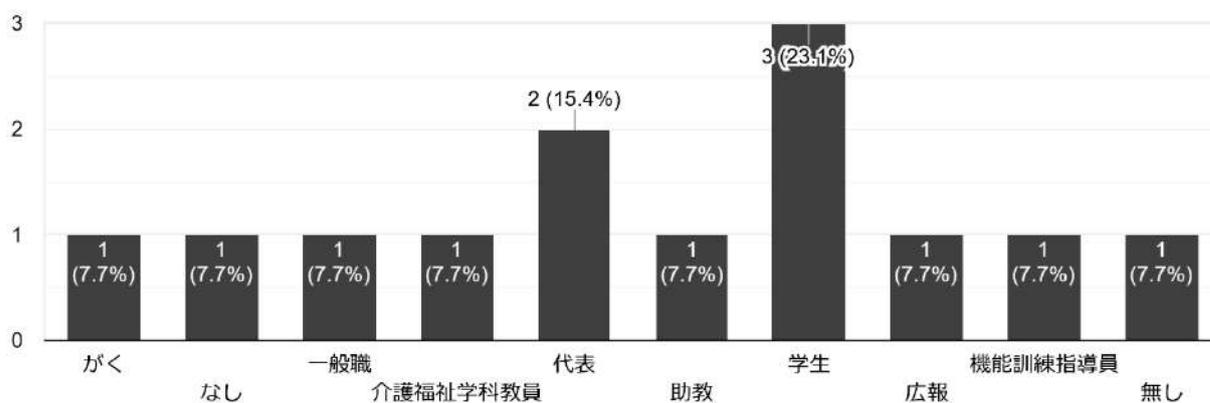
問13：あなたの役職を教えてください。

30件の回答



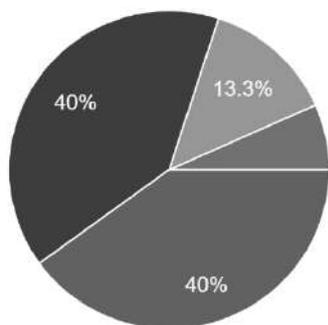
問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

13件の回答



問16：今回の研修の内容は、現場で実践できると思いますか。

30件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う

問 17：問 16 で「④⑤ できないと思う」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

2件の回答

- ③ 学んだ内容が現場向きではないから 1件
- ⑥ その他 1件

問 18：問 17 で「⑥ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由を教えてください。

1件の回答

- ・業務内容

問 19：問 16 で「④⑤ できないと思う」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

1件の回答

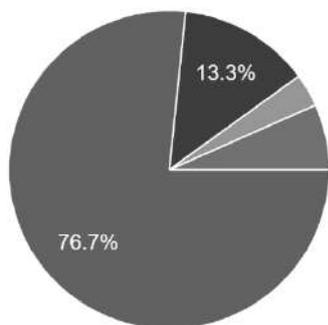
- ⑤ その他

問 20：問 19「⑤ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由を教えてください。

1件の回答

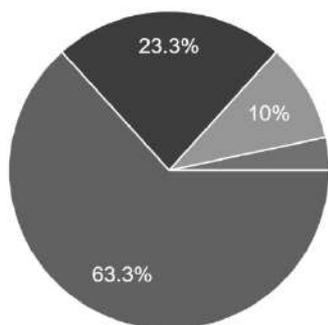
- ・現在、就労支援に携わっていますので業務では実践できないと思いますが、シニア層のまわりの方々に広めていきたいと思っています。

問21：この研修を受けて、あなたのスキル向上へのモチベーションは変化はありましたか。
30件の回答



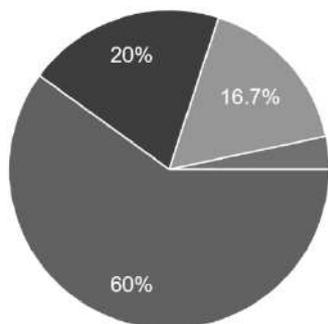
- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションは変化はありましたか。
30件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問23：今後も、自分のスキルアップになる研修があれば、率先して受けたいと思いますか。
30件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

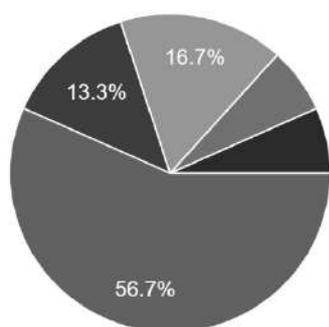
問 24：問 23 で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

10 件の回答

- ・介護予防や、ポジショニング、シーティング、ノーリフティング、排泄等
- ・マネジメントやファシリテーションの講座に興味があります。
- ・高齢者の加齢による現れる身体の特徴についてや運動指導について
- ・体力測定をもう少し詳しく勉強したいです。
- ・外国人との関わり方
- ・認知症ケア
- ・外出支援と介護 ICT/DX
- ・介護予防、認知症関連
- ・レクリエーション研修
- ・介護予防、認知症関連

問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えて下さい。

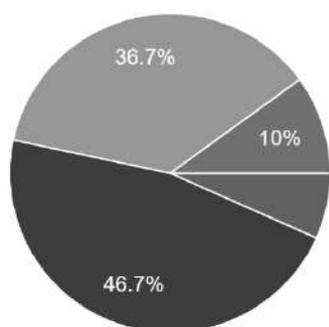
30 件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

問26：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えて下さい。

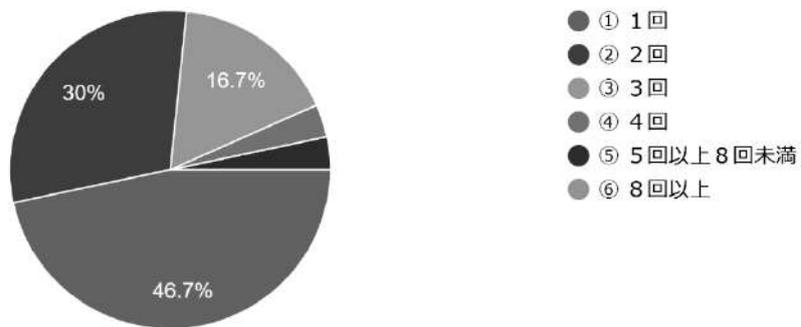
30 件の回答



- ① 1～2 時間
- ② 2～3 時間
- ③ 3～4 時間
- ④ 5～6 時間

問27：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

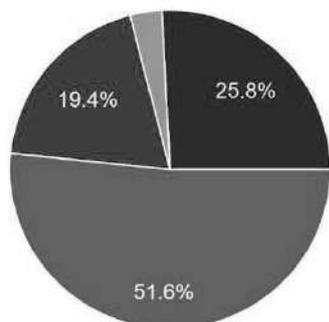
30件の回答



外出支援事前アンケート結果（回答数 31 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

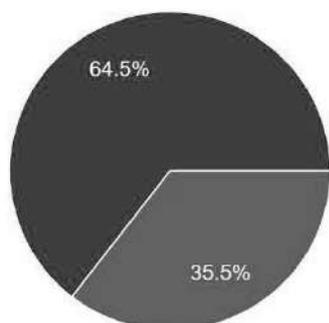
31 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

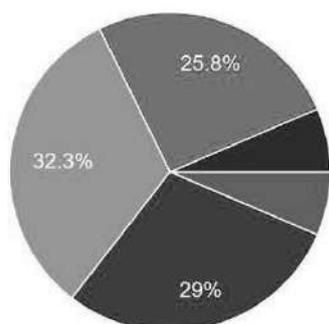
31 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

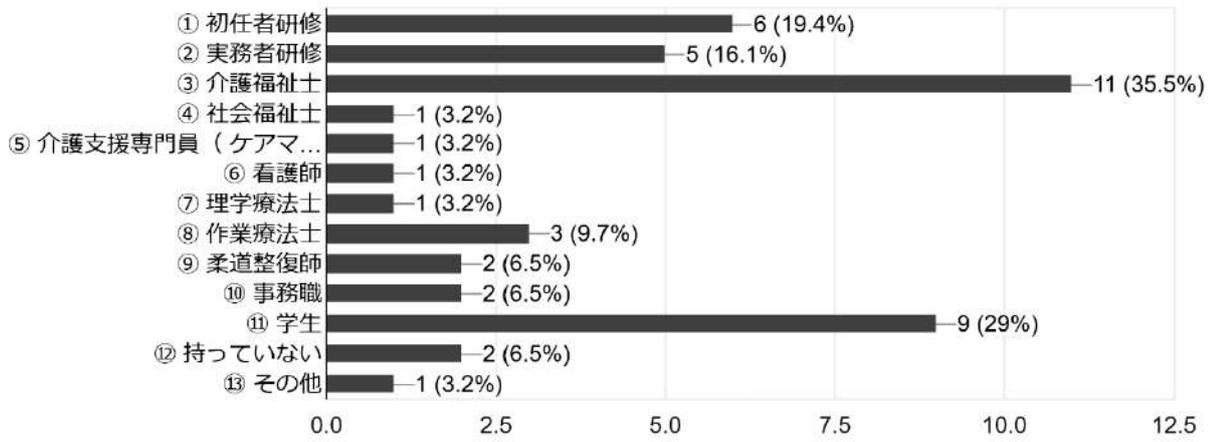
31 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

31件の回答



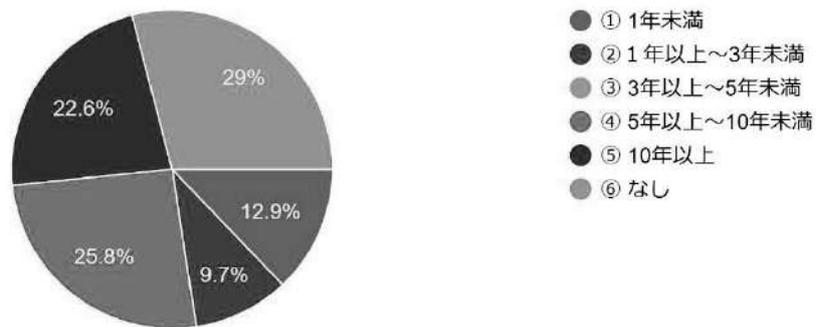
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

1件の回答

・ヨガ講師

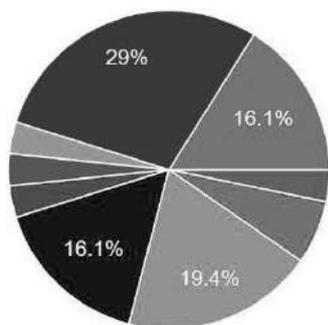
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

31件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

31件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

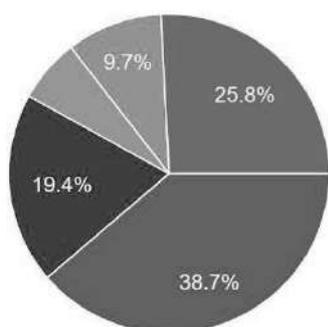
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

5件の回答

- ・福祉専門学校
- ・東京未来大学福祉保育専門学校
- ・本社部門
- ・小規模多機能居宅介護
- ・特定非営利活動法人

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

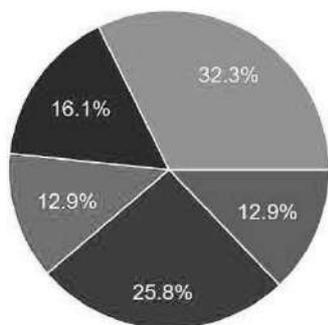
31件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

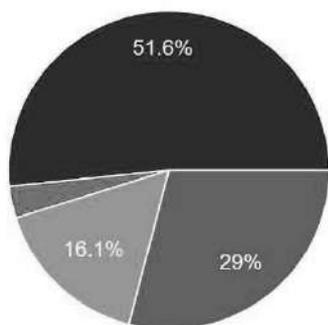
31件の回答



- ① 1年未満
- ② 1年以上～3年未満
- ③ 3年以上～5年未満
- ④ 5年以上～10年未満
- ⑤ 10年以上
- ⑥ なし

問13：あなたの役職を教えてください。

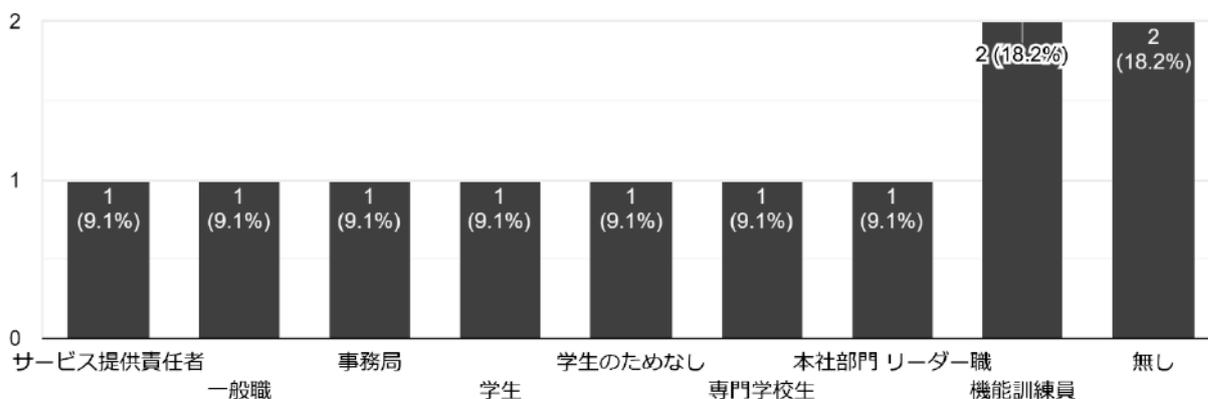
31件の回答



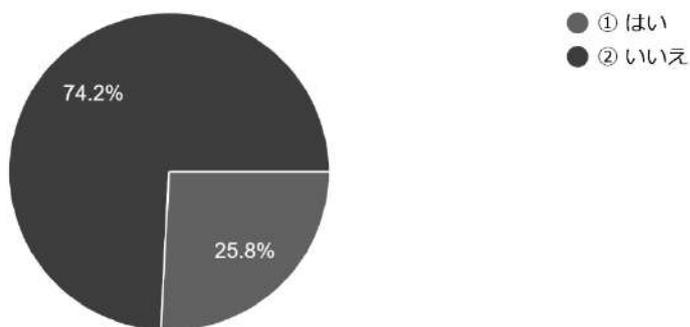
- ① 介護一般職
- ② 介護主任(チームリーダー)
- ③ 介護管理職
- ④ 介護施設長
- ⑤ その他

問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

11件の回答



問15：過去に、介護スキル向上に関する研修(初任者...と)がありますか。(例えば：ICTスキル研修など)
31件の回答



問16：問15で「① はい」を回答した方に質問です。受講した研修内容を教えてください。
8件の回答

- ・スマート介護士
- ・dx 福祉実践プログラム
- ・ナチュラルセラピー講座（アロマを使ったケア）
- ・スマート介護士
- ・介護予防士研修
- ・コミュニケーション
- ・実務者研修
- ・初任者研修

問17：問16の研修の内容を、現場で実践できましたか。
24件の回答



問 18：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。「実践できなかった」理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

2 件の回答

- ③ 学んだ内容が現場向きではなかったから
- ④ 学んだ内容を実践する時間がなかったから, ⑥ その他

問 19：問 18 で「⑥ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」理由を教えてください。

回答なし

問 20：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。実践できなかった職場の理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

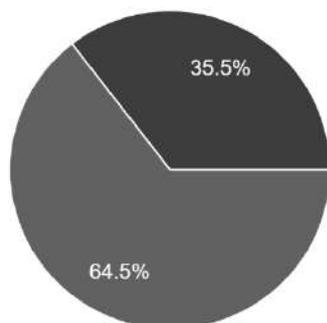
回答なし

問 21：問 20 で「⑤ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」職場の理由を教えてください。

回答なし

問22：これから受ける研修についての自分自身のモチベーションについてお聞かせください。

31 件の回答

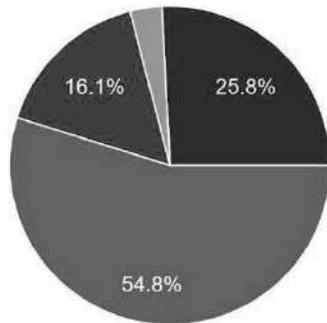


- ① とても前向きな気持ちである
- ② 少し前向きな気持ちである
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり前向きな気持ちではない
- ⑤ 全く前向きな気持ちではない

外出支援事後アンケート結果（回答数 31 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

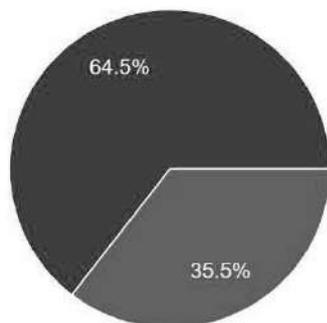
31 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

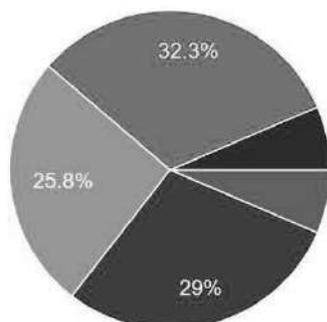
31 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

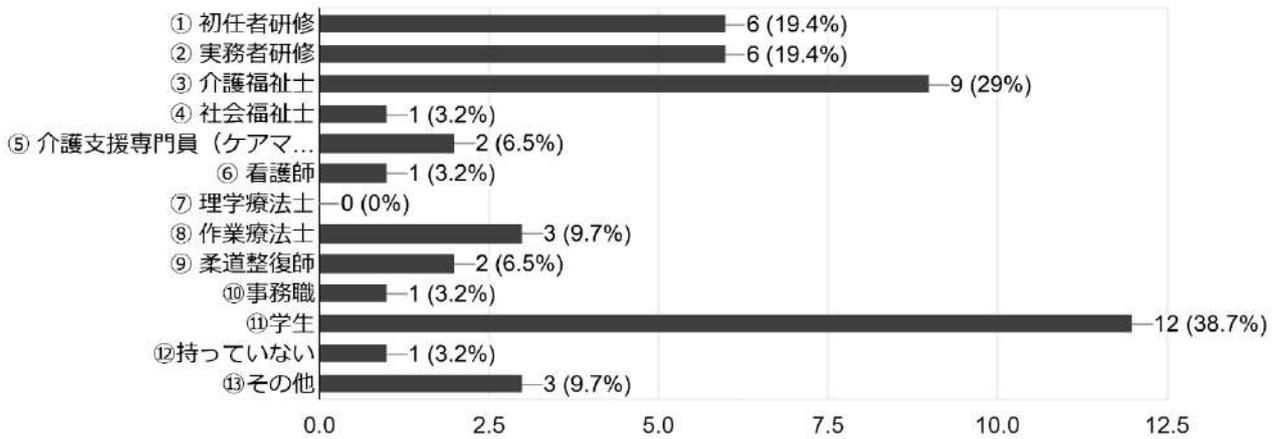
31 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。

31件の回答



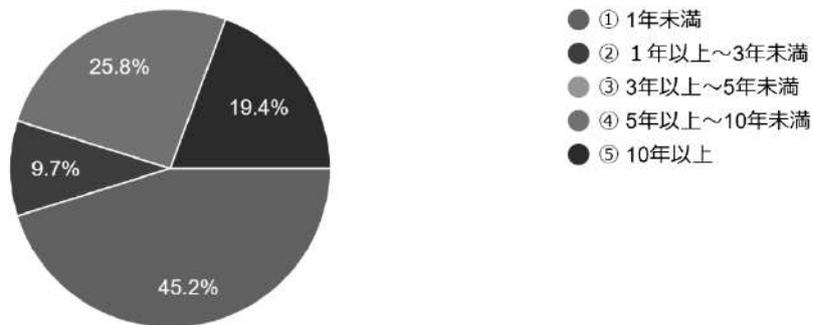
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

3件の回答

ヨガ講師 1件 保育士 2件

問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

31件の回答



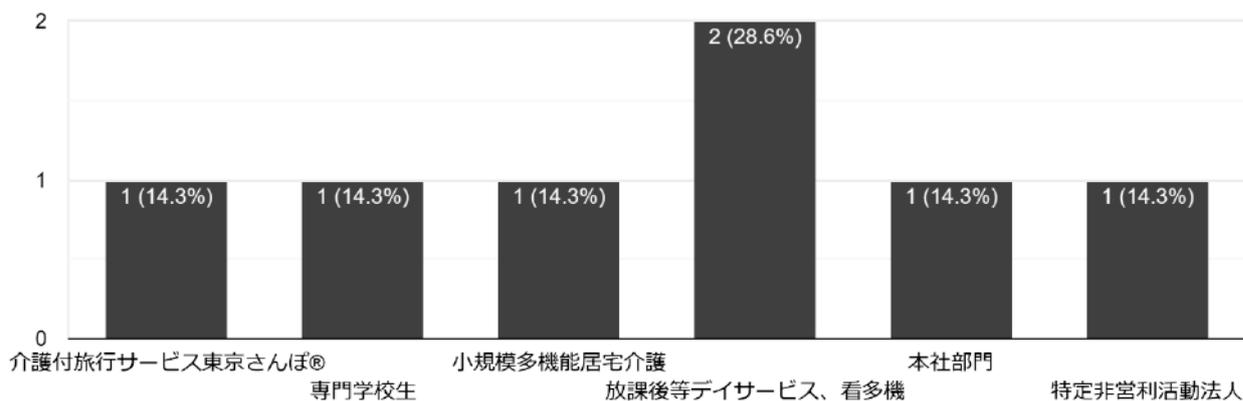
問8：あなたの所属先を教えてください。

31件の回答



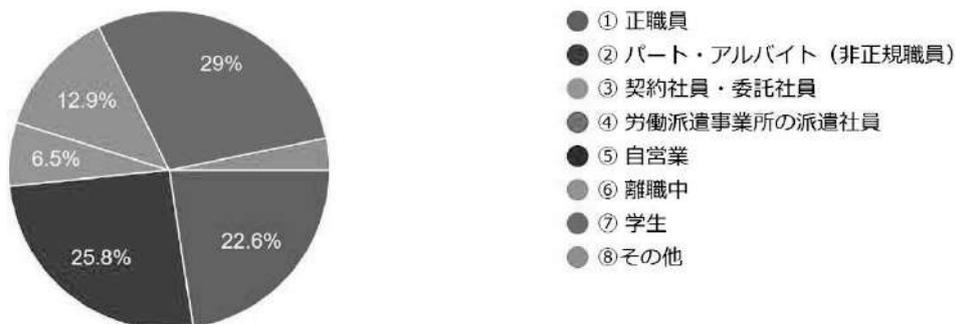
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

7件の回答



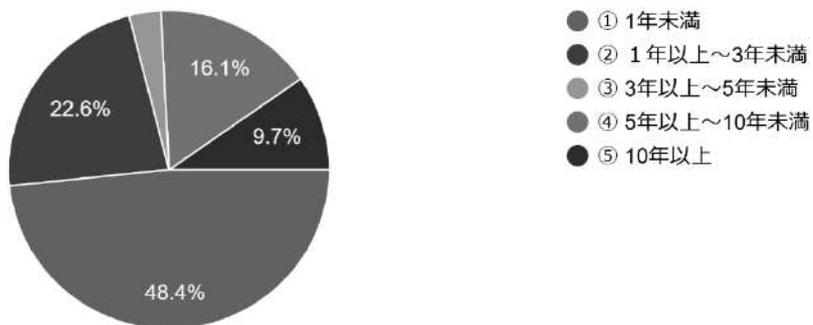
問10：あなたの雇用形態を教えてください。

31件の回答



問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

31件の回答



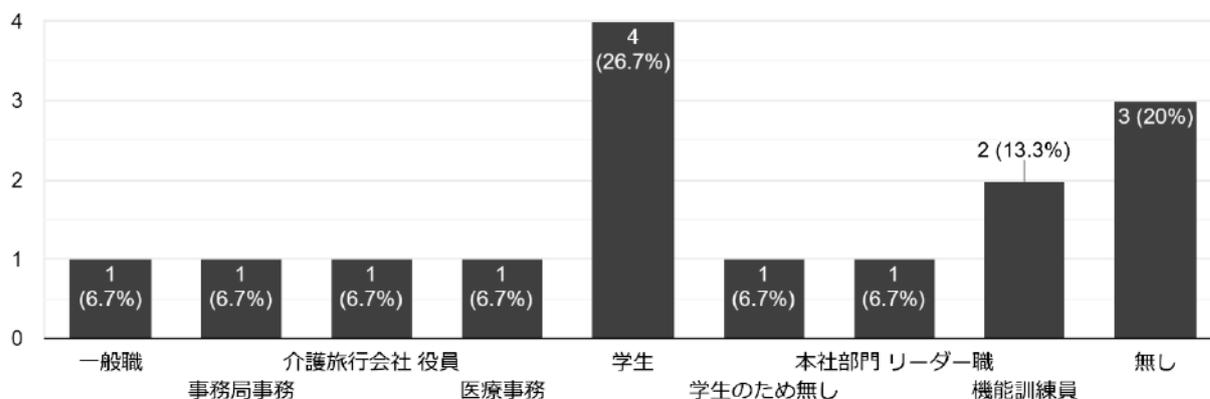
問13：あなたの役職を教えてください。

31件の回答



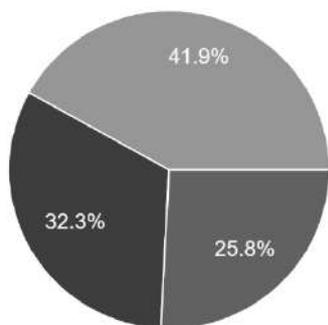
問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

15件の回答



問16：今回の研修の内容は、現場で実践できると思いますか。

31件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う

問 17：問 16 で「④⑤ できないと思う」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

該当なし

問 18：問 17 で「⑥ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由を教えてください。

該当なし

問 19：問 16 で「④⑤ できないと思う」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

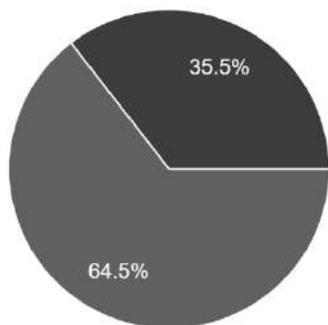
該当なし

問 20：問 19「⑤ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由を教えてください。

該当なし

問21：この研修を受けて、あなたのスキル向上へのモチベーションは変化はありましたか。

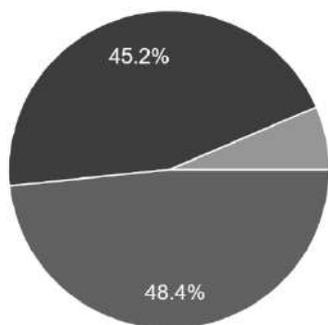
31件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションは変化はありましたか。

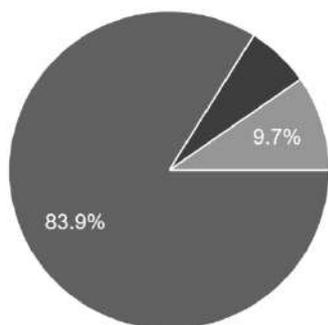
31件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問23：今後も、自分のスキルアップになる研修があれば、率先して受けたいと思いますか。

31件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

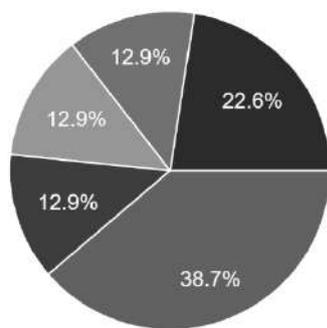
問 24：問 23 で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

- ・トラベルヘルパー1 級
- ・外出支援
- ・介護支援専門員
- ・介護技術向上できる研修
- ・介護予防、認知症の方に対する知識
- ・最新の情報
- ・福祉系 2 件
- ・トラベルヘルパーだけではないが、介護報酬制度が変化していく際に、その変化に事前に対応できるような研修を受けられたらと思う。
- ・今回の様な外出支援や機能訓練・認知症についての研修。
- ・初心者向けの介護福祉士やヘルパーの仕事に関する講座
- ・認知症に対する研修
- ・2 級外出支援

- ・人財育成関係
- ・トラベルヘルパー2 級以上
- ・自分のメインの職種とは若干違うタイプのもの
- ・時代の変化とともにみられるようになったニーズに対応した研修
- ・トラベルヘルパーの上級級
- ・アロマセラピーやハンドマッサージ
- ・介護技術のスキルアップ研修
- ・認知症への理解につながる研修

問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えてください。

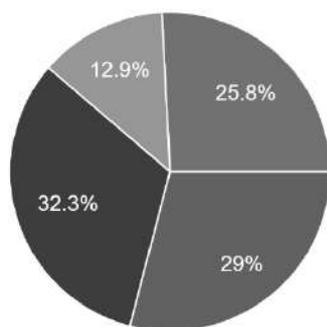
31 件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時的に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

問26：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

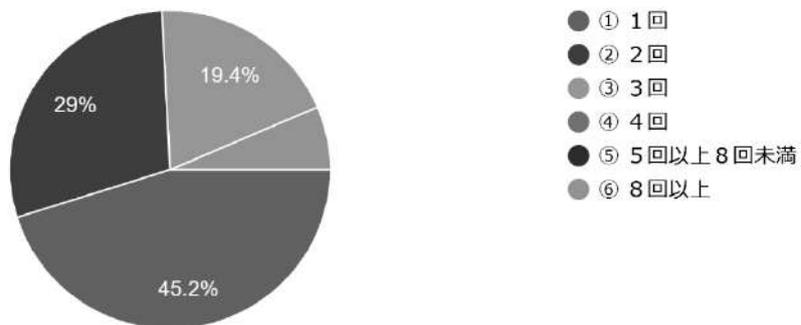
31 件の回答



- ① 1～2 時間
- ② 2～3 時間
- ③ 3～4 時間
- ④ 5～6 時間

問27：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

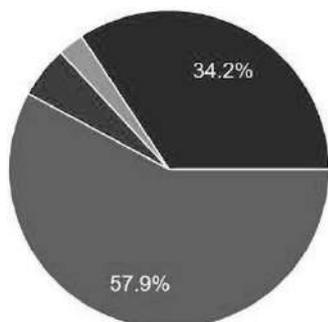
31件の回答



介護 ICT/DX 事前アンケート結果（回答数 38 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

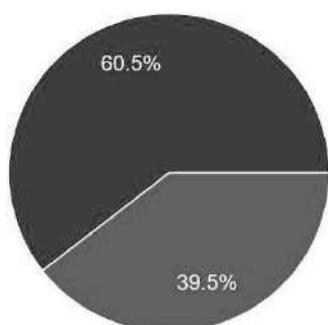
38 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

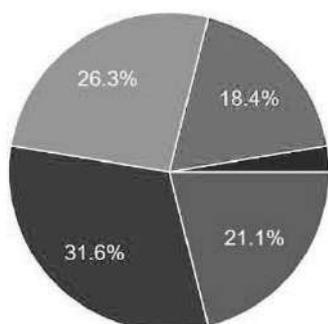
38 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

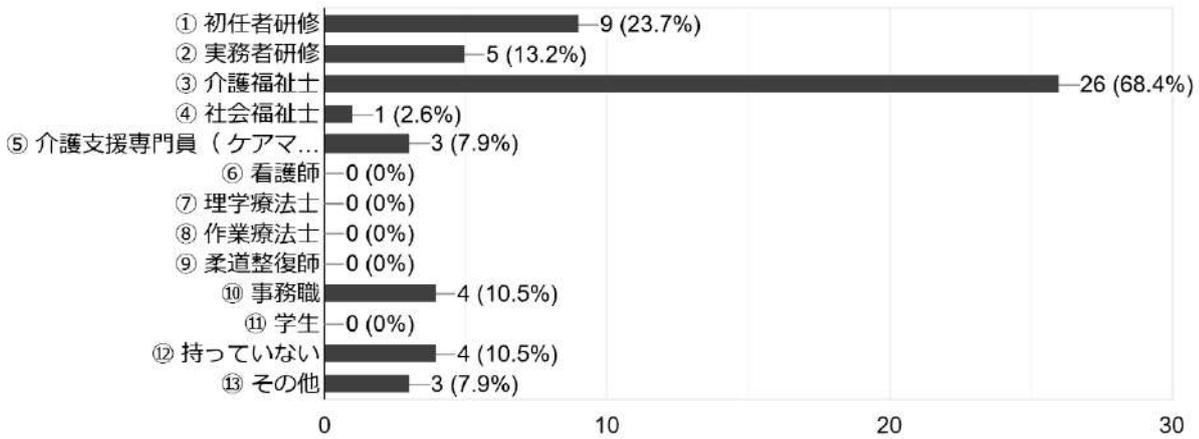
38 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

38件の回答



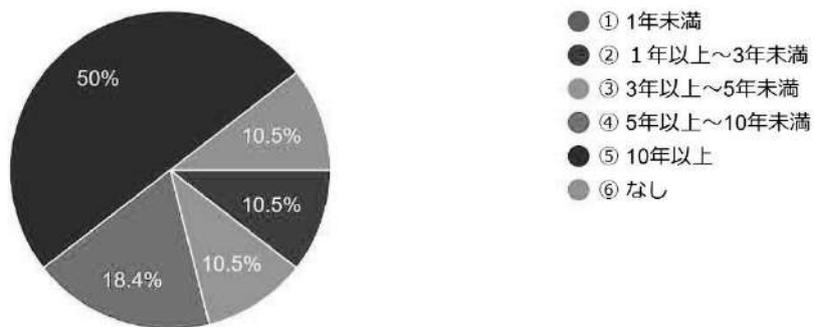
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

3件の回答

- ・社会福祉主事、ヘルパー2級
- ・レクリエーション介護士、教員免許、防火管理者
- ・社会福祉主事、重度訪問介護従業者

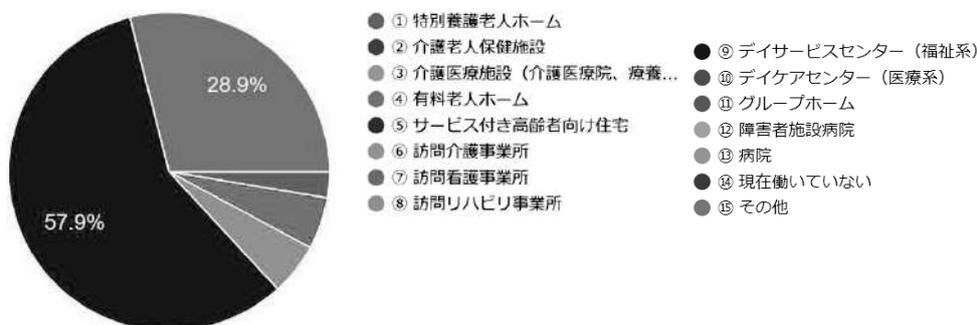
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

38件の回答



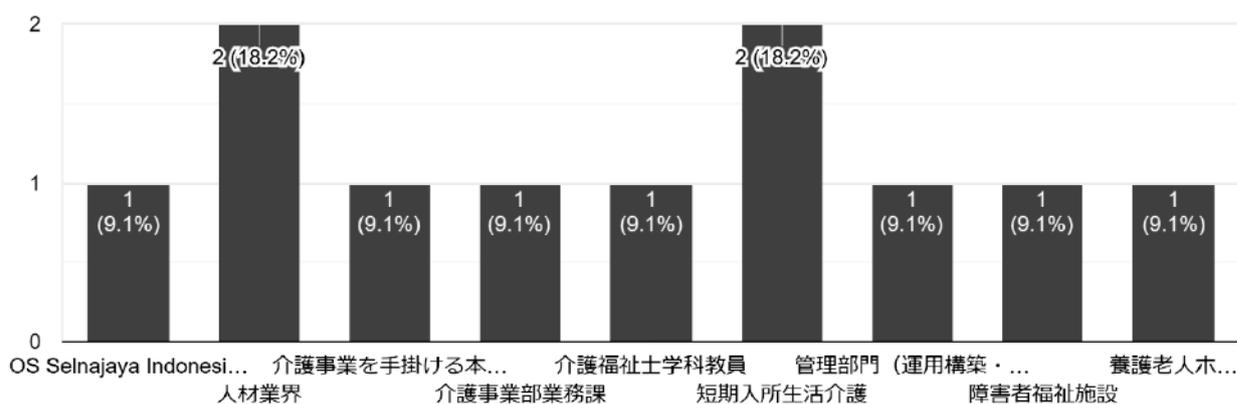
問8：あなたの所属先を教えてください。

38件の回答



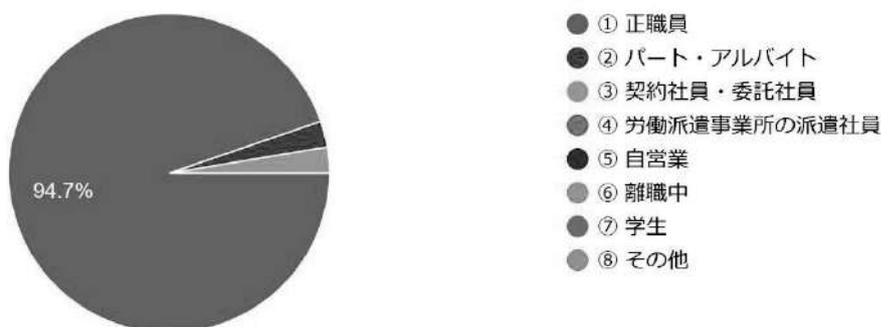
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

11件の回答



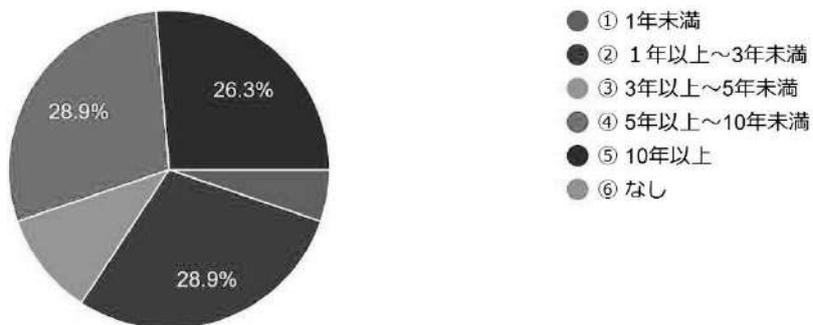
問10：あなたの雇用形態を教えてください。

38件の回答



問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

38件の回答



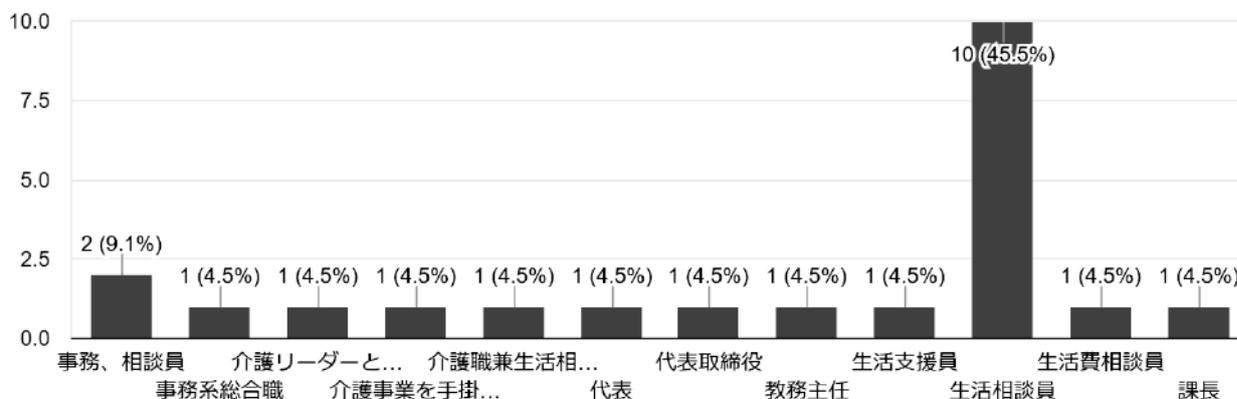
問13：あなたの役職を教えてください。

38件の回答

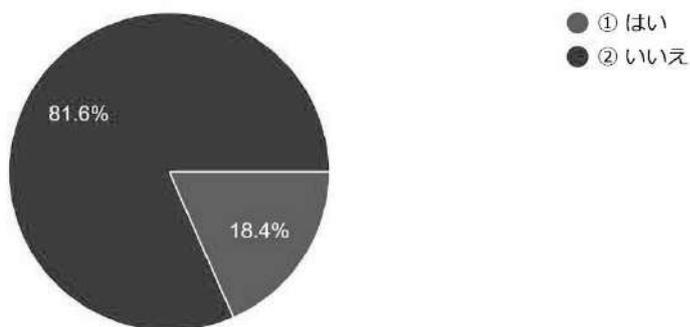


問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

22件の回答



問15：過去に、介護スキル向上に関する研修(初任者...と)がありますか。(例えば：ICTスキル研修など)
38件の回答



問 16：問 15 で「① はい」を回答した方に質問です。受講した研修内容を教えてください。
5件の回答

- ・実務者研修
- ・認知症介護実践者研修
- ・LIFE
- ・感染予防
- ・介護支援研修等

問17：問16の研修の内容を、現場で実践できましたか。
11件の回答



問 18：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。「実践できなかった」理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

該当なし

問 19：問 18 で「⑥ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」理由を教えてください。

該当なし

問 20：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。実践できなかった職場の理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

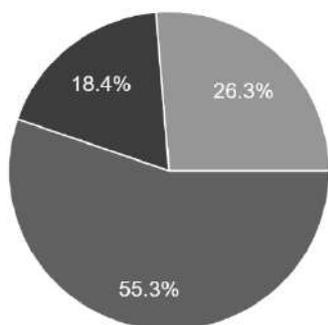
該当なし

問 21：問 20 で「⑤ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」職場の理由を教えてください。

該当なし

問22：これから受ける研修についての自分自身のモチベーションについてお聞かせください。

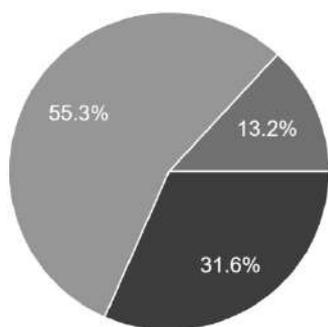
38 件の回答



- ① とても前向きな気持ちである
- ② 少し前向きな気持ちである
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり前向きな気持ちではない
- ⑤ 全く前向きな気持ちではない

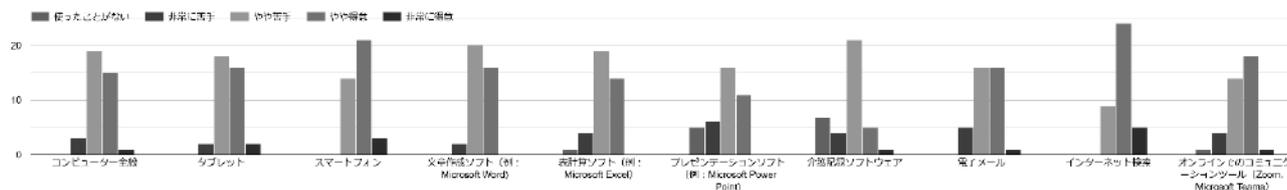
問23：コンピュータを使用した作業について、どの程度自信がありますか。

38 件の回答



- ① コンピュータの基本操作はほとんど出来ない
- ② 文書作成ソフト（Wordなど）は使えるが、表計算ソフト（Excelなど）は...
- ③ 文書作成ソフトも表計算ソフトも基本的な操作ができる
- ④ 表計算ソフト（Excelなど）で複雑な関数やデータ集計ができる
- ⑤ コンピュータに関する高度なスキルがあり、プログラミングなどもこなせる

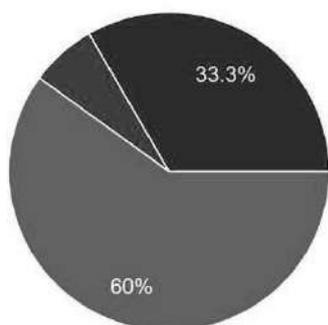
以下のデバイスやソフトウェアに対して、どの程度得意または苦手だと感じますか。



介護 ICT/DX 事後アンケート結果（回答数 30 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

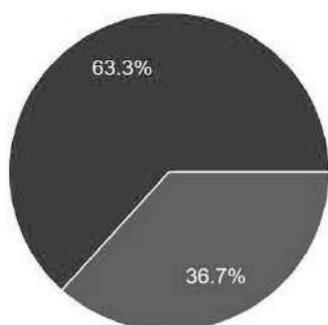
30 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

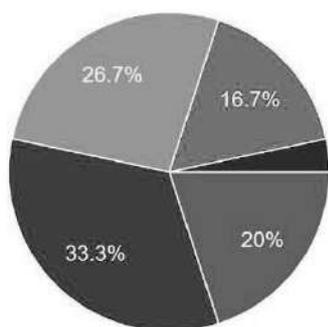
30 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

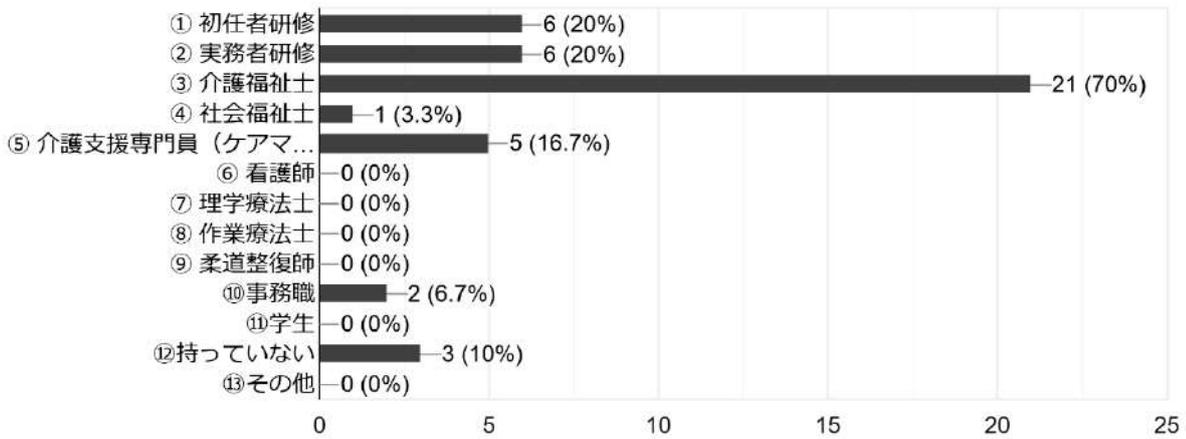
30 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

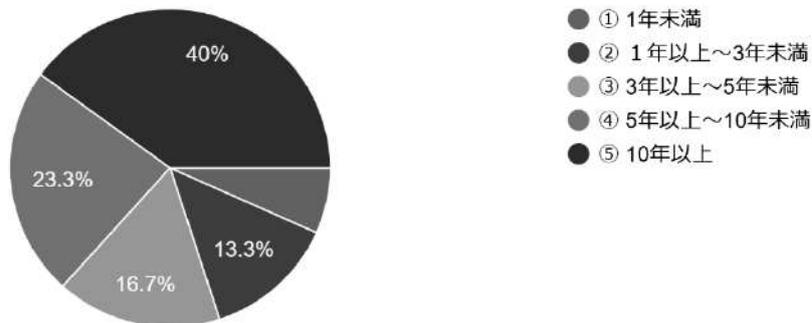
問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

30件の回答



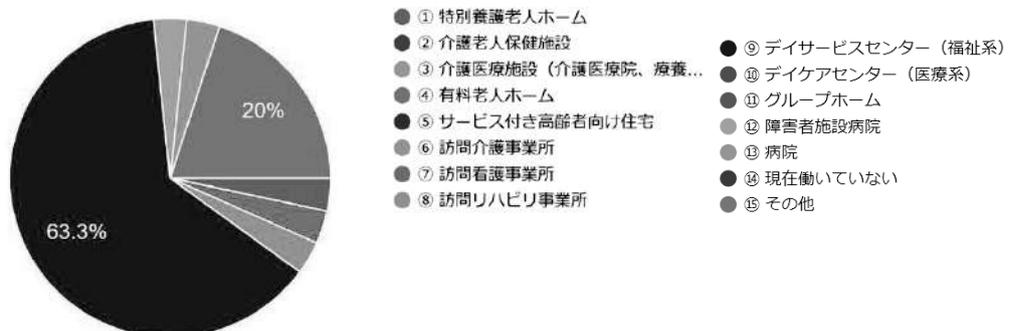
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

30件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

30件の回答



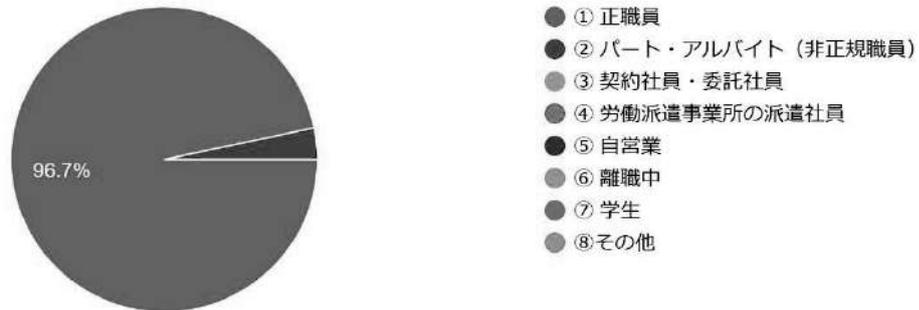
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

6件の回答

介護福祉士養成校 1件、本社 1件、本社で事業所フォロー対応 1件、内勤（運用構築、研修等） 1件、短期入所生活介護 1件、人材業界 1件

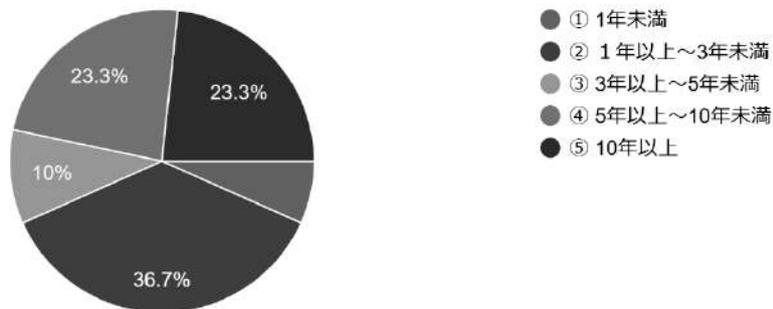
問10：あなたの雇用形態を教えてください。

30件の回答



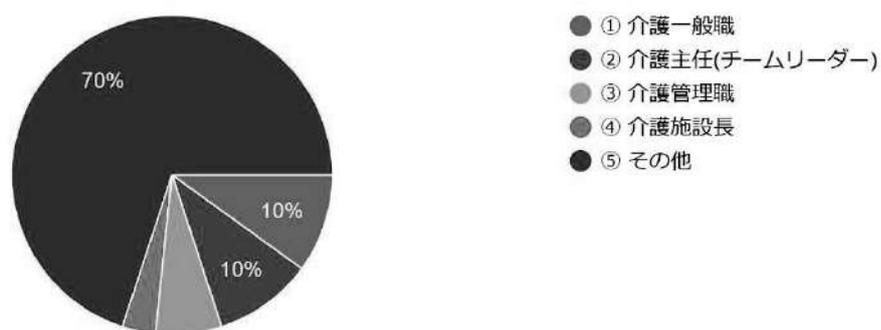
問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

30件の回答



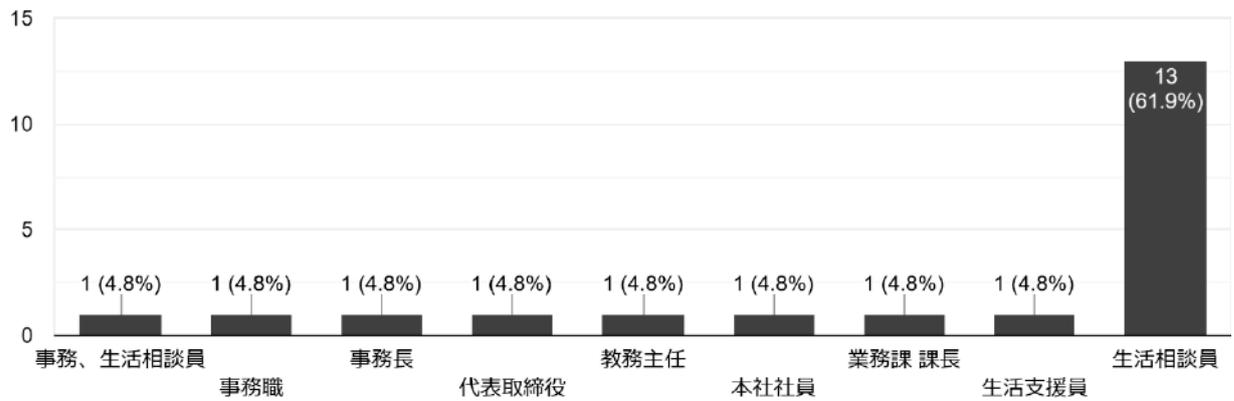
問13：あなたの役職を教えてください。

30件の回答



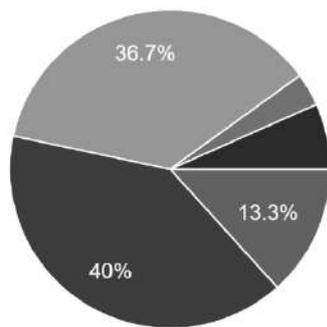
問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

21件の回答



問16：今回の研修の内容は、現場で実践できると思いますか。

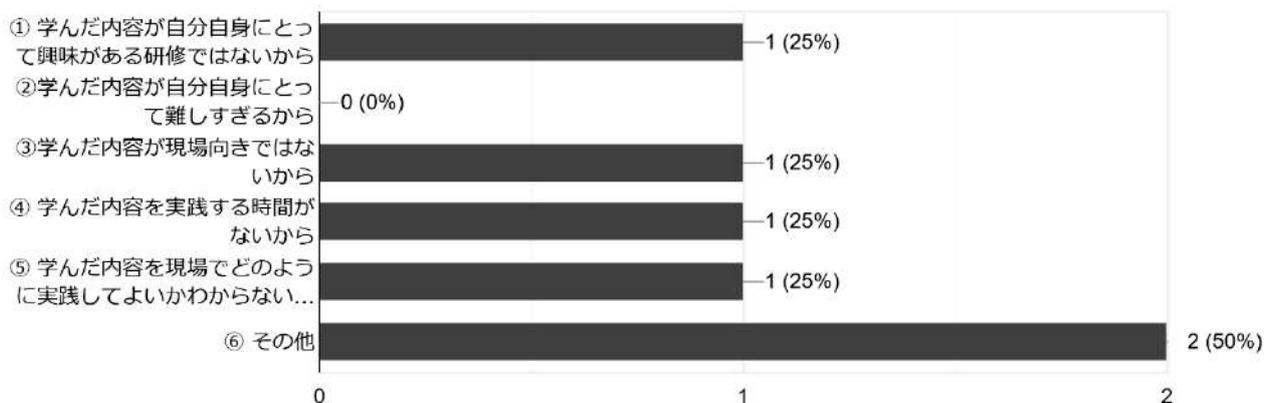
30件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う

問17：問16で「④⑤

できないと思う」と回答した方に質問です。「実践...ですか。該当するものを2つ選択してください。
4件の回答



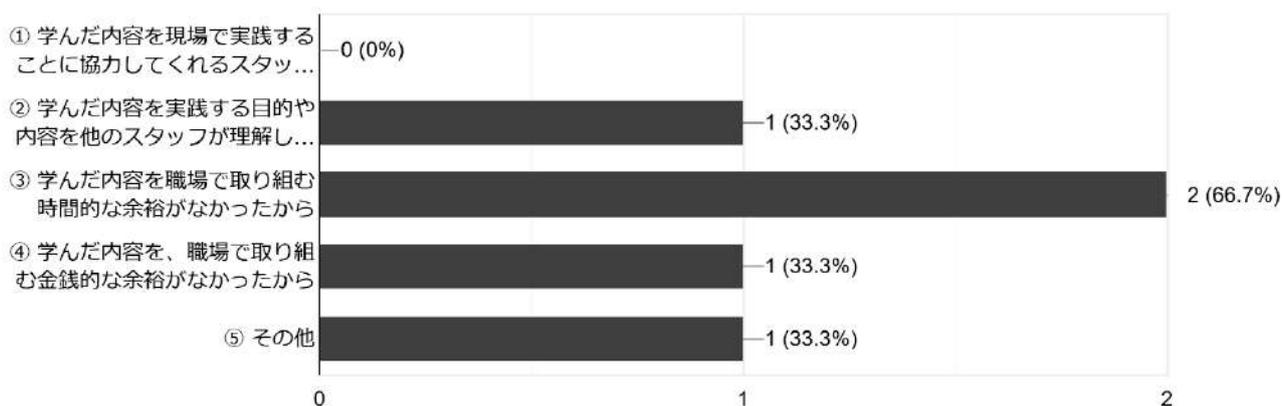
問 18：問 17 で「⑥ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由を教えてください。

2 件の回答

- ・施設自体がまだアナログなので
- ・今の職場は訪問介護なので。職場が施設等に変われれば実践出来ると思います。

問19：問16で「④⑤

できないと思う」と回答した方に質問です。「実践...ですか。該当するものを2つ選択してください。
3件の回答

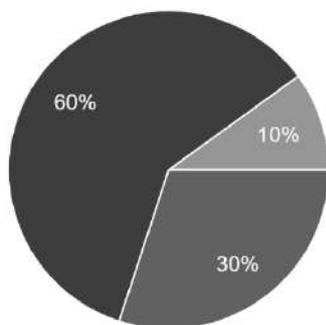


問 20：問 19「⑤ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由を教えてください。

1 件の回答

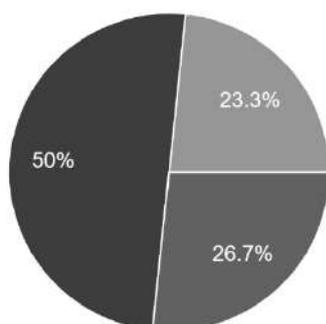
- ・人口の少ない町なので、利用者の数も少なく、導入コスト等が合わなく導入できなさそうである。

問21：この研修を受けて、あなたのスキル向上へのモチベーションは変化はありましたか。
30件の回答



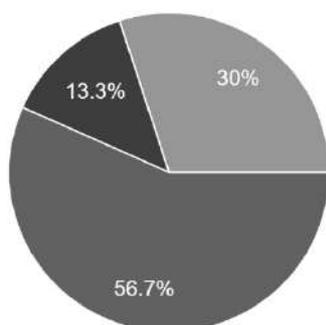
- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションに変化はありましたか。
30件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問23：今後も、自分のスキルアップになる研修があれば、率先して受けたいと思いますか。
30件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

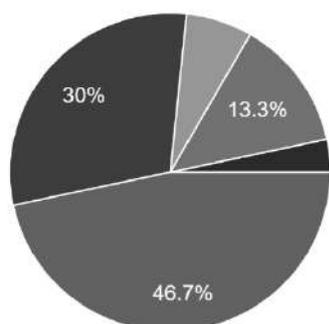
問 24：問 23 で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

13 件の回答

- ・これからも介護に関わる仕事を続けていくためにスキルアップ研修（知識、技術）
- ・介護分野の先進技術などに興味があります。
- ・介護保険の改定に関する情報や、ICT・介護ロボットに関する最新の情報、活用事例
- ・具体的な内容は不明
- ・口腔機能訓練
- ・スマート介護士エキスパート
- ・人財育成等
- ・同じ役職ではなく、他職種で行える勉強会があればいい
- ・介護に関する知識が得られれば、どんなものでも前向きに勉強してみたい。

問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えてください。

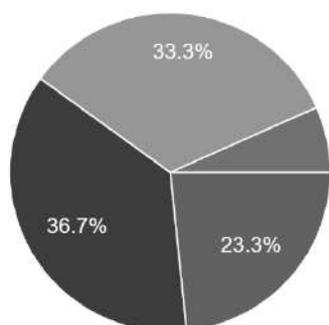
30 件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時的に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

問26：あなたが 1 回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

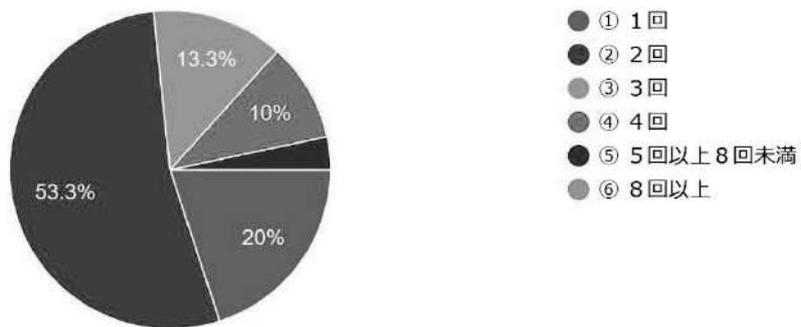
30 件の回答



- ① 1～2 時間
- ② 2～3 時間
- ③ 3～4 時間
- ④ 5～6 時間

問27：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

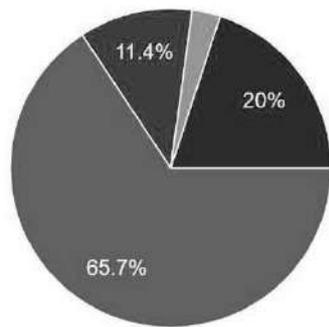
30件の回答



マネジメント事後アンケート（回収数 35 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

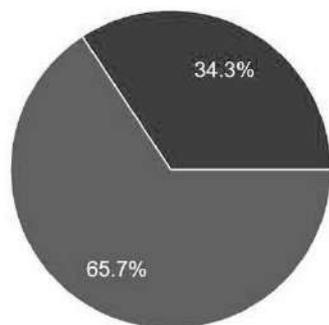
35 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

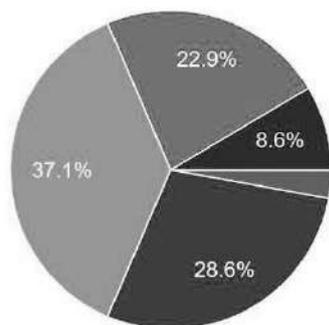
35 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

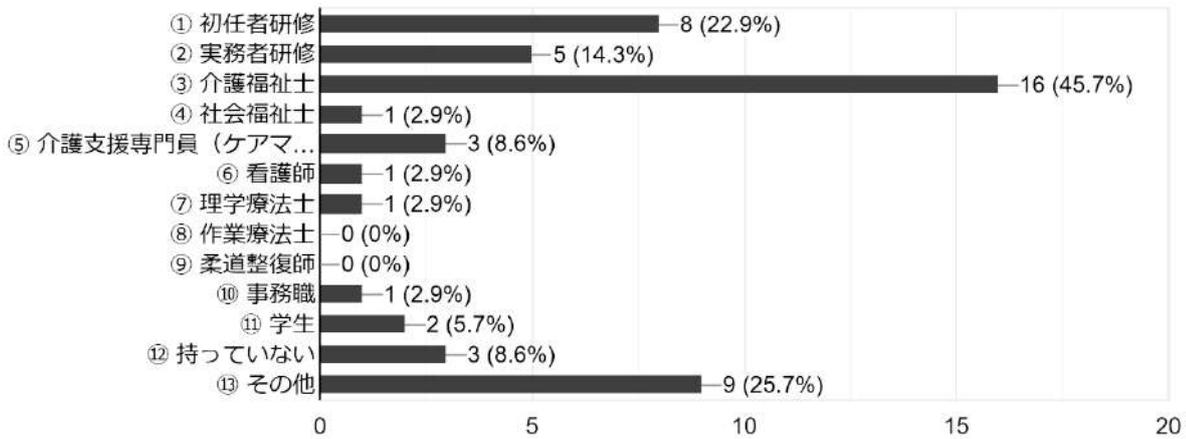
35 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

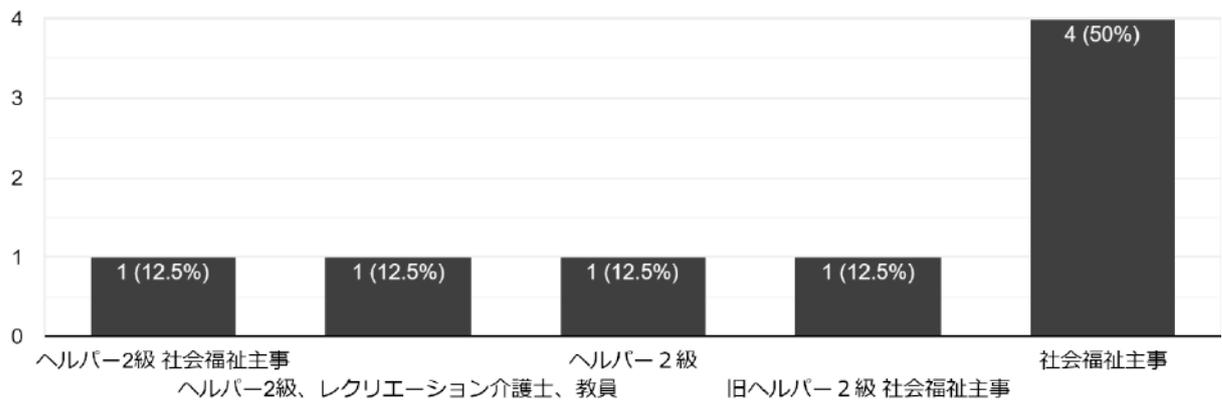
問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

35件の回答



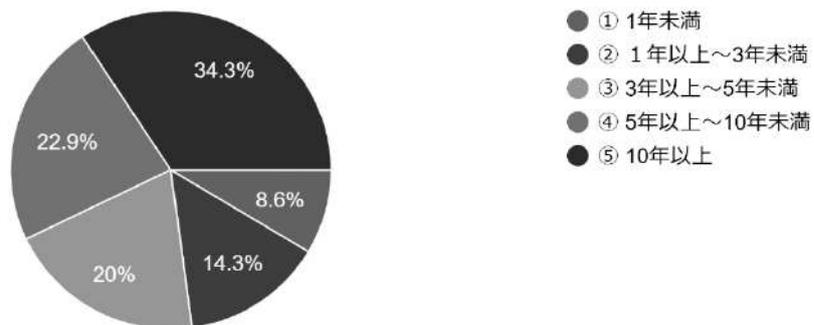
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

8件の回答



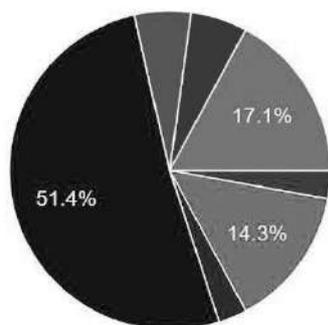
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

35件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

35件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

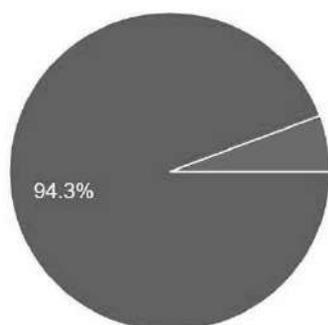
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

6件の回答

- ・快護事業部
- ・介護福祉士養成施設
- ・管理部門
- ・本社快護事業部
- ・本社管理部門
- ・介護教員

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

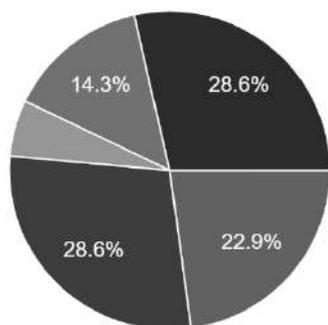
35件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト（非正規職員）
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

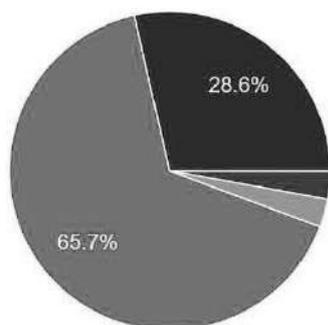
35件の回答



- ① 1年未満
- ② 1年以上～3年未満
- ③ 3年以上～5年未満
- ④ 5年以上～10年未満
- ⑤ 10年以上

問13：あなたの役職を教えてください。

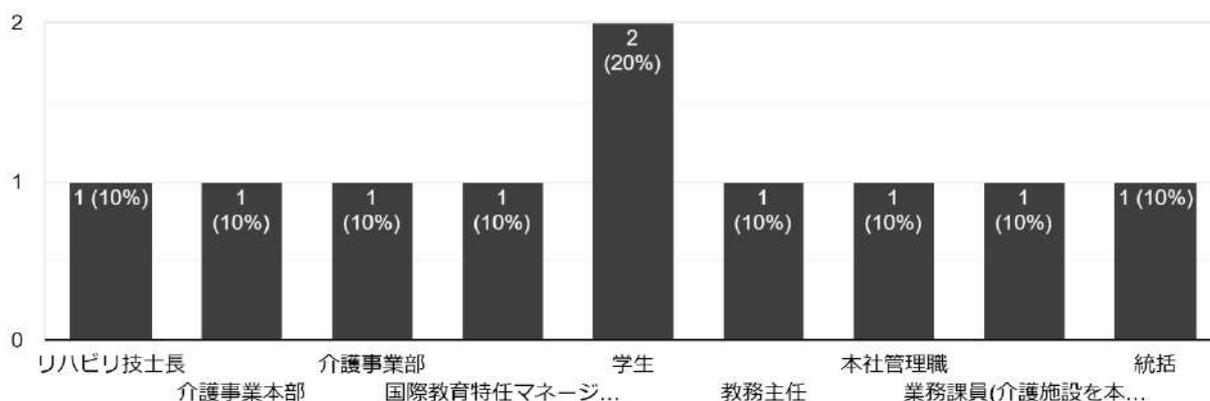
35件の回答



- ① 介護一般職
- ② 介護主任(チームリーダー)
- ③ 介護管理職
- ④ 介護施設長
- ⑤ その他

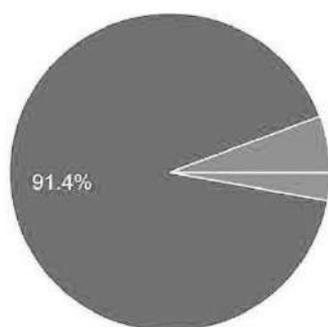
問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

10件の回答



問15：あなたが受講した研修はどれですか。

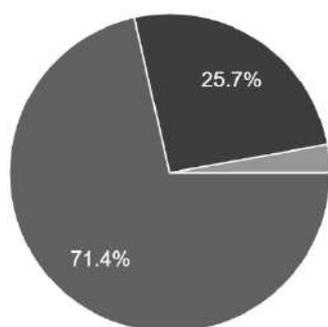
35 件の回答



- ① 介護予防
- ② 外出支援
- ③ 介護ICT/DX
- ④ マネジメント
- ⑤ ナチュラルセラピー
- ⑥ 多様な人とのかかわり

問16：今回の研修の内容は、現場で実践できると思いますか。

35 件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う

問 17：問 16 で「④⑤ できないと思う」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由は何ですか。該当するものを 2 つ選択してください。

0 件の回答

問 18：問 17 で「⑥ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」理由を教えてください。

0 件の回答

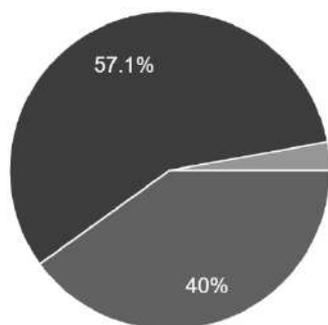
問 19：問 16 で「④⑤ できないと思う」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由は何ですか。該当するものを 2 つ選択してください。

0 件の回答

問 20：問 19「⑤ その他」と回答した方に質問です。「実践できないと思う」職場の理由を教えてください。

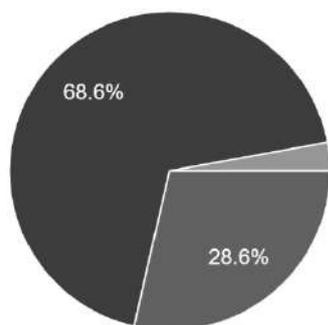
0 件の回答

問21：この研修を受けて、あなたのスキル向上へのモチベーションは変化にありましたか。
35件の回答



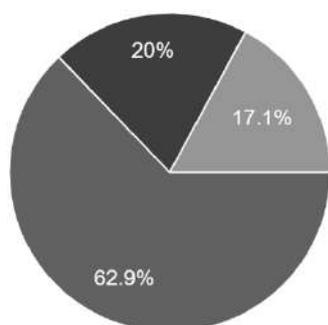
- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションに変化はありましたか。
35件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問23：今後も、自分のスキルアップになる研修があれば、率先して受けたいと思いますか。
35件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

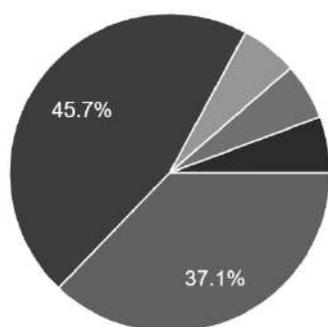
問 24：問 23 で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

18 件の回答

- ・話す・聞くスキル
- ・介護技術など
- ・マネジメント、ICT 化、
- ・実践
- ・マネジメント
- ・看取りについて
- ・介護予防とか介護の現場に直接関わること
- ・マネジメント応用、リスク管理
- ・教育関連 営業関連
- ・マネジメント、ICT
- ・ICT、スマート介護
- ・わかりやすく共感できた。
- ・介護研修
- ・コミュニケーション
- ・信頼関係の具体的な築き方
- ・2 件 アンガーマネジメント
- ・自身のメンタル管理など

問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えてください。

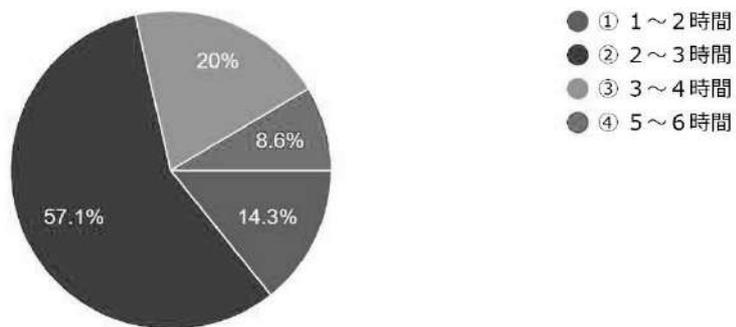
35 件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時的に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

問26：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

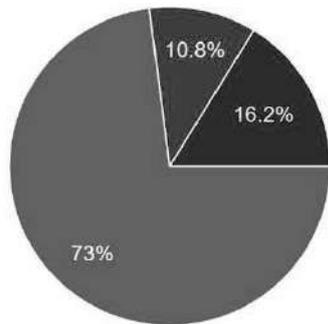
35件の回答



マネジメント事前アンケート（回答数 37 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

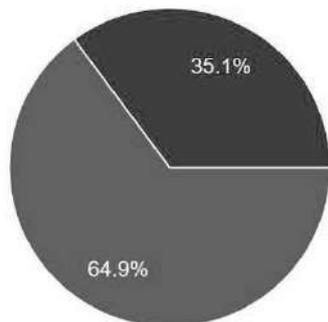
37 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

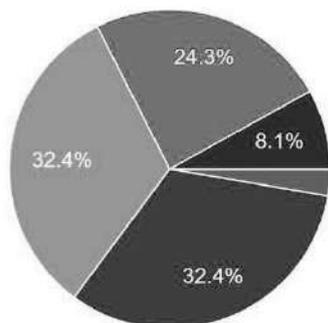
37 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

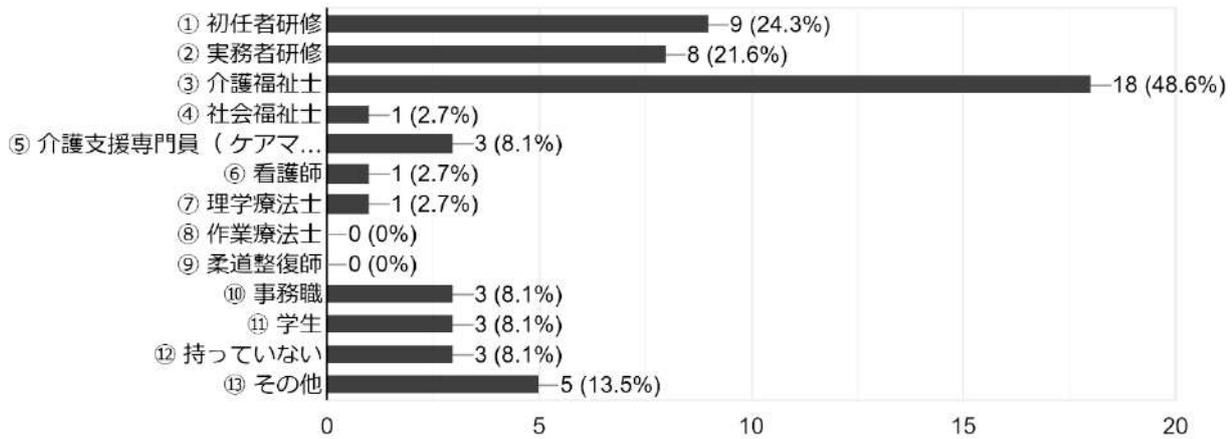
37 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

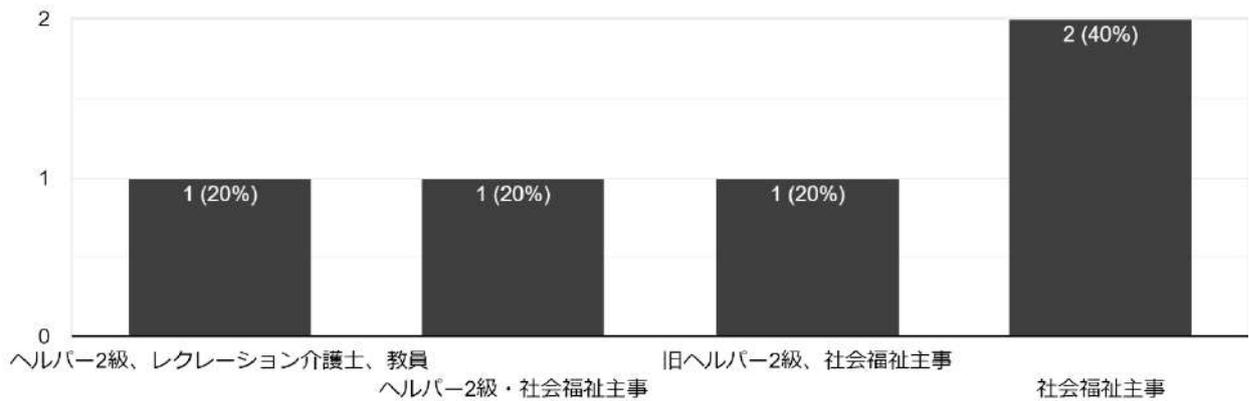
問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

37件の回答



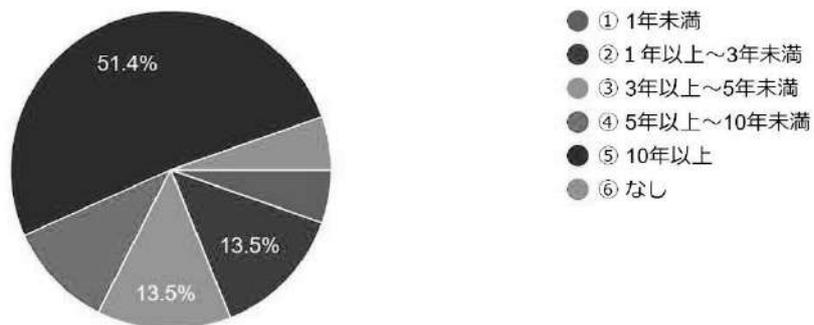
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

5件の回答



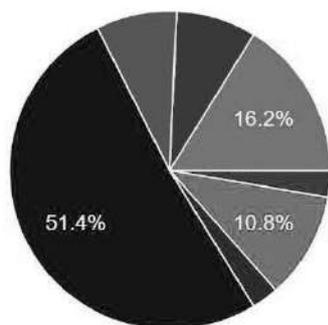
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

37件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

37件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...）
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

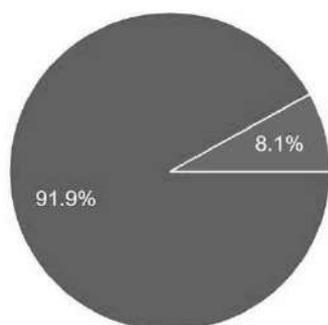
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

6件の回答

- ・管理部門
- ・介護福祉士養成施設
- ・快護事業部
- ・介護福祉士養成校教員
- ・デイサービス・居宅介護支援事業所・訪問介護・グループホームの複合施設です
- ・介護事業 本社部門

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

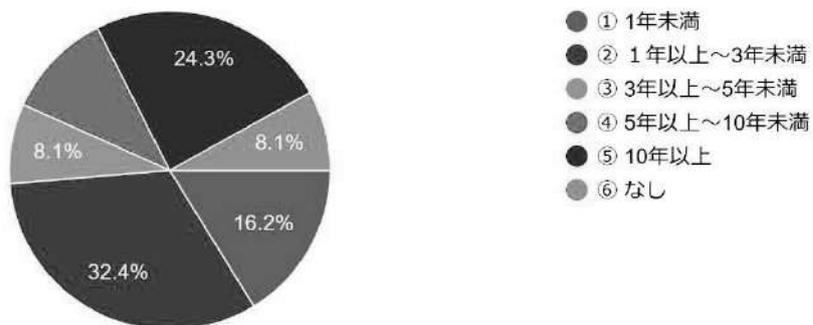
37件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

37件の回答



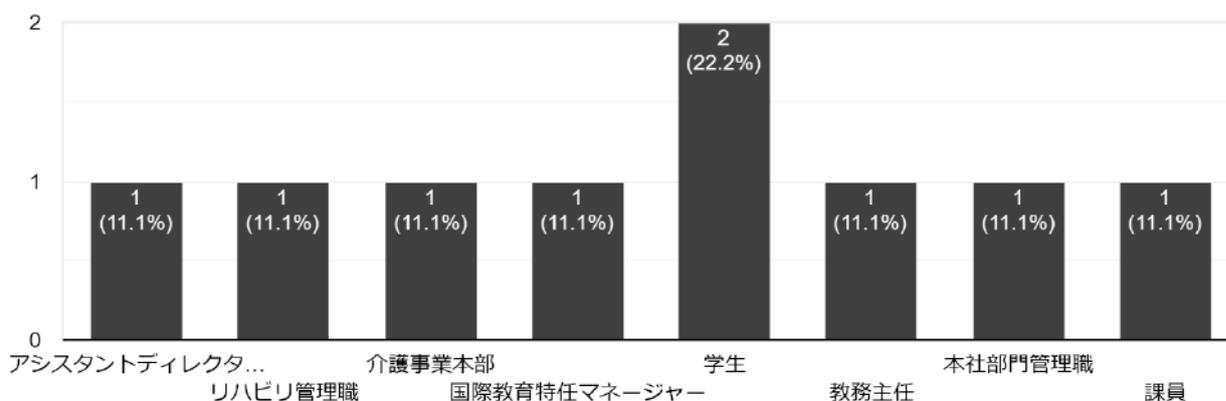
問13：あなたの役職を教えてください。

37件の回答

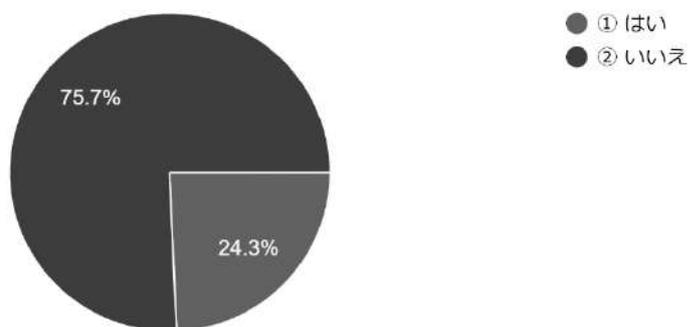


問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

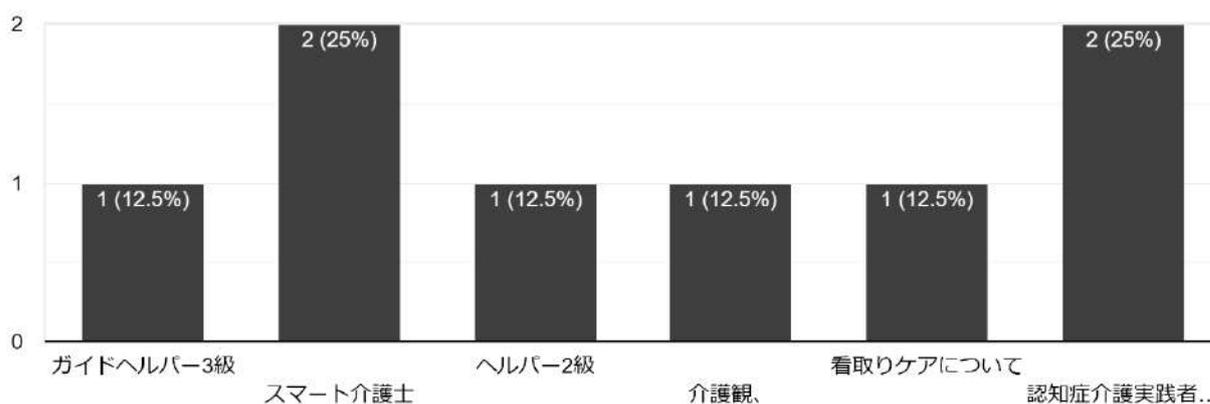
9件の回答



問15：過去に、介護スキル向上に関する研修(初任者...と)がありますか。(例えば：ICTスキル研修など)
37件の回答



問16：問15で「① はい」を回答した方に質問です。受講した研修内容を教えてください。
8件の回答



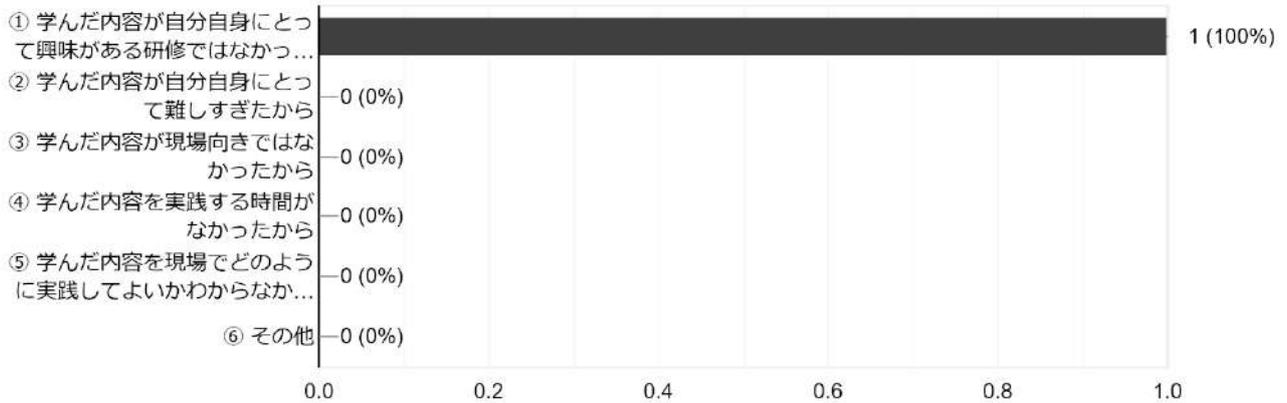
問17：問16の研修の内容を、現場で実践できましたか。
10件の回答



問18：問17で「④⑤

実践できなかった」と回答した方に質問です。「...ですか。該当するものを2つ選択してください。

1件の回答



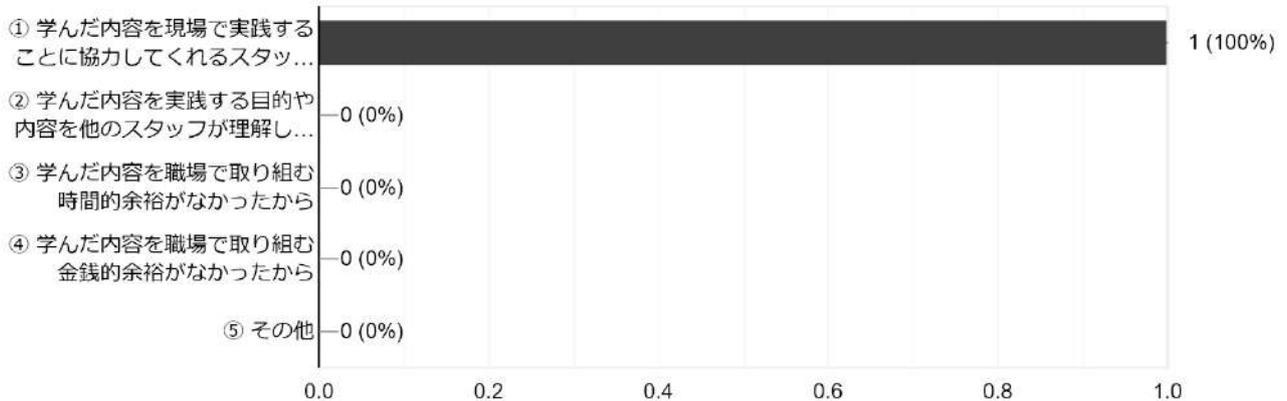
問 19：問 18 で「⑥ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」理由を教えてください。

0 件の回答

問20：問17で「④⑤

実践できなかった」と回答した方に質問です。実...ですか。該当するものを2つ選択してください。

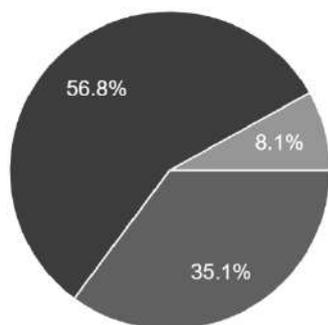
1件の回答



問 21：問 20 で「⑤ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」職場の理由を教えてください。

0 件の回答

問22：これから受ける研修についての自分自身のモチベーションについてお聞かせください。
37件の回答

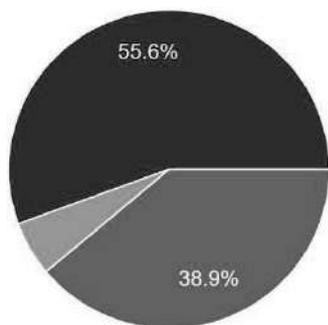


- ① とても前向きな気持ちである
- ② 少し前向きな気持ちである
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり前向きな気持ちではない
- ⑤ 全く前向きな気持ちではない

ナチュラルセラピー事前アンケート結果（回答数 18 件）

問1：あなたは今回受講する研修をどのように知りましたか。

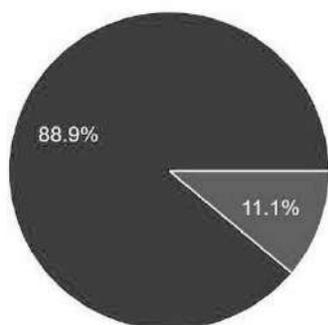
18 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

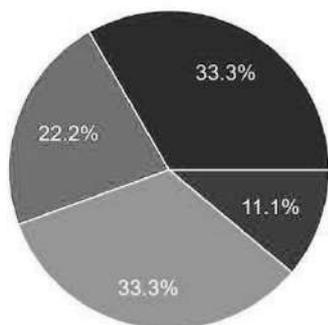
18 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

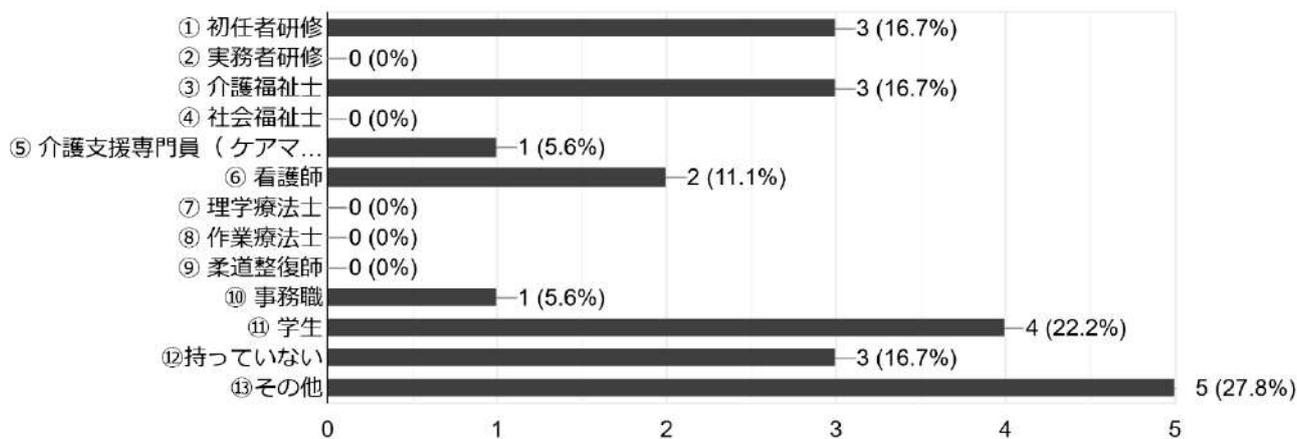
18 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

18件の回答



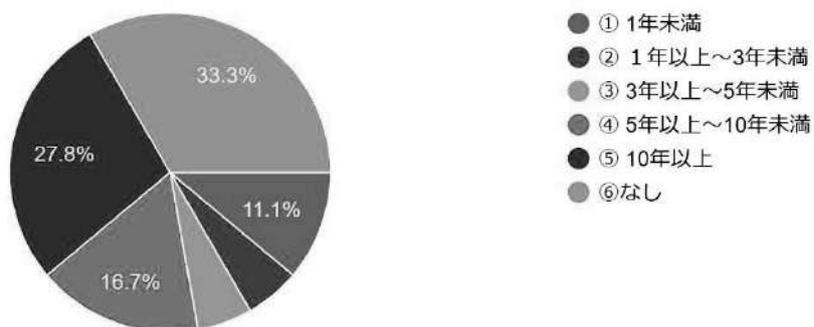
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

5件の回答

- ・ヨガ講師資格
- ・保育士
- ・教員免許
- ・保育士・幼稚園教諭
- ・ピラティスインストラクター 1件

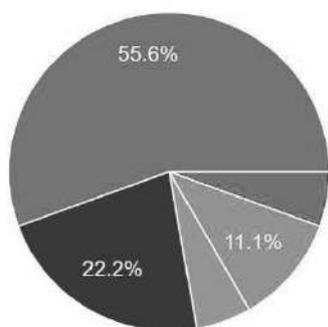
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

18件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

18件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

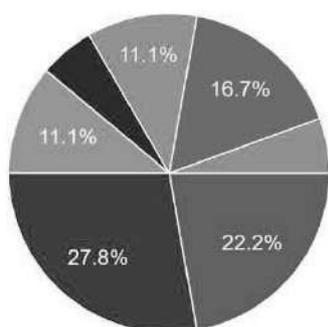
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

10件の回答

- ・介護福祉士養成施設教員
- ・シンクタンク
- ・訪問介護を中心に老健又は特別養護老人ホーム等にて派遣勤務
- ・看多機、放課後等デイサービス
- ・本社教育部門
- ・専門学校 在学中
- ・世田谷区立尾山台中学校
- ・学校法人
- ・ピラティススタジオ
- ・医療従事者ではありませんがこれからの医療現場の在り方に興味がありました。

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

18件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

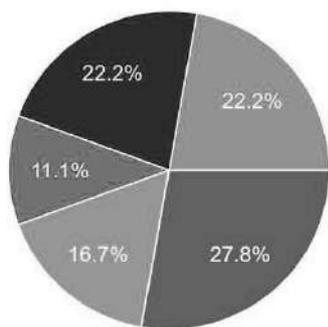
問 11：問 10 で「⑧ その他」と回答した方に質問です。あなたの雇用形態を教えてください。

1 件の回答

・非常勤講師

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

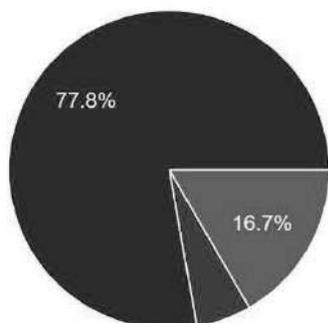
18 件の回答



- ① 1年未満
- ② 1年以上～3年未満
- ③ 3年以上～5年未満
- ④ 5年以上～10年未満
- ⑤ 10年以上
- ⑥ なし

問13：あなたの役職を教えてください。

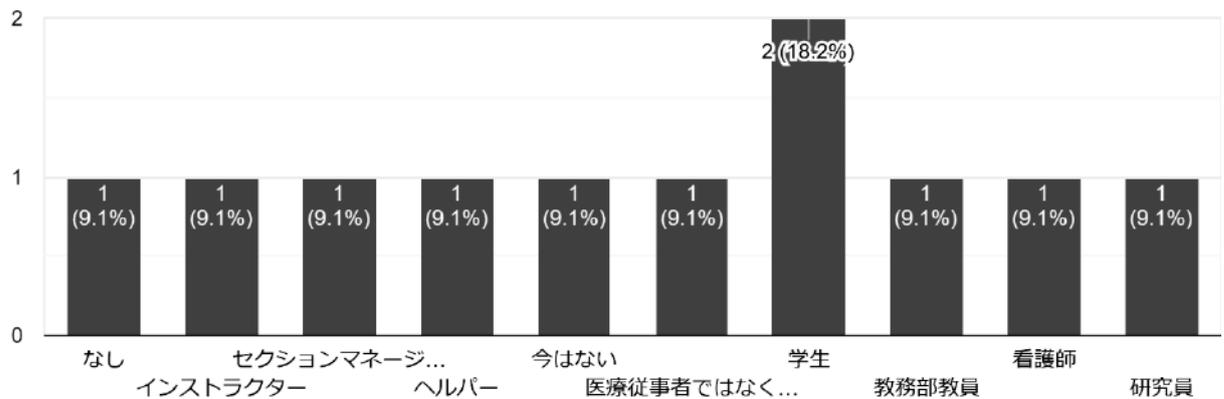
18 件の回答



- ① 介護一般職
- ② 介護主任(チームリーダー)
- ③ 介護管理職
- ④ 介護施設長
- ⑤ その他

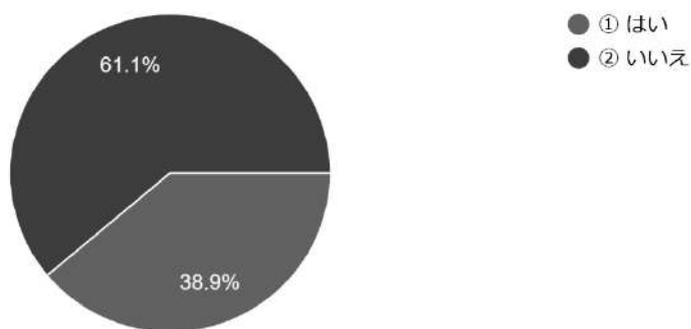
問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

11件の回答



問15：過去に、介護スキル向上に関する研修(初任者...と)がありますか。(例えば：ICTスキル研修など)

18件の回答



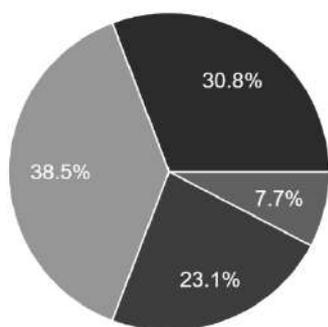
問16：問15で「① はい」を回答した方に質問です。受講した研修内容を教えてください。

7件の回答

- ・介護技術講習会・技能実習生実習指導
- ・介護福祉士初任研修その他色々
- ・重度訪問介護
- ・スマート介護士
- ・トラベルヘルパー養成講座
- ・初任者研修 スマート介護士
- ・ヘルパー2級

問17：問16の研修の内容を、現場で実践できましたか。

13件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できた
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できた
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できなかった
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できなかった

問 18：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。「実践できなかった」理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

1件の回答

- ③ 学んだ内容が現場向きではなかったから

問 19：問 18 で「⑥ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」理由を教えてください。

該当なし

問 20：問 17 で「④⑤ 実践できなかった」と回答した方に質問です。実践できなかった職場の理由は何ですか。該当するものを2つ選択してください。

1件の回答

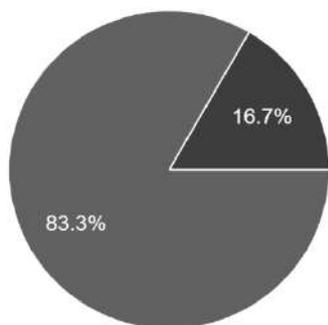
- ⑤ その他

問 21：問 20 で「⑤ その他」を回答した方に質問です。「実践できなかった」職場の理由を教えてください。

1件の回答

- ・会社独自のシステムで成り立っていた為

問22：これから受ける研修についての自分自身のモチベーションについてお聞かせください。
18件の回答

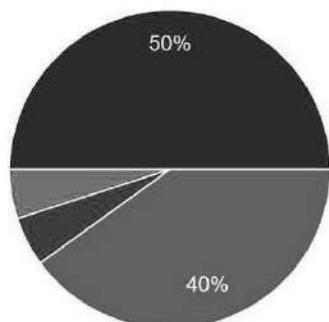


- ① とても前向きな気持ちである
- ② 少し前向きな気持ちである
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり前向きな気持ちではない
- ⑤ 全く前向きな気持ちではない

ナチュラルセラピー事後アンケート結果（回答数 21 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

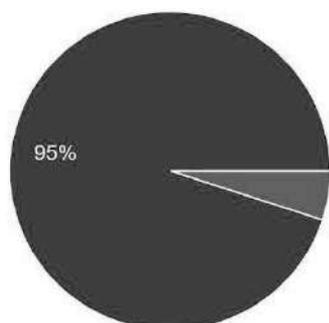
20 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

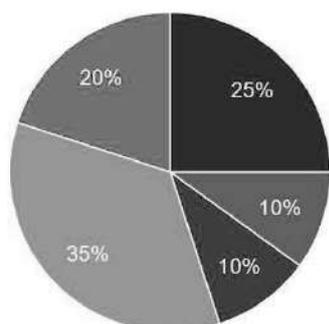
20 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

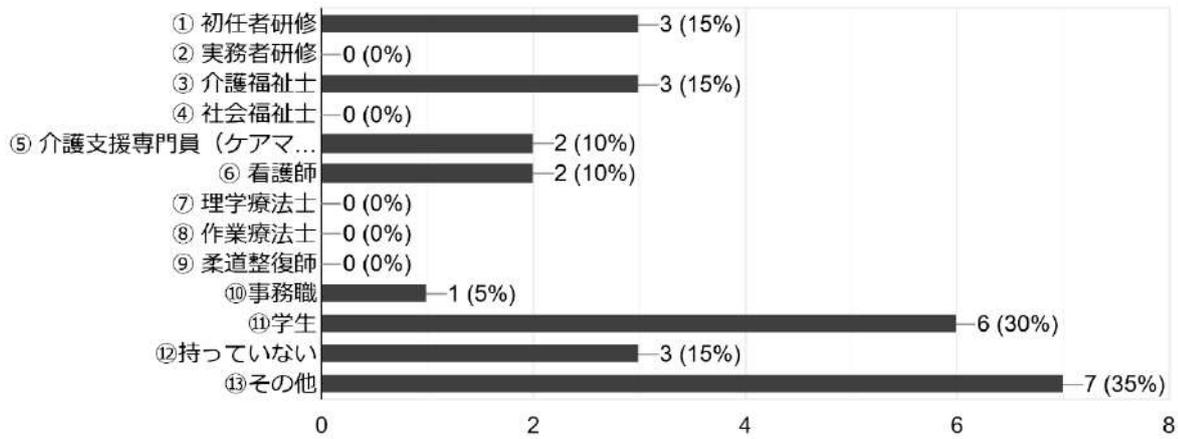
20 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。

20件の回答



問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

7件の回答

- ・ヨガ講師
- ・保育士 幼稚園教諭
- ・教員免許
- ・保育士
- ・小学校教員、家庭科教員（中高）、保育士、食品衛生管理 など
- ・CIBTAC
- ・ピラティスインストラクター

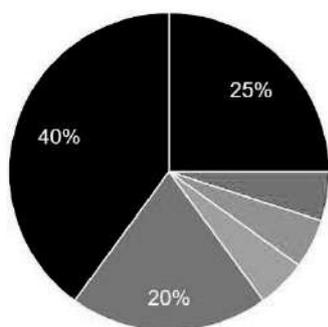
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

20件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

20件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

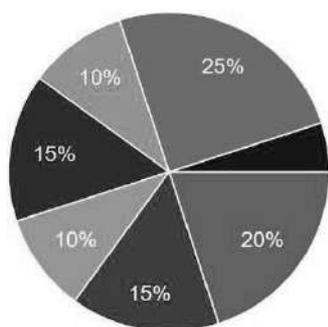
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

12件の回答

- ・介護福祉士養成校
- ・シンクタンク
- ・神奈川社会福祉専門学校
- ・学校法人
- ・世田谷区尾山台中学校、東京女子学院
- ・本社管理部門
- ・放課後等デイサービス、看多機
- ・学校
- ・任意団体 わわわのわ（茅ヶ崎市で活動する団体です）
- ・プライベートサロン
- ・医療、介護に従事しておりません。
- ・ピラティススタジオ

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

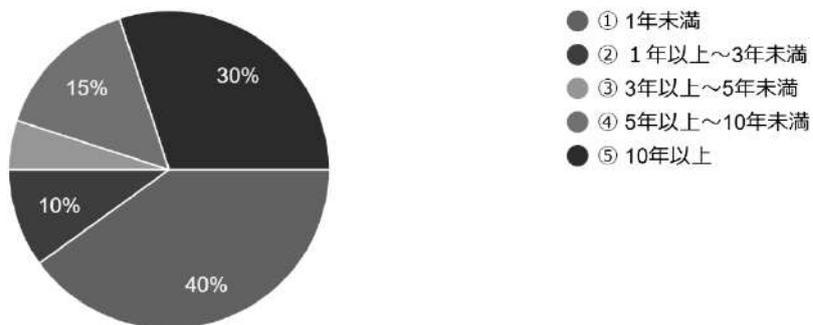
20件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト（非正規職員）
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他
- ⑧ その他

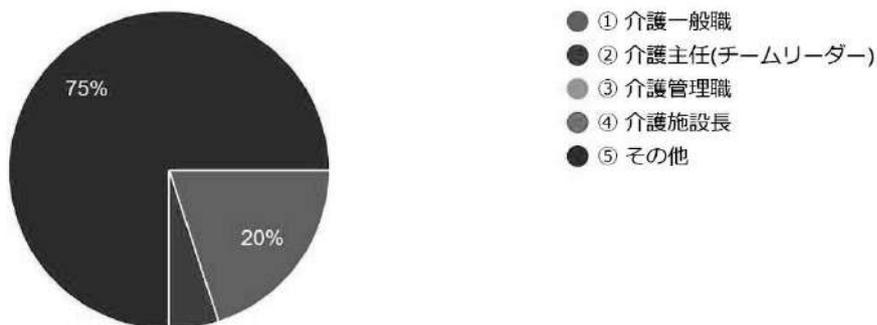
問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

20件の回答



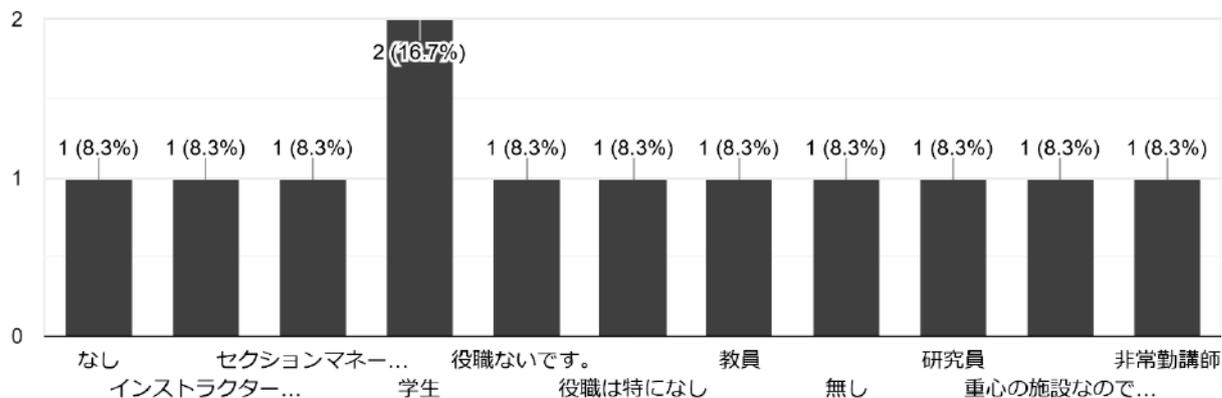
問13：あなたの役職を教えてください。

20件の回答



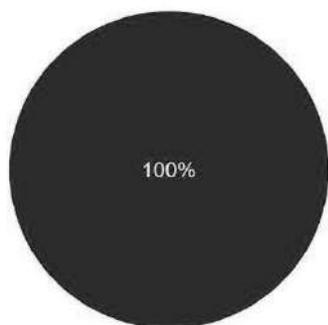
問14：問13で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

12件の回答



問15：あなたが受講した研修はどれですか。

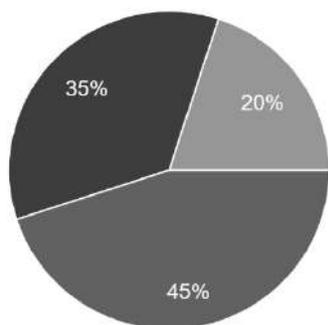
20件の回答



- ① 介護予防
- ② 外出支援
- ③ 介護ICT/DX
- ④ マネジメント
- ⑤ ナチュラルセラピー
- ⑥ 多様な人とのかかわり

問16：今回の研修の内容は、現場で実践できると思いますか。

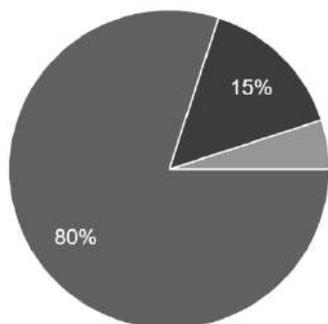
20件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う

問21：この研修を受けて、あなたのスキル向上へのモチベーションは変化はありましたか。

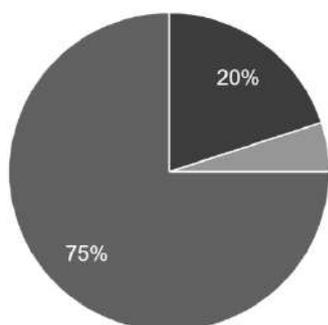
20件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションは変化はありましたか。

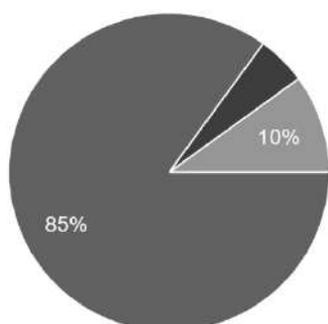
20件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問23：今後も、自分のスキルアップになる研修があれば、率先して受けたいと思いますか。

20件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

問 24：問 23 で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

14 件の回答

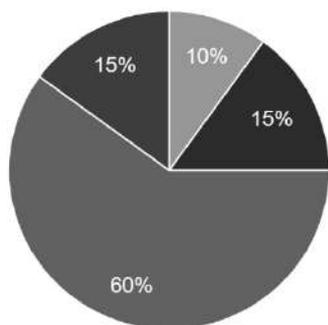
- ・介護技術
- ・更に踏み込んだ内容のアロマセラピーの講座があれば受講してみたいです。
- ・導入することにハードルが低い研修全般
- ・介護予防
- ・ナチュラルセラピー
- ・現場実践に役立つ内容
- ・トラベルヘルパー
- ・介護予防、認知症の方に対する知識
- ・アロマセラピーやハンドマッサージ
- ・ナチュラルセラピー
- ・環境についての研修など
- ・植物療法

・ナチュラルセラピー、介護予防

・予防や進行、悪化を防ぐようなもの ex)呼吸法 瞑想やマインドフルネス 食べ物を頂く心得(精進料理) ピラティスもおすすめてです！

問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えてください。

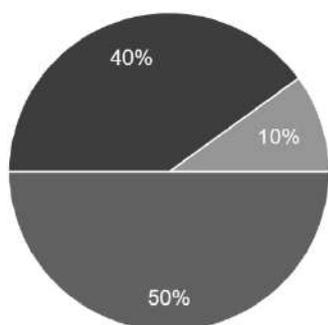
20件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時的に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

問26：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

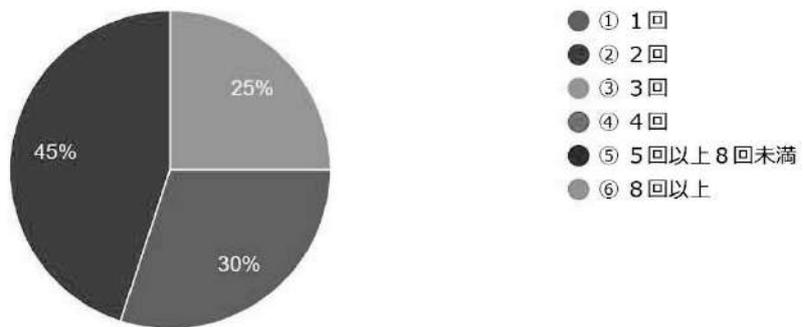
20件の回答



- ① 1～2時間
- ② 2～3時間
- ③ 3～4時間
- ④ 5～6時間

問27：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

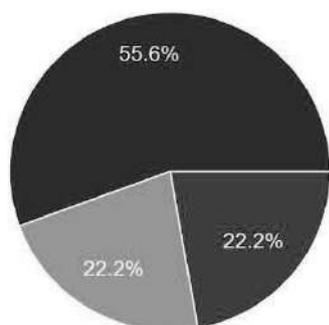
20件の回答



多様な人とのかかわり事前アンケート結果（回答数9件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

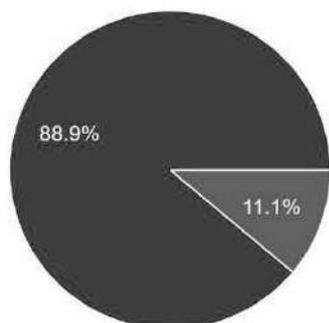
9件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

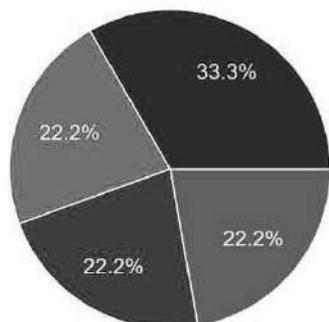
9件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

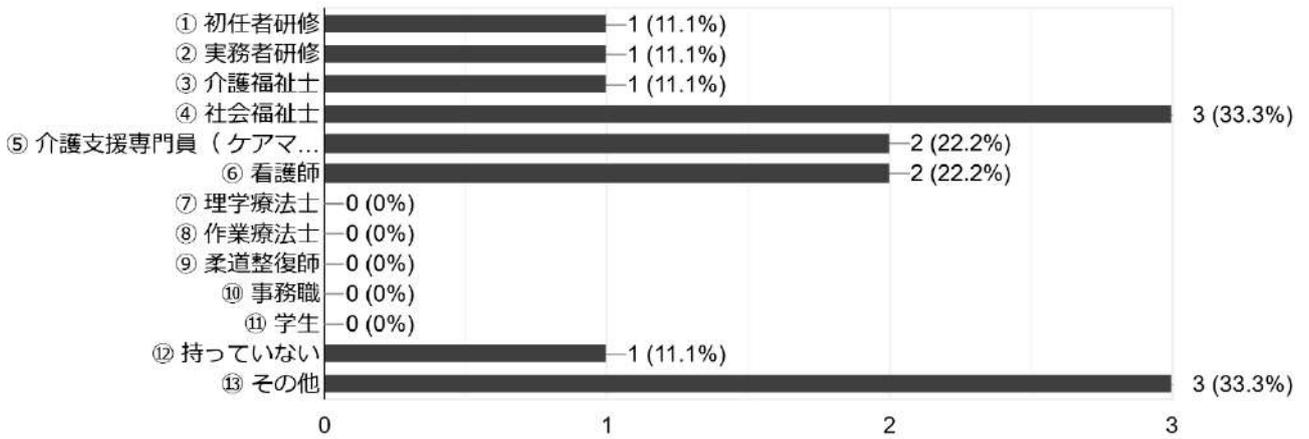
9件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

9件の回答



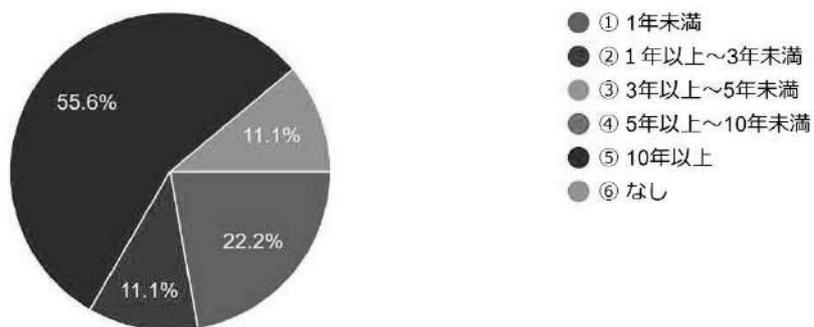
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

4件の回答

- ・ブネメゾット3級
- ・社会福祉主事
- ・准看護師
- ・看護師

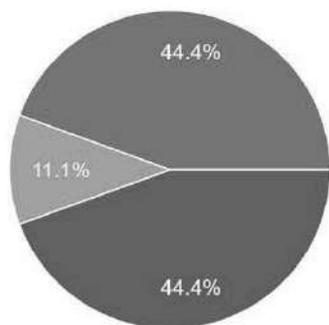
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

9件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

9件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...）
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

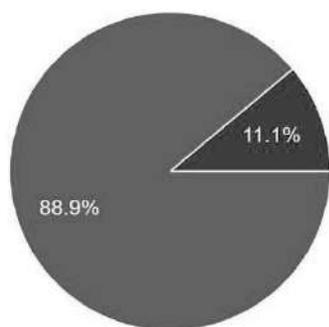
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

4件の回答

- ・介護福祉士養成校教員
- ・技能実習生 介護教育
- ・本社 管理部門
- ・法人本部

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

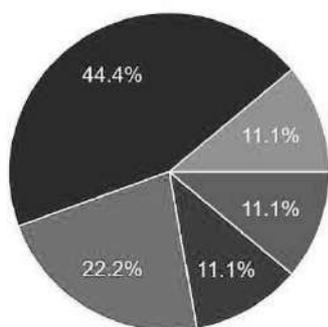
9件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

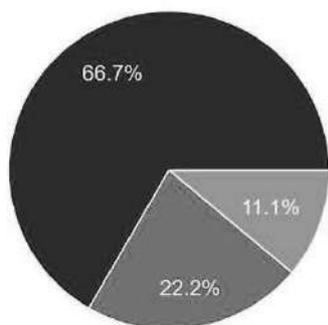
9件の回答



- ① 1年未満
- ② 1年以上～3年未満
- ③ 3年以上～5年未満
- ④ 5年以上～10年未満
- ⑤ 10年以上
- ⑥ なし

問13：あなたの役職を教えてください。

9件の回答



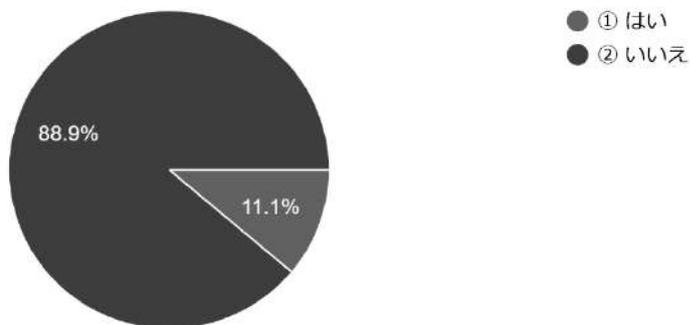
- ① 介護一般職
- ② 介護主任(チームリーダー)
- ③ 介護管理職
- ④ 介護施設長
- ⑤ その他

問 14：問 13 で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

5 件の回答

- ・国際教育特任マネージャー
- ・次長
- ・看護部長
- ・本社
- ・法人本部 係長級

問15：過去に、介護スキル向上に関する研修(初任者...と)がありますか。(例えば：ICTスキル研修など)
9件の回答



問17：問16の研修の内容を、現場で実践できましたか。
1件の回答



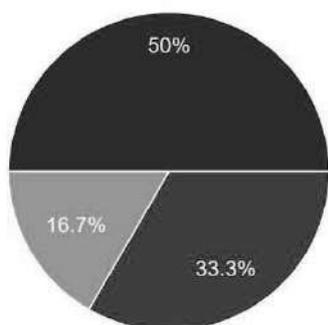
問22：これから受ける研修についての自分自身のモチベーションについてお聞かせください。
9件の回答



多様な人とのかかわり事後アンケート結果（回答数 6 件）

問1：あなたは受講する研修をどのように知りましたか。

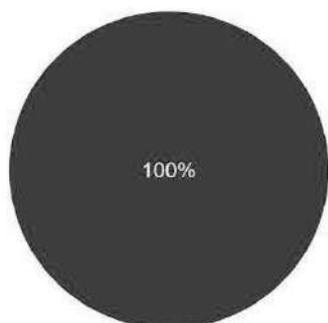
6 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

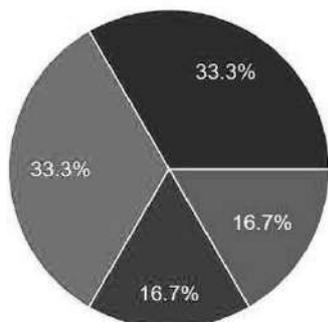
6 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

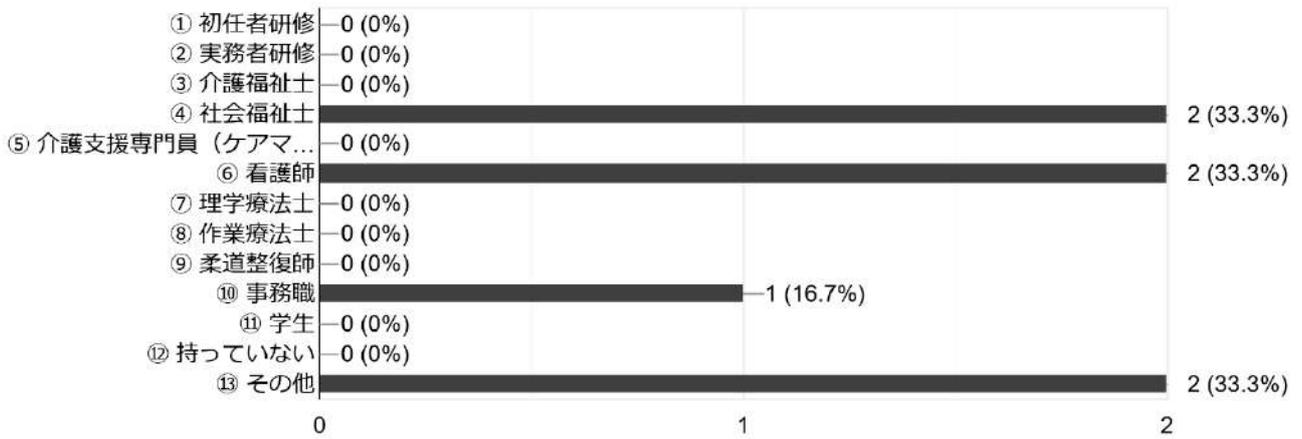
6 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

6件の回答



問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

2件の回答

- ・准看護師
- ・社会福祉主事

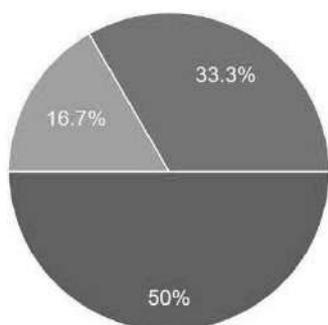
問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

6件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

6件の回答



- ① 特別養護老人ホーム
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護医療施設（介護医療院、療養...）
- ④ 有料老人ホーム
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅
- ⑥ 訪問介護事業所
- ⑦ 訪問看護事業所
- ⑧ 訪問リハビリ事業所
- ⑨ デイサービスセンター（福祉系）
- ⑩ デイケアセンター（医療系）
- ⑪ グループホーム
- ⑫ 障害者施設病院
- ⑬ 病院
- ⑭ 現在働いていない
- ⑮ その他

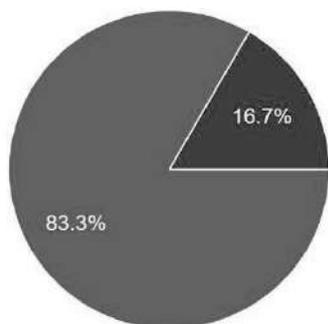
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

2件の回答

- ・介護福祉士教育専門学校
- ・法人本部

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

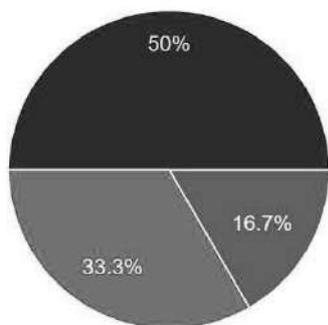
6件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト（非正規職員）
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

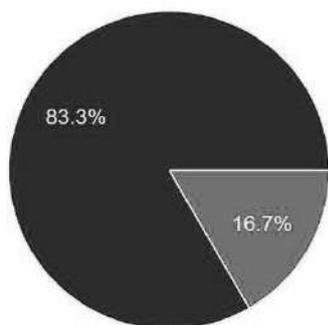
6件の回答



- ① 1年未満
- ② 1年以上～3年未満
- ③ 3年以上～5年未満
- ④ 5年以上～10年未満
- ⑤ 10年以上

問13：あなたの役職を教えてください。

6件の回答



- ① 介護一般職
- ② 介護主任(チームリーダー)
- ③ 介護管理職
- ④ 介護施設長
- ⑤ その他

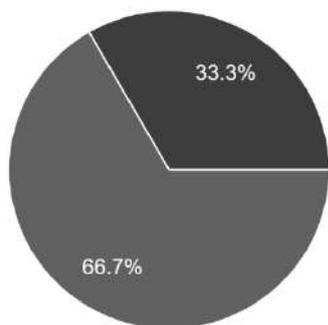
問 14：問 13 で「⑤ その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

4 件の回答

- ・看護部長
- ・次長
- ・国際教育特任マネージャー
- ・法人本部 係長

問16：今回の研修の内容は、現場で実践できると思いますか。

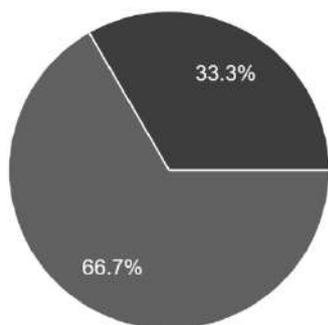
6件の回答



- ① 学んだ内容を現場でとても実践できると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できないと思う

問21：この研修を受けて、あなたのスキル向上へのモチベーションは変化にありましたか。

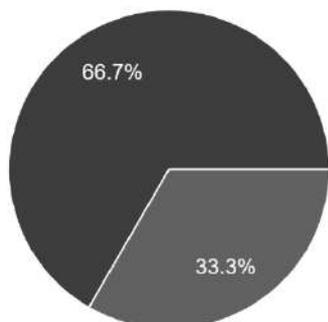
6件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションに変化はありましたか。

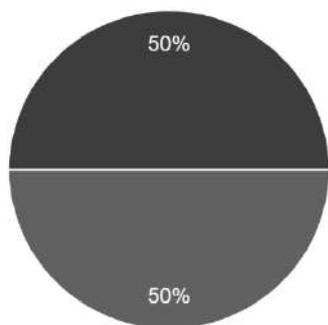
6件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問23：今後も、自分のスキルアップになる研修があれば、率先して受けたいと思いますか。

6件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

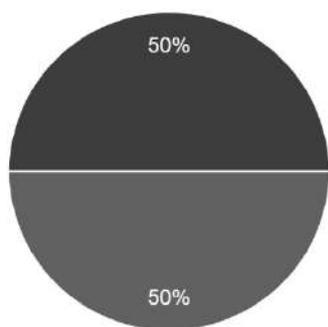
問 24：問 23 で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

5件の回答

- ・受講者参加型の研修
- ・人材育成（海外人材）教育
- ・施設長の資質と役割
- ・人事関連、外国人関連
- ・マネジメント

問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えて下さい。

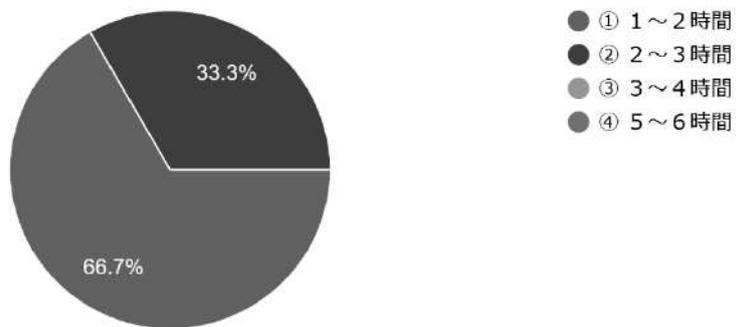
6件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時的に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

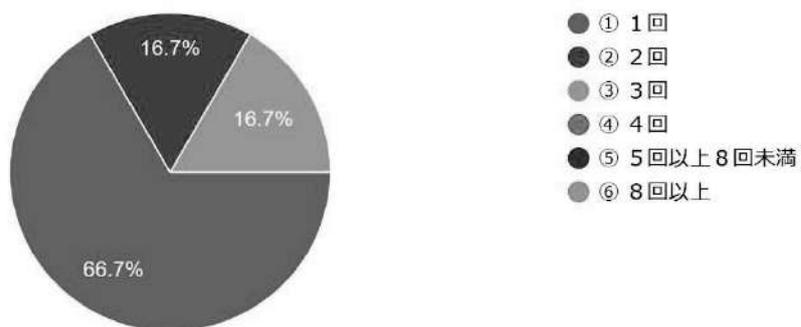
問26：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

6件の回答



問27：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

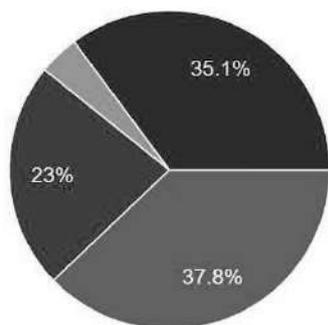
6件の回答



受講後 1 か月経過アンケート結果（回収数 74 件）

問1：あなたが受講した研修をどのように知りましたか。

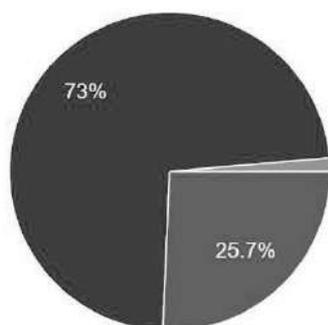
74 件の回答



- ① 施設・学校
- ② チラシ
- ③ web (ホームページ・メルマガなど)
- ④ 媒体 (マイナビなど)
- ⑤ その他

問3：性別を教えてください。

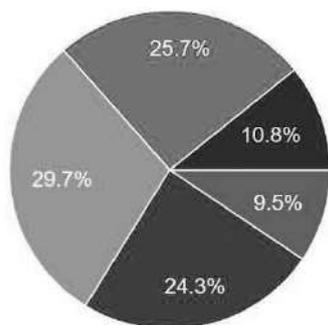
74 件の回答



- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

問4：あなたの年齢を教えてください。

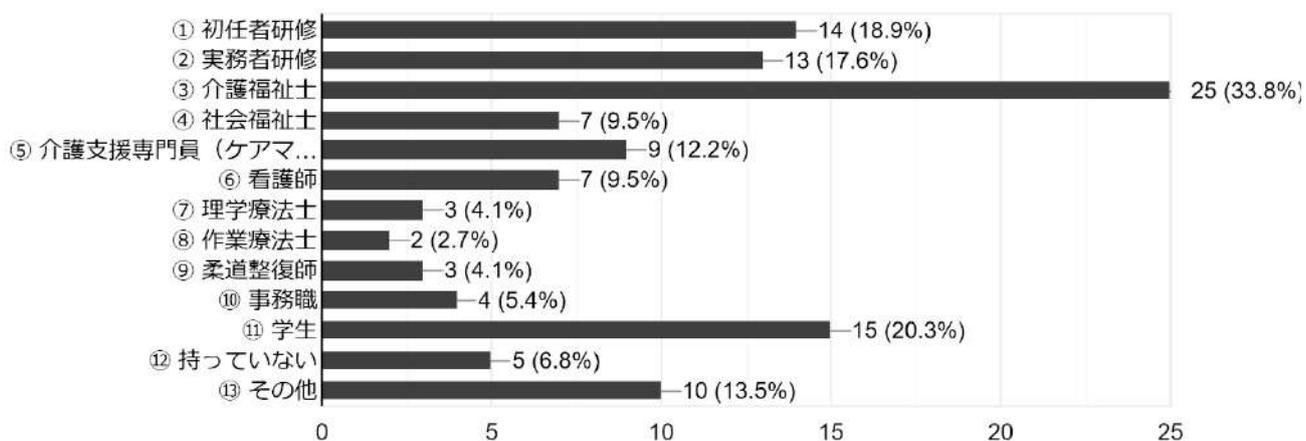
74 件の回答



- ① 10~20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60代
- ⑥ 70代以上

問5：あなたの資格を教えてください。（複数回答可）

74件の回答



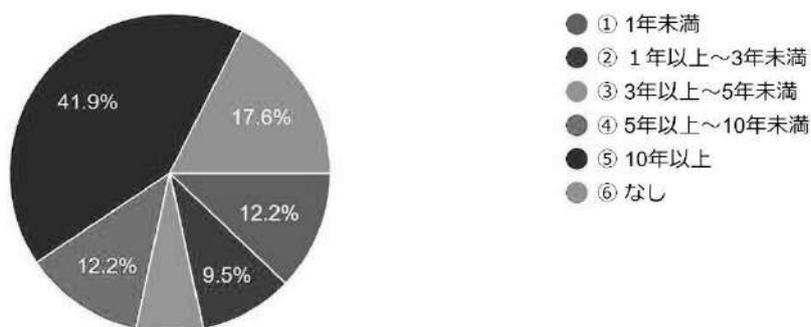
問6：問5で「⑬ その他」と回答した方に質問です。あなたの資格を教えてください。

11件の回答

- ・キャリアコンサルタント 2級技能士 1件
- ・ヨガ講師 3件
- ・社会福祉主事
- ・介護教育
- ・保育士 2件
- ・ヘルパー2級
- ・准看護師
- ・精神保健福祉士

問7：あなたの専門職としての経験年数を教えてください。

74件の回答



問8：あなたの所属先を教えてください。

74件の回答



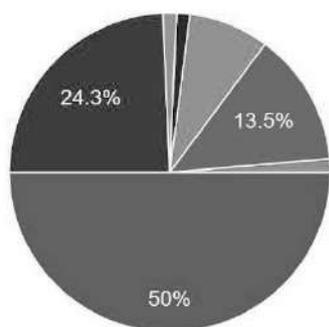
問9：問8で「⑮ その他」と回答した方に質問です。あなたの所属先を教えてください。

21件の回答

- ・1件 現在は本社 管理部門の所属ですが、昨年度まではデイサービス（福祉系）に所属していました。
- ・1件 大阪労働局 公共職業安定所
- ・1件 介護教育 送り出し機関
- ・4件 介護福祉士養成校
- ・2件 本社管理部門
- ・1件 養成校
- ・1件 本社管理部門
- ・1件 介護福祉士養成専門学校
- ・1件 教育機関
- ・1件 介護福祉士養成施設
- ・1件 介護付旅行サービス東京さんぽ
- ・1件 新規事業の開設
- ・2件 放課後等デイサービス、看多機
- ・1件 小規模多機能居宅介護
- ・1件 短期入所生活介護
- ・1件 人材業界
- ・1件 新潟青陵大学
- ・1件 介護教育関係
- ・1件 家政婦紹介所

問10：あなたの雇用形態を教えてください。

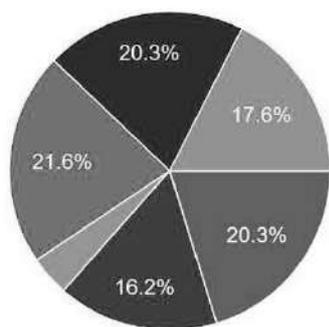
74件の回答



- ① 正職員
- ② パート・アルバイト（非正規社員）
- ③ 契約社員・委託社員
- ④ 労働派遣事業所の派遣社員
- ⑤ 自営業
- ⑥ 離職中
- ⑦ 学生
- ⑧ その他

問12：あなたが勤務されている施設・事業所の勤務年数を教えてください。

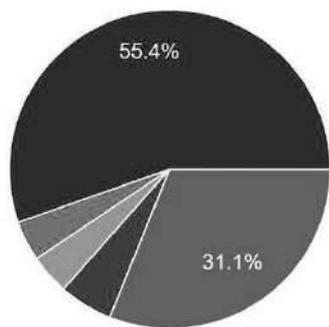
74件の回答



- ① 1年未満
- ② 1年以上～3年未満
- ③ 3年以上～5年未満
- ④ 5年以上～10年未満
- ⑤ 10年以上
- ⑥ なし

問13：あなたの役職を教えてください。

74件の回答



- ① 介護一般職
- ② 介護主任(チームリーダー)
- ③ 介護管理職
- ④ 介護施設長
- ⑤ その他

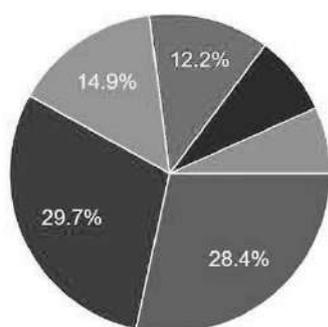
問 14：問 13 で「⑤その他」と回答した方に質問です。あなたの役職を教えてください。

37 件の回答

- ・6 件 無し
- ・2 件 機能訓練指導員
- ・5 件 学生
- ・2 件 教務主任
- ・2 件 国際教育特任マネージャー
- ・4 件 生活相談員
- ・2 件 看護師
- ・就職支援ナビゲーター
- ・事務
- ・介護福祉学科教員
- ・一般職
- ・セクションマネージャー
- ・次長（事務管理職）
- ・役員
- ・新規事業の管理者
- ・マネージャー
- ・看護部長兼人事
- ・代表
- ・助教
- ・家政婦
- ・係長

問15：あなたが受講した研修はどれですか。

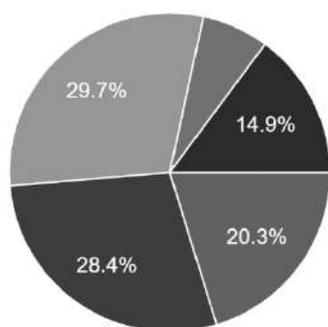
74 件の回答



- ① 介護予防
- ② 外出支援
- ③ 介護ICT/DX
- ④ マネジメント
- ⑤ ナチュラルセラピー
- ⑥ 多様な人とのかかわり

問16：今回の研修の内容を、現場で実践できていると思いますか。

74件の回答

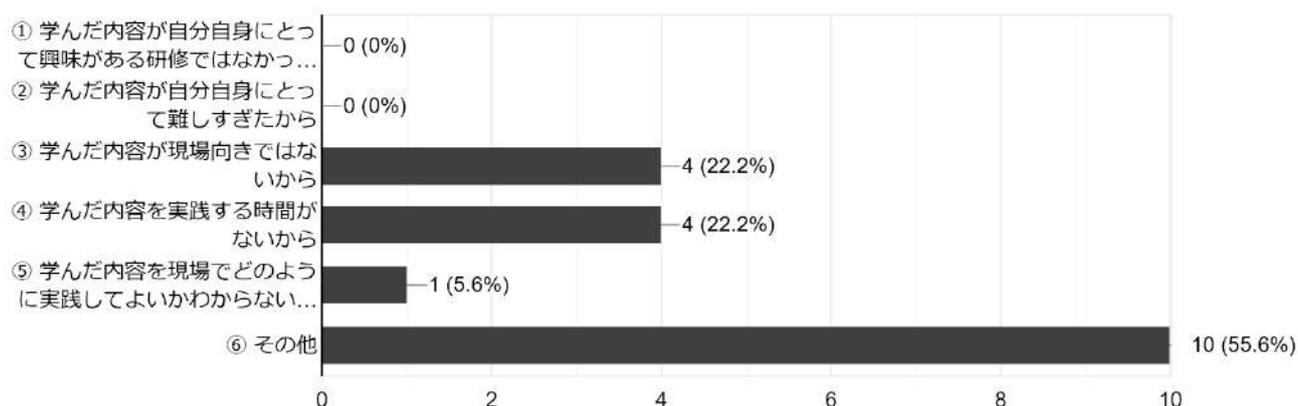


- ① 学んだ内容を現場でとても実践できていると思う
- ② 学んだ内容を現場で少し実践できていると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容を現場であまり実践できていないと思う
- ⑤ 学んだ内容を現場で全く実践できていないと思う

問17：問16で「④⑤

できていないと思う」と回答した方に質問です。...ですか。該当するものを2つ選択してください。

18件の回答



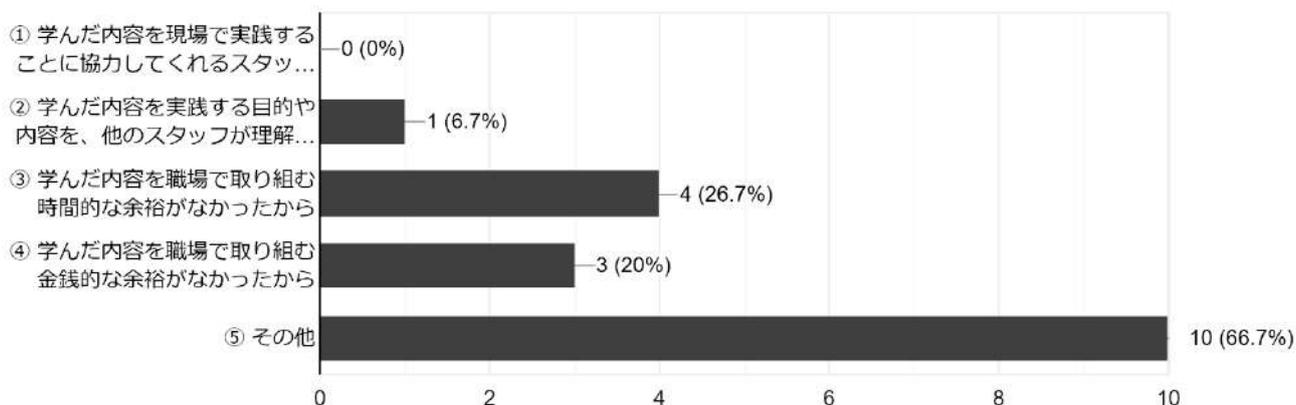
問 18：問 17 で「⑥ その他」と回答した方に質問です。「実践できていないと思う」理由を教えてください。

9 件の回答

- ・ 3 件 離職中のため
- ・ 受講後課題提出などの指示はありましたか？ 受講修了証や資格取得証などはいただけないのでしょうか？ 講義の際に後日詳細をメールしますと言われましたが、その後何もありません。素晴らしい資格だと思い受講したので残念です。
- ・ 訪問介護なので
- ・ 実践に向けた運用の構築が必要となるため
- ・ 学生なので、実践できる場がないから
- ・ まだ勤務していないから
- ・ 設備がない 管理者に提案するも却下された

問19：問16で「④⑤

できていないと思う」と回答した方に質問です。...ですか。該当するものを2つ選択してください。
15件の回答



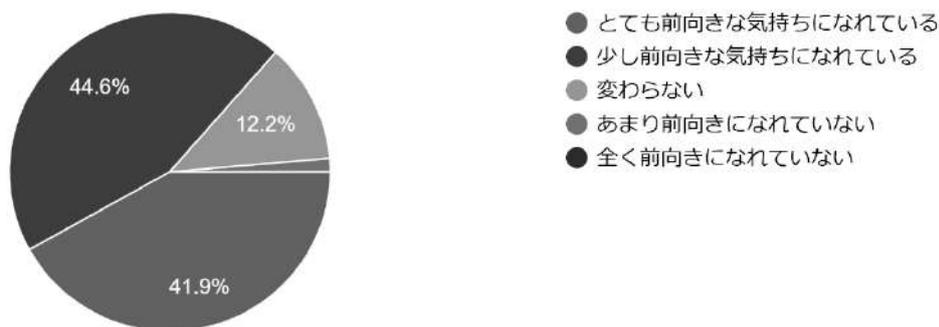
問 20：問 19「⑤ その他」と回答した方に質問です。「実践できていないと思う」職場の理由を教えてください。

9件の回答

- ・ 2件 離職中のため
- ・職務内容が違うから
- ・受講後課題提出などの指示はありましたか？受講修了証や資格取得証などはいただけないのでしょうか？講義の際に後日詳細をメールしますと言われましたが、その後何もありません。素晴らしい資格だと思い受講したので残念です。
- ・訪問介護なので
- ・実践に向けた運用構築が必要となるため
- ・2件 学生なので、実践できる場がないから
- ・コミュニケーション不足 ご本人、介護者、家族、医療従事者、ケアマネージャーなどなど、関係者同士の、ネットワークがないため。

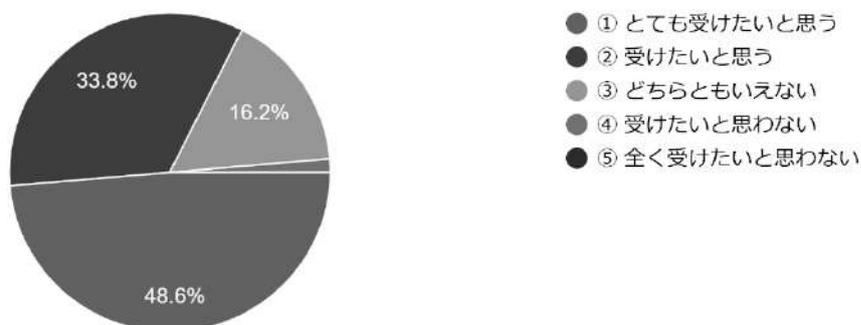
問22：今回の研修を受けて、あなたの仕事へのモチベーションに変化はありましたか。

74件の回答



問23：今後、自分のスキルアップになる研修があったら、率先して受けたいと思いますか。

74 件の回答



問24：問23で「①② 受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思う研修とはどんな研修ですか。

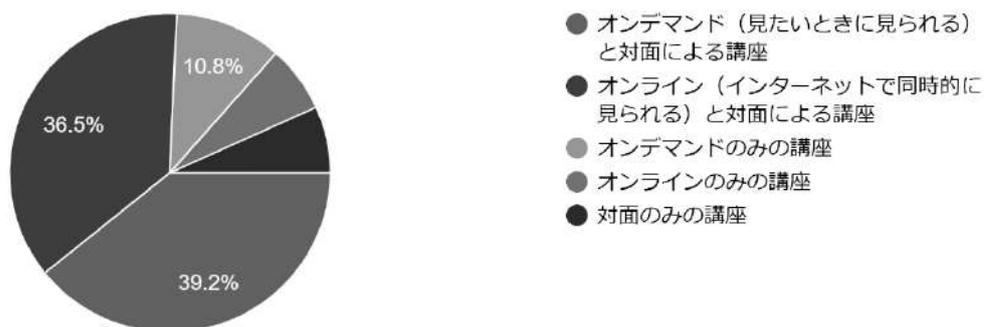
48 件の回答

- ・8件 認知症について
- ・2件 シニアヨガやチェアヨガの講座
- ・5件 介護予防の機能訓練内容や疼痛緩和の為のストレッチなどの研修
- ・2件 ハンドマッサージ等
- ・2件 視線入力、整体マッサージ
- ・現場で活かせるスキル
- ・スキルを向上できる内容のもの
- ・介護技術に関する研修
- ・介護に関する最新技術（ICT や介護技術で）が学べる研修など
- ・留学生について
- ・外国人雇用関係
- ・初心者向けのヘルパー講座
- ・福祉系
- ・現在の仕事に直結する講座
- ・人材育成、チームマネジメント。対話や傾聴などのコミュニケーションワークショップ。
- ・段階的にスキルアップできるマネジメント力
- ・法令順守研修（身近な事例等から学ぶ感じで）
- ・受講者参加型の研修
- ・介護保険制度現状や今後の見通し
- ・マネジメント、ICT、介護現場で役立つ技術
- ・実践的な物もしくは最新の技術を含んだもの
- ・トラベルヘルパー上級級
- ・トラベルヘルパー
- ・トラベルワーカー

- ・コーチング
- ・介護技術やコミュニケーション
- ・マネジメント
- ・アンガーマネジメント、意思決定支援
- ・人材育成
- ・多様なさひととのかかわり
- ・リスクマネジメント（KYT）有料老人ホーム等について（様々な有料老人ホームがあり、その違いを知りたい）
- ・現在職員への心理的なマネジメントとケア
- ・ケアマネジャー受験対策講座アロマセラピー
- ・福祉用具
- ・教育、プレゼン

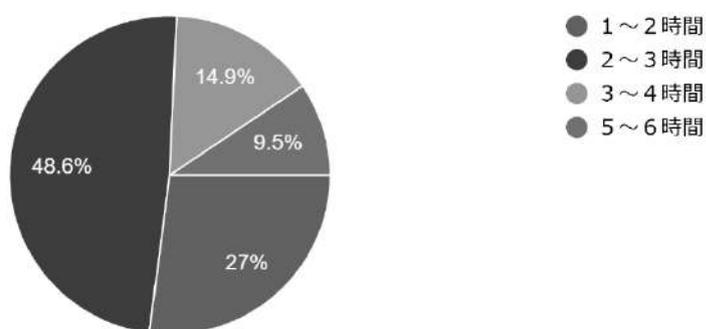
問25：あなたが受講しやすい受講形態について教えてください。

74件の回答



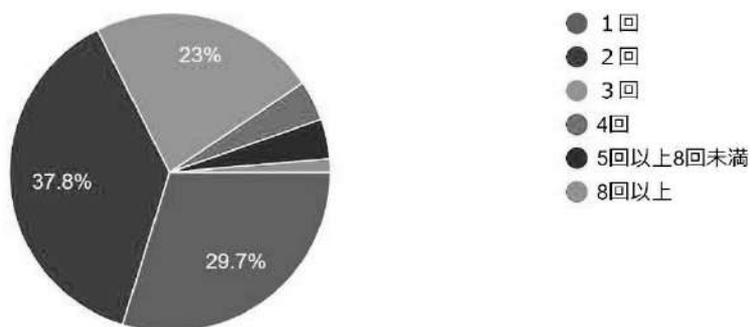
問26：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

74件の回答



問27：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

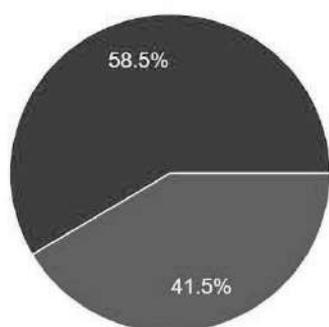
74件の回答



専門学校生受講後アンケート結果（回収数 41 件）

問1. どの講座を受講されましたか。

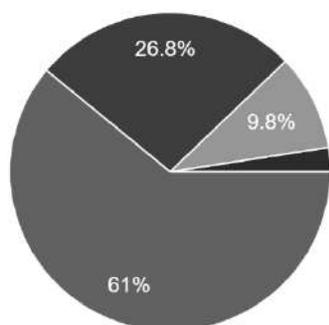
41 件の回答



- ① ナチュラルセラピー
- ② 多様な人とのかかわり

問2. 今回の講座の内容は、就職先など現場で活用できると思いますか。

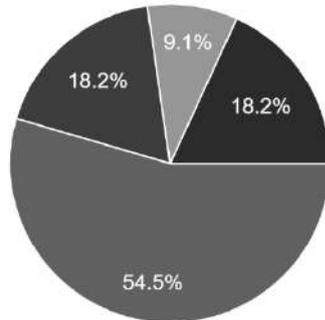
41 件の回答



- ① 学んだ内容をとても活用できると思う
- ② 学んだ内容を少し活用できると思う
- ③ どちらともいえない
- ④ 学んだ内容をあまり活用できないと思う
- ⑤ 学んだ内容を全く活用できないと思う

問3：問2で「④⑤

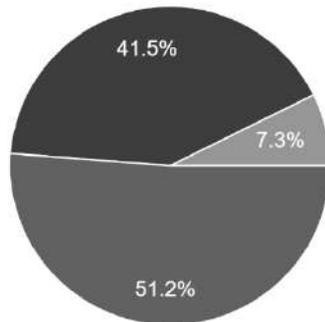
できないと思う」と回答した方に質問です。「活用...ですか。該当するものを2つ選択してください。
11件の回答



- ① 学んだ内容が自分自身にとって興味がある講座ではないから
- ② 学んだ内容が自分自身にとって難しすぎるから
- ③ 学んだ内容が現場向きではないから
- ④ 学んだ内容を活用する時間がないから
- ⑤ 学んだ内容を現場でどのように活用してよいかわからないから
- ⑥ その他

問5：今回の講座を受けて、あなたの仕事へのモチベーションに変化はありましたか。

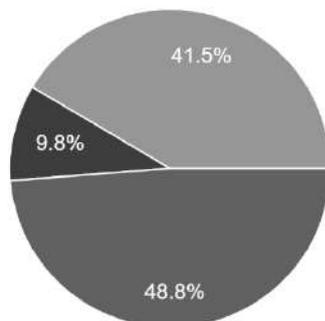
41件の回答



- ① とても前向きな気持ちになれた
- ② 少し前向きな気持ちになれた
- ③ 変わらない
- ④ あまり前向きになれなかった
- ⑤ 全く前向きになれなかった

問6：今後も、自分のスキルアップになる講座があれば、率先して受けたいと思いますか。

41件の回答



- ① とても受けたいと思う
- ② 少し受けたいと思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けたいと思わない
- ⑤ 全く受けたいと思わない

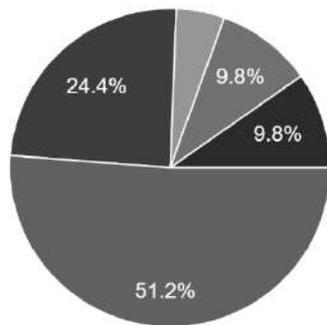
問7：問6で「①②受けたいと思う」を回答した方に質問です。率先して受けたいと思うスキルアップ講座はどんな講座ですか。

6件の回答

- ・利用者様の生活を豊かにできるような講座
- ・介護美容
- ・これというものはないが、美容関係に興味があるのでそっち方面のスキルアップが図れたらと思います。
- ・もっと詳しくアロマについて知りたい
- ・認知症について
- ・関わりについて

問8：あなたが受講しやすい受講形態について教えてください。

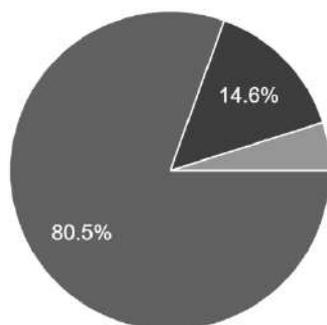
41件の回答



- ① オンデマンド（見たいときに見られる）と対面による講座
- ② オンライン（インターネットで同時に見られる）と対面による講座
- ③ オンデマンドのみの講座
- ④ オンラインのみの講座
- ⑤ 対面のみの講座

問9：あなたが1回の研修で受講しやすい時間を教えてください。

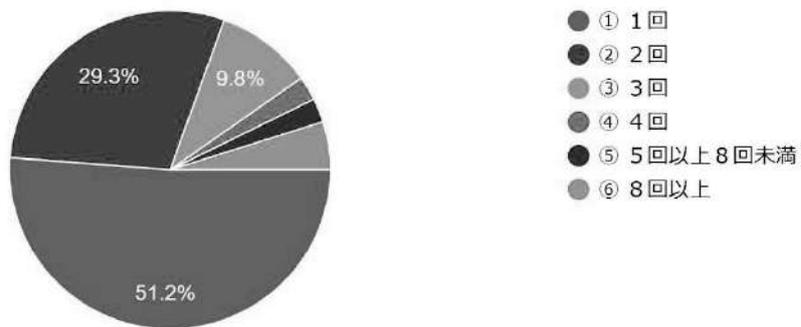
41件の回答



- ① 1～2時間
- ② 2～3時間
- ③ 3～4時間
- ④ 5～6時間

問10：受講回数が何回ならば受講したいか教えてください。

41 件の回答



令和5年度

専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業
これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる
最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証研究事業

発行年月日 令和6年3月14日

発行 小川 全夫（事業代表者）

編集 小林 英一（事業責任者）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-6 宇田川ビル 6階

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター

Tel: 03-3200-9074 Fax: 03-3200-9088

印刷・製本 名鉄局印刷株式会社 東京営業所

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1丁目 6番7号九段 NIビル 2F

Tel: 03-3263-0141 Fax: 03-5276-7709